

地域連携 学生フォーラム *in Osaka 2023*

報告集

大阪の3つの輪・和・話
～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～



目 次

○はじめに	1
○次第	2
○発表概要	
学生発表① 摂南大学 松塚健康プロジェクト、地域医療実践演習 超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援	3
学生発表② 阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室 西成 WAN の実働	18
学生発表③ 阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室 復活！外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！	33
学生発表④ 8 大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・ 相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学） 公衆栄養関連学部各ゼミ 府内 8 大学連携「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」 学生プロジェクト	46
学生発表⑤ 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志 子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり	61
学生発表⑥ 大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター V-station シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”	77
学生発表⑦ 大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」 既存団地の活性化	94
学生発表⑧ 大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ 大学・学生発：SDGs イベントの実践と効果 - SDGs × 地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化	110
学生発表⑨ 追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト 農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる	125
○当日の様子	140
○参加者アンケート	143
○学生運営メンバーの活動	155
○広報用チラシ	160

はじめに



特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪
地域連携部会長 須原 祥二
(四天王寺大学 学長)

地域連携学生フォーラムは、大学コンソーシアム大阪の会員大学の学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等の内容についての発表や交流を目的に、年に一度開催しています。この発表交流会を通じて、学生の活動に取り組む意識向上や自己点検を促進するとともに、地域との連携を行ううえでの配慮すべきポイントやノウハウを会員大学や自治体関係者等で共有し、会員大学における地域連携活動の活発化を目指す機会としています。

今回は「大阪の3つの輪・和・話 ～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～」をテーマに、13大学の学生による9事業の発表のほか、交流企画として大阪にまつわるクイズ大会や、「万博後の大阪を想像してみよう」をテーマとしてSDGsが達成された理想の大阪を描くワークショップを通じて、各事例からの学びと相互交流の場が設けられました。

また、本フォーラムは「学生による学生のためのフォーラム」を目指し、学生主体の企画・運営によって開催しています。今回は7大学11名の有志学生が約5か月間にわたる準備と当日の運営を務め、発表学生の支援のほか、上述の学生のアイデアによる交流企画を実施しました。

このような事例共有や交流を通じて、参加者においては各大学の特色を生かしながら、その地域やその地域の方々との関係性ならではの地域連携活動が進められていることを知り、またそれに刺激を受けながら、今後の活動への応用や工夫に繋げるきっかけとなったことと思います。

この報告集は、9事業の活動内容や本フォーラムを支えた学生運営メンバーの活動内容をまとめたものであり、皆様の活動に広くお役立ていただければ幸いです。

最後に、本フォーラムの開催に際し、ご協力いただいた関係各位に心より御礼申し上げます。

2024（令和6）年1月

地域連携 学生フォーラム in Osaka 2023 次 第

- ◆日 時：2023（令和5）年10月22日（日）10：00～16：30
- ◆会 場：グランフロント大阪 北館タワーC 8階
ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02
- ◆テーマ：大阪の3つの輪・和・話 ～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～
- ◆スケジュール：

	時 間	発表大学・団体	内 容
第 1 部	10:00-10:15	開会あいさつ（趣旨説明・推進委員 紹介）	
	10:15-10:35	学生発表① 摂南大学 松塚健康プロジェクト、地域医療実践演習	超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援
	10:35-10:55	学生発表② 阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室	西成 WAN の実働
	10:55-11:15	学生発表③ 阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室	復活！外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！
	11:15-11:25	アイスブレイク①	
	11:25-11:35	休憩	
	11:35-11:55	学生発表④ 8大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ	府内8大学連携 「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」 学生プロジェクト
	11:55-12:15	学生発表⑤ 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志	子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり
12:15-13:15	昼食休憩		
第 2 部	13:15-13:35	学生発表⑥ 大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター V-station	シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”
	13:35-13:55	学生発表⑦ 大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」	既存団地の活性化
	13:55-14:05	アイスブレイク②	
	14:05-14:15	休憩	
	14:15-14:35	学生発表⑧ 大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ	大学・学生発： SDGs イベントの実践と効果 - SDGs×地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化
	14:35-14:55	学生発表⑨ 追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト	農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる
14:55-15:10	推進委員からの講評・閉会あいさつ		
15:10-15:20	交流会準備		
第 3 部	15:20-16:30	交流会	

◆参加者

	人数
発表学生	50名
観覧者	23名
学生運営メンバー	10名
部会長・推進委員等	6名

計 89名

学生発表①

■摂南大学 松塚健康プロジェクト、地域医療実践演習

活動テーマ	超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援
活動場所	交野市松塚地区と周辺地区
連携先	松塚地区連絡協議会、郡津小学校福祉校区委員会、交野市社会福祉協議会
活動主体	摂南大学松塚健康プロジェクト、地域医療実践演習

1. 活動概要

本活動は、2017年度より行っている。

活動場所となる交野市松塚地区は、高齢化率48%の都市部地域であり、健康調査の結果、①循環器症状のある者が多い、②自分なりの健康観を持ち、「自分の健康への自信」と「不安」の混在した感情を有している、③地域のつながりの希薄化と地区組織活動の担い手不足と担い手が高齢である、④子どもの減少による世代間交流や高齢者交流の減少を招いていることが分かった。そこで、本活動では①疾病予防（生活習慣病予防、フレイルの予防と早期発見・支援等）、②健康増進（健康な生活習慣、認知症・介護予防、健全な子育て支援等）、③安全安心な街づくり（世代間交流、高齢者交流、育児交流、環境整備・美化等）に焦点をあて活動を進めてきた。2023年度はCovid 19の感染予防に留意し地域福祉ネットの活動と大学の健康づくり活動をつなげ、体力測定会、健康チェック、夏休み子ども塾など住民中心の健康づくり活動の支援を行っている。

2. 年間計画

1) 企画イベントの実施：

- ①アクティブエイジング健康チェック（体重、身長、体組成、握力、足指圧、血管年齢、口腔機能、血圧などのバイタルサイン）を小規模のものを年1回（7月）実施する。大規模なものを年1回（11月）実施する。
- ②体力測定会を年1回実施する（6月）。
- ③子どもの夏休み学習支援（子どもの居場所づくり支援）を実施する（8月）。
- ④フレイル予防のための健康講座・演習を実施する（11月）。

2) 健康情報の提供：

- ①健康だよりを年4回（4月、7月、10月、1月）発刊する。
- ②健康学習会の開催（7月、11月）

3) 地域住民との交流：

- ①地行事（防災訓練、クリスマス会）への参加（11月、12月）
- ②大学1年生と高齢者の交流会（2月）

3. 活動成果

活動前に地域の既存資料の分析や地区踏査を行い、現在までに以下の活動を行っている。

1. 体力測定会を6/30に実施。以前の体力測定会参加者を対象に認知機能検査、血管年齢検査、体力検査を行った。
2. 健康だよりは7月号に「隠れ脱水予防」を掲載し配布した。10月号に「秋バテ対策」を掲載予定。
3. 健康学習会を7/5に実施。地区在住の女性とスマホクラブ員を対象に「骨密度のお話し」と題して、骨密度と骨粗しょう症の予防について学習会を行った。参加者は25人であった。
4. 小規模健康チェックを7/23に実施。「いつまでも若々しく！！健康でいよう！！さあ健康チェック！！」をテーマに、骨密度、体組成、握力、足指圧、口腔機能、血圧、ヘモグロビンなどの測定と健康相談を行った。35人の参加があった。
5. 夏休み子ども塾を8/19（松塚地区）と8/20（郡津・幾野地区）に実施。内容はケミカルフラワー、備長炭電池、発泡スチロールの飛翔実験を行った。子ども数は計14人であった。

4. 地域からの評価

活動の参加者アンケート、地区役員から言動より抜粋する。

1. 健康学習会では、「理解できた」の解答が96%あり、感想として、①あやふやな理解が明確になった。②この3年間で運動量が減った。これからとりもどす。③ウォーキング、食事、日光浴に気を付けているが骨密度はDであった。等があった。
2. 小規模健康チェックの参加者からは、「前回以後、健康に良い行動をしている人」が多く、参加者全員が次回も参加したいと希望していた。感想として、①90歳で年齢を感じるが健康に気を付けたい。②どなたも話しやすく親切だった。③毎年実施してほしい。等があった
3. 夏休み子ども塾では、地区役員から「参加する子どもの数が少なく学生さんたちに申し訳ない。しかし、参加した子どもは、興味津々に楽しく参加していた。小学校では実験系のものが少なくなっているのでこのような内容は良かった。大人も楽しめた。」という声が聴かれた。

5. 参考 WEB サイト

シニア松塚通信 <http://www7b.biglobe.ne.jp/~s-matuduka/>

6. 活動メンバー

地域医療実践演習受講者17人

（代表：看護学部4年 井上 文乃、品川 遥、外川 美月、西原杏理沙、吉田 愛梨）

看護学部4年生保健師専攻課程学生 織田望乃理、中岡 りま

ボランティア 看護学部2年生 竹中 優音、西川 友輝、八木 琴香、吉岡龍之介

摂南大学ボランティア部じょいふる

7. 担当教員

看護学部 准教授 小川宣子
看護学部 講師 山本十三代、足立安正、村瀬由貴
農学部 准教授 畦西克己
薬学部 教授 高田雅弘

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	摂南大学
所属先・職名	看護学部・講師
氏 名	山本十三代
連絡先	電 話 090-4273-0109
	メー ル t-yamamo@nrs.setsunan.ac.jp

9. 活動の様子



6月 体力測定会の様子

8月夏休み子ども塾の様子



2023年7月 松塚地区

 **健康チェック**
参加者募集中! 

梅雨開けが待ち遠しい季節となりましたが、
お身体の調子はお変わりなくお過ごしでしょうか。
今年度も、**摂南大学の学生**が健康チェックを行います。
お会いできることを楽しみにしています。
※健康チェックファイルをお持ちの方は、ご持参ください。



日時:2023年7月17日(月)
時間:13:00~15:00 場所:ふれあい館 集会室

募集人数・募集対象	30名程度の募集です。どなたでも参加できます。 (年齢・性別は問いません)
応募方法	参加を希望される方は、別紙に必要事項をご記入下さい。 (応募多数の場合は、厳正な抽選で決定いたします。)
申込締め切り	2023年6月19日(月)~6月30日(金) *申込用紙に記録の上、班長様にお渡しください。 (班長様は7月の自治会定例会にご持参ください。)

主催:摂南大学 松塚健康プロジェクト
(お問い合わせは、070-6510-5196 山本十三代まで)

超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援

地域医療実践演習受講者（17人）

代表:看護学部4年 井上文乃、品川遥、外川美月、西原杏理沙、吉田愛梨
看護学部4年生保健師専攻課程学生 織田望乃理、中岡りま
ボランティア 看護学部2年生 竹中優音、西川友輝、八木琴香、吉岡龍之介
摂南大学ボランティア部「じょいふる」

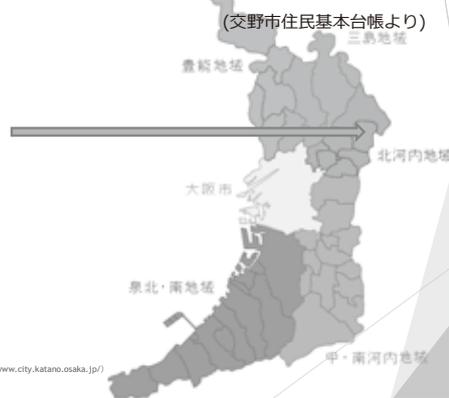


松塚地区について(地区踏査4月と既存資料より)

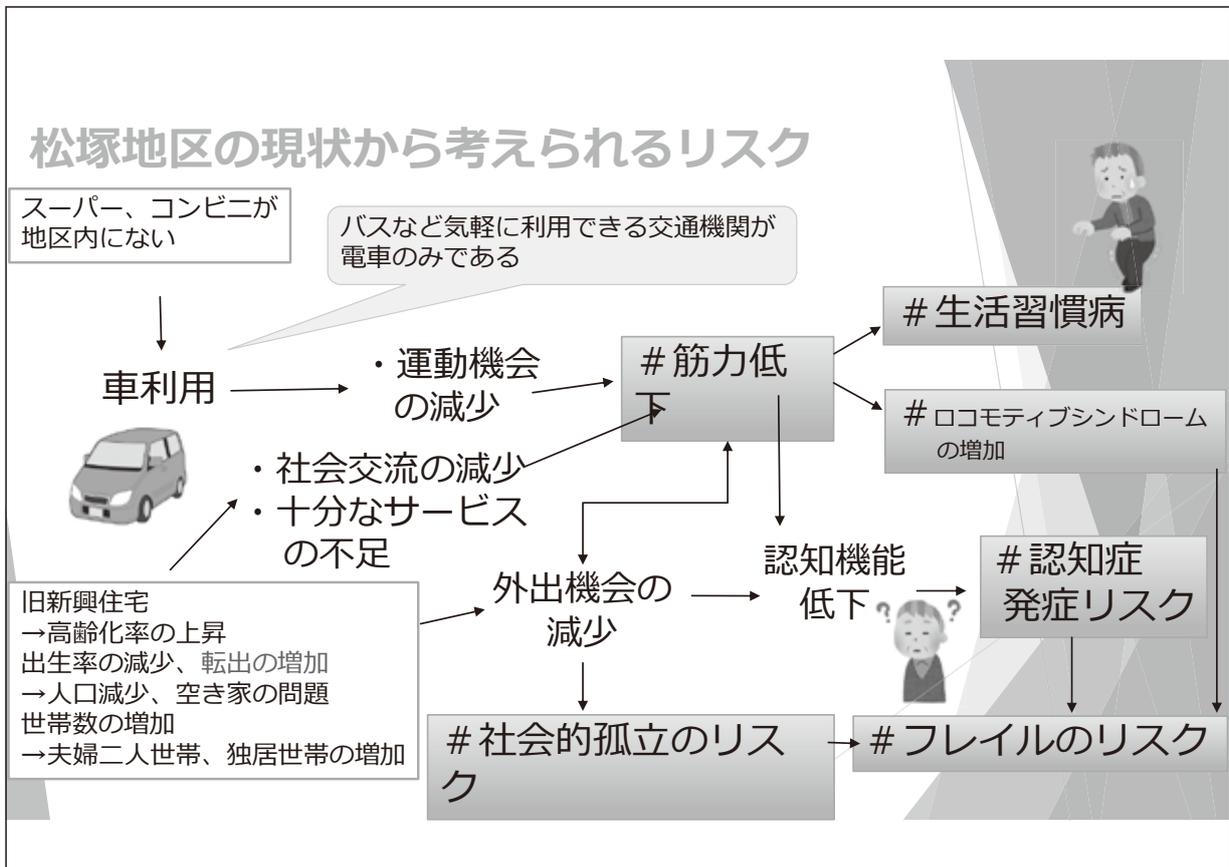
- ▶ 交野市は大阪府と奈良県の県境に位置し、東側と南側が山に囲まれる地形となっており、市の中央部を天野川が流れている。天の川伝説がある。
- ▶ 松塚は枚方市との境にあり京阪郡津駅の東側に位置する。
- ▶ 幾野、郡津、梅が枝とともに「こうづ」地域とされる。
- ▶ 2023年4月の人口は1402人、世帯数719であり、郡津小学校区域では最も少ない。
- ▶ 65歳以上の人口は680人であり高齢化率は48.5%で、交野市の中では最も高齢化率が高い地域である。



交野市HP (<https://www.city.katano.osaka.jp/>)



(交野市住民基本台帳より)



活動の年間計画

2023年3月 松塚地区役員と2023年度の活動方針について検討会を持つ。

1)企画イベントの実施：

- ★①体力測定会を年1回実施(6月)。
- ★②アクティブエイジング健康チェック(体組成、握力、足指圧、骨密度、ヘモグロビン値、口腔機能、血圧などのバイタルサイン)を年2回実施(7月、11月)。
- ★③子どもの夏休み学習支援(子どもの居場所づくり支援)を実施(8月)。
- ④フレイル予防のための健康講座・演習を実施(11月)。

2)健康情報の提供：

- ★①健康だよりを年4回(4月、7月、10月、1月)発刊。
- ★②健康学習会の開催(7月、11月)

3)地域住民との交流：

- ①地行事(防災訓練、クリスマス会)への参加(11月、12月)
- ②大学1年生と高齢者の交流会(2月)



体力測定会 (6/30)

～体力測定で今の自分を知り、健康活動につなげよう！

- ・目的：体力測定により、健康行動を見直す。
測定会に参加して、近隣住民と交流する。
- ・参加人数：24名
- ・測定項目：
①身長・体重②腹囲③血管年齢④握力⑤6m歩行速度
⑥手指の器用さ⑦長座体前屈など



体力測定会参加者の声

【アンケートのコメントより】

- 楽しみながら健康チェックができる。過去のデータと比較ができるので、毎回楽しみにしています。
- 自身のコンディションを知る為、毎年参加し各数値にドキドキ、悪くなっていないか？と気にしています。いつもありがとう！！
- 今の自分の健康状態が分かり良かった。
- 定期的にチェックを受けることが大切でこれからも続けて頂きたい。
- 測定することが運動になってよかった。初めての体験が多く、今後もやっていただいたら参加したい。
- また次の機会参加したいです。

シニア松塚通信7月号

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~s-matuduka/>

に載せていただきました。

コロナ以降はみんなで会う機会も減っていた。久しぶりに顔が見れた参加者もいてよかった。



地区長様より

小規模健康チェック (7/17)

～目指せ長寿 健康を作る第一歩 さあ健康チェックへ！～

2023年7月 松塚地区

健康チェック 参加者募集中!

梅雨明けが待ち遠しい季節となりましたが、お身体の調子はお変わりなくお過ごしでしょうか。今年度も、摂南大学の学生が健康チェックを行います。お会いできることを楽しみにしています。

※健康チェックファイルをお持ちの方は、ご持参ください。

日時: 2023年 7月 17日(月)
時間: 13:00～15:00 場所: ふれあい館 集客室

募集人数・募集対象	22名程度の募集です。20名でも参加できます。 (年齢・性別は問いません)
応募方法	参加を希望される方は、詳細に必要事項をご記入下さい。 (応募多数の場合は、抽選で決定いたします。)
申込締め切り	2023年 6月 19日(月)～6月 30日(金) ※申込用紙に記載の上、郵筒へお入れください。 (投票箱は7月の自治会費納付会にご持参ください。)

主催 摂南大学 松塚健康700up
(お問い合わせ先: 070-6510-1198 松塚十市地区長)

・ 目的：
高齢者自身が健康状況の把握と見直しを行い、健康的な生活につなげる。

・ 募集人数：約30名(申し込みは31名であった)

・ 応募方法：左記のチラシと申込用紙を小ブロック毎に回覧を行い、申込用紙に必要事項を書いて松塚連絡協議会会長宅のポストに投函する。

・ 健康チェックの項目：

- ①血圧測定②酸素飽和度測定③握力測定④口腔機能測定⑤ヘモグロビン測定⑥足趾握力筋測定⑦骨密度測定⑧体組成測定⑨健康相談（アンケート）

・ 方法：

実施時間は2時間の予定であるため、密をさけるため30分に8人とし運営した。対象者には、電話で時間を伝え、早く来られた方には待合い椅子を設けた。

小規模健康チェック 実施風景

当日の参加者:36人



アンケート結果

1.参加者の属性 当日の参加者は36人

- ▶ 性別:男性12人 (33%)、女性24人 (67%)
- ▶ 年齢:50代2人 (6%)、70代14人 (39%)、80以上20人 (56%)
- ▶ 現在の健康状態(主観的):健康である13人 (36%)、どちらかと言えば健康な方である15人 (42%)、あまり健康でない7人 (19%)、健康でない0人 (0%)、未記入1人

2.健康のために日頃から行っていること n=36

	(%) そう思う	どちらでもない	そう思わない
・ 家で定期的に健康指標を測っている	78	8	14
・ バランスの取れた食事をする	64	25	12
・ 適度な運動をする(ウォーキング、ジョギング、フィットネス等)	70	8	21
・ 睡眠を充分にとる	67	19	14
・ 規則正しい生活をする	82	9	9
・ 便秘を気にしている	75	14	11
・ 健康補助食品(サプリメント)を摂る	31	11	57
・ ストレスを溜めない	64	31	6
・ 定期的に健康診断を受診する	74	23	3
・ お酒を控える	56	18	27
・ タバコを控える	59	15	27
・ 趣味を楽しむ	69	19	11

3. 本日の健康チェックの結果について n36

	(%)	そう思う	どちらでもない	そう思わない	無回答
・ 血圧測定の結果は良かったですか？	78	16	6	6	
・ 酸素飽和濃度測定の結果は良かったですか？	89	6	3	2	
・ 口腔機能測定の結果は良かったですか？	91	6	3		
・ ヘモグロビン値の測定結果は良かったですか？	86	6	6	2	
・ 骨密度測定の結果は良かったですか？	64	19	17		
・ 握力測定の結果は良かったですか？	66	17	17		
・ 体組成測定の結果は良かったですか？	66	25	9		
・ 足指筋力測定の結果は良かったですか？	67	21	12		
・ 健康チェックの説明は良かったですか？	86	11	3		
・ 健康相談をして不安や悩みは和らぎましたか？	71	23	6		

4. 健康チェックの必要性について

- ▶ 前日も健康チェックに参加した人の中で、「前回以後、健康に良い行動をしている人」は82.6%であった。
- ▶ 参加者全員が次回も参加したいと希望していた。

5. 感想・要望について

差が知りたい（自分の値と基準値の差が詳しく知りたい）。
 毎回ありがとうございます。今後も続けていきたい。
 定期的に継続していきたい、健康だよりもファイルしています。
 学生さん、有難うございます。

夏休み こども塾 (郡津小学校区福祉委員会とのコラボ企画)

～科学工作

「備長炭電池と化学の華(ケミカルフラワー)を作ってみよう」～

ボランティア学生(6人)とボランティア部じょいふる(2人)

日程: 8/19(松塚地区)と8/20(郡津・幾野地区)

参加者: 14人(1年生～5年生)

内容: 午前「化学の華(ケミカルフラワー)」、

午後「備長炭電池」「発泡スチロールの飛翔実験」 あいまにちょこっと勉強

趣旨: 身のまわりにある材料を使ってケミカルフラワーや電池、飛翔実験の作成を行う。

尿素の水溶液から、美しい結晶を作る実験を行い科学に興味をもってもらう。

また、電子や電流について興味を持ち、電気のエネルギーに関心を持ってもらう。

飛翔実験では気流を起こして物を飛ばす体験で楽しんでもらう。

実施: 次のスライド

子どもたちの反応: とても熱心に取り組んでくれた。最後に「楽しかったですか?」という問いに全員が大きく「はい」と手を挙げてくれた。

僕たち、私たちがお手伝い♥
楽しんでもらえたかな。



役員の方から: イベントでは、学生さんたちに全てお任せし、子どもたちの笑顔をゆっくり傍から見学させていただきました。会の終わりで、リーダーからの「今日は楽しかったですか?」に、子どもたちは大きな声で「はい!」と返事していました。子どもたちは、作った作品を大事に抱えて、元気に帰って行きました。本当にありがとうございました。

子ども塾の 実施風景

ケミカルフラワー作り



きれいな花
が咲きまし
た。

備長炭電池作り



見えるかな。
豆球がついてるよ!

発泡スチロールの飛翔実験



健康だよりの作成(7月、10月)



- 健康だよりは2018年7月から松塚健康プロジェクトが年4回の季刊誌として松塚の住民に向けて発刊している。
- 学生は健康だより第21号(7月)、第22号(10月)を作成
- 第21号(7月)では『きっとあなたも「かくれ脱水」！？』をテーマに、かくれ脱水の症状や水分補給の方法を掲載した。
- 第22号(10月)では『秋バテになっていませんか?～旬の野菜を食べましょう～』をテーマに秋バテの症状やを掲載した。
▶それぞれの発刊時期を考え、注意する健康障害の症状や不足しがちな栄養分に焦点を当てたテーマとした。
- 認知機能が低下した高齢者にも伝わりやすいような編集を意識して行った。
▶①イラスト：イメージが容易
②太字：重要な箇所
③原色の使用：高齢者が認識しやすい色の選択
④内容：情報の取捨選択や言い回しを考慮し内容を変更

健康だよりの効果

- 小規模健康チェック時のアンケートで、
36人中30人が「健康だよりを知っている」と回答（約83.3%）。
- また、自由記載欄に「健康だよりもファイルしています。」との記載があった。
- 現時点では、日常生活で脱水症、秋バテ対策に取り組んでいるかどうかの判断はできていない。
☞ 次回の健康調査時に「健康だよりの内容を日常生活に取り組んだか」を追加していく。
- 対象者が関心のある健康課題についての情報提供を健康だよりを通して行う。
☞ 食事・運動指導等の声が寄せられた。

健康学習会(7/5)

骨密度のお話しー強い骨でイキイキ生活ー

お知らせ!

7月5日PM1:00から

摂南大学「骨密度のお話し」

シニアだけでなく、自治会にも広く呼びかけて、30人程度募集します。人数なり次第締めきりです。骨密度はシニアの女性にとって大事な問題です。お知らせがあったら早めに申し込んでください。

摂南大学看護学部保健師専攻による
<健康学習会のお知らせ>
骨密度のお話しー強い骨でイキイキ生活ー

こんにちは！お話しを聞き、健康学習会を開催させていただきます。
今回は女性の骨に多く集まって頂き、「骨密度」について一緒に学習できればと思います。もちろん、女性の骨も一緒に学習ができればと思います。皆さまがご参加いただけることを楽しみにしております。

日時：2023年7月5日（水曜日）
12:45～受付開始
13:00～15:00（内30～40分程度）
場所：松塚ふれあい館1階
対象：スマホクラブの方々とご希望者
30名程度
内容：骨密度とは？骨粗鬆症とは？
・予防が大切！
・バランスの良い食事を！
・効果的な運動とは？
特典！
本日、無料で骨密度測定ができます◎
摂南大学看護学部保健師専攻 藤江 一穂

シニア松塚通信

場所:松塚ふれあい館

対象者:松塚スマホクラブ会員と地区在住65歳以上の女性。

当日25名の方に健康学習会を実施した。

背景:

- 交野市の平均健康寿命は男性80.29歳・女性83.68歳で大阪府と比べると男女共に上回っている。
- 松塚地区は、高齢化率が48.5%
- 骨密度は男女共に加齢とともに低下し、閉経後の女性の骨密度低下は顕著
- 松塚地区の女性の地区イベントへの参加が少ない(地区長より)。
- 骨密度の低下は生活の見直しで予防できる。

目的:骨密度に関する知識を深め、興味関心を持ってもらい、骨密度低下を少しでも抑えるために予防行動を取ることができるようになる。



**バランスの良い食事
・おすすめ食材！**

※ネット菓子・インスタント食品の過剰摂取は
食材によっては使用されている薬と相互作用の強い場合
があるため、正しく適切な摂取方法を！

カルシウム + ビタミンD + ビタミンK = 骨の形成に役立つ

摂取目標量は
1日700~800mg
牛乳、乳製品、
小魚、干しエビ、
小松菜、チンゲン菜、
大豆食品など

カルシウム吸収をよくする
サケ、ワナギ、サンマ、
カレイ、シイタケ、
キクラゲ、納豆など

カルシウムの吸収・
骨形成を促進する
納豆、ホウレン草、
小松菜、ニラ、
アロココリン、
キャベツなど

実施

- ①自己紹介
- ②骨密度とは？骨粗鬆症とは？
- ③骨粗鬆症の予防について
- ④バランスの良い食事・おすすめ食材！（カルシウム食材クイズ）
- ⑤骨を強くする運動とは？
(スマホの無料アプリ、歩数計など紹介、ストレッチの実施)
- ⑥骨密度を測定しましょう！（データーの見方を説明）
- ⑦おさらいクイズ
- ⑧まとめ・アンケート

留意点・工夫点

- ・専門用語を使わず、分かりやすく簡潔に説明する。
- ・聞き取りやすい声(大きさ、スピード、トーン)で行う。
- ・一方的な講義にならないよう参加者の反応を見ながら進めていく。
- ・参加型の学習会とする。
- ・パワーポイントは、見えやすい色と文字の大きさ、イラストを使用する。
- ・「問題に気づく」ことを目標とし、投げかけ・説明・指示を意識しながら実施する。
- ・運動の実践では、安全に留意しながら、けがなどしないよう気を付ける。

アンケート結果

女性19人、男性6人
70代12人、80代12人、90代1人 平均79.9歳

	(人)はい	いいえ	どちらでもない	
骨密度について理解が深まりましたか？	23	2	0	0
骨が弱くなるのを予防することに興味を持ちましたか？	25	0	0	0
適度な運動が骨を強くすることを理解しましたか？	25	0	0	0
予防のため食事に取り入れたい食材は理解できましたか？	23	0	2	2
実際にやってみようと思った予防はありましたか？	21	1	3	3

骨ウェーブ結果を教えてください。(A・B・C・D・E)	(人)A	B	C	D	E	
	0	15	6	0	0	0

感想

- ・転んで2度骨折をしています。1番気を付けているのは転ばないことですが、色々注意いただき納得しますが高齢が邪魔をし実現は難しいのですが... (80歳代女性)
- ・あやふやな理解が明確になりました。(70歳代男性)
- ・この3年間で運動量が減りました。これから取り戻そうと思います。(80歳代女性)
- ・年とともに歩きにくいですが、なるべく室内を歩くようにしています。食事はいろいろ考えています。(80歳代女性)
- ・運動をするように気を付けます。(80歳代女性)
- ・ウォーキング、食事、日光浴に気を付けていますが、Dでした。(70歳代女性)

質問内容

- ・androidスマホでアプリをダウンロードしてほしい。
- ・骨のターンオーバーの期間は？
- ・1日1万歩以上歩く日もあるけど大丈夫？
- ・骨粗鬆症の注射について教えてほしい

活動の今後の予定

1)企画イベントの実施：

①アクティブエイジング健康チェック(体組成、握力、足指圧、骨密度、ヘモグロビン値、口腔機能、血圧などのバイタルサイン)を年2回実施(7月、11月)。

2)健康情報の提供：

①健康だよりを年4回(10月、1月)発刊。

②健康学習会の開催(11月)

→防災フェスタ2023の中で災害時に備えて薬手帳の管理について薬学部5年生が講演

3)地域住民との交流：

①地の地域行事(防災訓練、クリスマス会)への参加(11月、12月)

②大学1年生と高齢者の交流会(2月)



この活動を通しての思い・今後の展望

・自分が考えていたよりも、高齢者は健康に興味を持ち、自分の身体と向き合い、生活されていることを学んだ。

・地区踏査や活動を行うことで、地域の人の声を聴くことができ、地域の人々の寄り添う支援の一步となることが分かった。

・活動の継続が地域で暮らす人がお互いの健康を見守りながら、個人も健康に関心をもって暮らしていることがわかった。

・様々なイベントの参加で、日常生活行動を具体的に振り返ることができれば、自身の健康行動を見直すきっかけづくりになると感じた。

・病院から退院していく患者様にも地域の健康活動の参加を促すことができたらいと考えた。

・高齢者と学生の交流は相互に精神的な安寧や幸福感をもたらすことができ、アクティブエイジングを促すことができる。

・健康チェックの参加者は後期高齢者が多かった。加えて、高齢者の方からも、「地区組織活動を担う人の高齢化が進んでいる」との発言があった。子どもが少ない地域であるからこそ、子どもたちを大切にしたい子どもたち向けの活動も松塚福祉ネットで考えられていた。

・現在地区組織活動の中心となっている人は後期高齢者であり、若い人の担い手が少ないため、次の世代へ引く次ぐことが困難となっている。

そのため今後も、地区組織活動が継承されていくために、摂南大学看護学部・薬学部・農学部は松塚地区住民と各関係機関との協働でフレイル予防活動や子ども塾など住民中心の健康づくり活動を継続していくことが大切である。



ご清聴ありがとうございました。

学生発表②

■阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室

活動テーマ	西成 WAN の実働
活動場所	大阪市西成区
連携先	松村嘉久（西成 WAN 実行委員長）・SHINGO★西成（西成 WAN 総合プロデューサー）・柳洋輔（西成 WAN アートプロデューサー）・西成区役所・南海電鉄・阪堺電車・H2O 商業開発・ミナミまち育てネットワーク・今池こどもの家・Red Bull ほか
活動主体	阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室のゼミ生

1. 活動概要

西成 WAN (Nishinari Wall Art Nippon) は、地域の子どもたちや住民にも参加を働きかけ、心無い落書きを消して、アーティストが本気でウォールアートを描き、それを見に来る人たちを地域へ呼び込み、人が集い賑わうことで街の安全や安心を高めるまちづくり活動です。西成 WAN では2014年秋の活動開始当初から、阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室の歴代ゼミ生たちが実働部隊として関り、これまで活動を支援し続けてきました。

私たちゼミ学生は西成 WAN において、関係者間の日程調整から会議設定まで、さらには会議の議事録作成と情報共有も行い、実質的な事務局機能を担っています。加えて、子どもたちとのワークショップなど地域連携活動も行い、アート制作時は、現場で準備や下塗りなどの実働を行いつつ、アーティストや子どもたちの作業を支援しています。今年からは、Instagram での情報発信も担当し、資金獲得に向けて、クラウドファンディングを企画して宣伝活動も展開しています。

2. 年間計画

2023年度は6月末、サンスーク花園商店街の壁に、H2O商業開発・今池こどもの家・西成区役所との協働で、アート【SUN49 STREET】を描きました。23年度最大の課題は、西成 WAN 活動資金の獲得で、2023年8月1ヶ月間の予定で、クラウドファンディングをゼミ生が企画・調整して実施。そこで獲得できた資金を使って、2023年9月4日からの週に阪堺電車「北天下茶屋駅舎」、9月18日からの週に同「天神ノ森駅舎」にアートを描く予定です。クラウドファンディングで集めた資金が余ったら、順次、西成区内の壁や阪堺電車の駅舎にアートを描き続け、後輩たちへ活動を引き継いでいきます。

3. 活動成果

西成 WAN では、松村研究室の先輩たちが2015年1月完成の第1弾から、最近の第12弾まで関わってきましたが、私たちが直接関わった活動は以下の通りです。

西成 WAN 第9弾 阪堺電車「今船」下り駅舎：2021年9月8日完成

西成 WAN 第10弾 阪堺電車「新今宮駅前」上り・下り駅舎：2022年6月26日完成

ニュース報道：<https://www.youtube.com/watch?v=-ixRY9h3ui4>

西成 WAN 第11弾 阪堺電車「聖天坂」上り・下り駅舎：2022年9月24日完成

ニュース報道：<https://www.youtube.com/watch?v=AX5TXbQojUM>

西成 WAN 第12弾 サンスーク花園商店街 (SUN49 STREET)：2023年6月27日完成

第12弾では、地域の子どもたちの参加を促すため、今池子どもの家と連携して、6月5日（月）、6月19日（月）にワークショップを行い、子どもたちとの信頼関係を築いた。この他に、6月から西成 WAN の Instagram をつくって情報発信を始め、活動資金獲得のため、クラウドファンディングも立ち上げました。本報告が行われる頃には、「北天下茶屋駅舎」「天神ノ森駅舎」のアートも完成しているであろう。

4. 地域からの評価

西成区役所は市民協働課を中心として、活動開始当時から西成 WAN を後援し続けてくれているそうです。サンスーク花園商店街の第12弾の現場にも、臣永正廣（西成区長）ほか区の職員らが、現場を激励しにいられていました。

西成 WAN でアートを描いていると、地域の住民の方々から色々と差し入れをいただき、「きれいになったわ」とか「明るくなったわ」とかのお声のほか、通りすがりの方から「ありがとう」と感謝されることもよくありました。

連携先の H2O 商業開発の担当者は、毎日アートの前を通るが、誇らしく思う、とおっしゃっていました。今池こどもの家からは、「子どもたちは学生さんたちと一緒に遊べたこと、めっちゃめちゃ楽しかったようで、喜んでます。「スプレーでお絵描きした。」と自宅でも話しているようです。大成功です！」というメールをいただきました。

第9弾からの西成 WAN の実働を通して、西成 WAN はもう西成に欠かせない存在に成長していて、地域から期待されていることを強く感じました。私たちはこの活動を、後輩たちへ引き継いでいきたいと思っています。

5. 参考 WEB サイト

クラウドファンディング『西成 WAN で街に賑わいを！』

https://camp-fire.jp/projects/view/676305?list=search_result_projects_popular

インスタ <https://instagram.com/nishinari2023?igshid=MjEwN2IyYWYwYw==>

6. 活動メンバー

【4年生】岩崎 加納・尾中 帆希・何 雨家・川野 愛実・熊谷 萌衣・毛見ひとみ・坂口 乃彩・是井 望見・高瀬 勇輝・張 雲翔・西本 果鈴・天満 百香・八島 彩音・山田奈々実

【3年生】奥山 凜・加藤 靖菜・佐藤 美咲・鹿田 穂花・鈴江 咲希・多田穂乃香・田中 志樹・谷浦寿々音・戸川 末唯・藤原知佳子・宮司隆之介・山尾 百香・山口 潤

【2年生】小倉由紀乃・川嶋 一輝・川合 絢己・勘田 朱里・佐野なみき・鈴木 智澄・半田 萌恵・藤田 遥香・古川 竣・光藤 千尋・村戸 陽一・山口 蒼空

【1年生】池田真登香・斎藤 花梨

このうち、事務局機能を担当している西成WAN支援学生は、八島彩音（統括）・是井望見（リーダー）・奥山凜（クラウドファンディング担当）・鈴江咲希・藤原知佳子・藤田遥香・村戸陽一・池田真登香。その他のゼミ生らも全員、実働部隊として関わっている。

7. 担当教員

阪南大学国際観光学部・教授 松村嘉久

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	阪南大学
所属先・職名	国際観光学部国際観光学科・教授
氏 名	松村 嘉久
連絡先	メール matsumuy@hannan-u.ac.jp

9. 活動の様子



第12弾「SUN49 STREET」制作現場にて



第11弾「聖天坂駅舎」の下塗り作業の様子

西成WANの実働

阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室

八島彩音*・是井望見*・天満百香・坂口乃彩・
尾中帆希・川野愛実・山田奈々実・西本果鈴・持山好・
奥山凜・藤原知佳子・田中志樹・鈴江咲希

西成WANとは？

- 西成 W (Wall) A (Art) N (Nippon) のこと
 - 心無い落書きを本気のアートで塗りつぶして、まちに変革をもたらす「まちづくり活動」であり「アート活動」でもある
- 総合プロデューサー：SHINGO★西成（ラッパー）
- 実行委員長：松村嘉久（阪南大学国際観光学部）
- 西成WAN実働部隊：歴代松村ゼミのゼミ生たち
 - 2019年末までは新今宮TICを拠点に活動
- 西成WANを構想したきっかけ
 - SHINGO★西成が新今宮TICへ来訪し相談
 - 「閉塞感バリバリ、一緒に何かやりませんか」
 - 「でっかいアートを描きたいけど場所が無い！」
 - 「手伝ってくれるアーティストはいます」
 - 松村研究室の伝統
 - 誰もやったことがないなら、やったもん勝ち！
 - 成功とか失敗は二人目から、やろうや！



西成WANが掲げた目標

- 西成WANの理念や目標などは当時の松村ゼミで議論
- まちづくり活動として
 - 落書きされては消すと言ういたちごっこから脱却する
 - 本気のアートを描いたら、それをわざわざ見に来る人ができて賑わい、ヒトの目で安全や安心を確保できる
 - 変えようとしても変わらない、変わろうとしても変わらない地域の閉塞感から脱却できる
 - 子どもたちや地域の人にも参加を働きかけ、達成感や自尊心を育み、まちへの愛着や誇りを醸成する
- アート活動として
 - 誰でも見れる壁や公共空間にアートを描き、アートをみんなで楽しめるようにする
 - ストリートアートやグラフィティの市民権を獲得する
 - アーティストが活躍できる場を、西成から日本各地へ

西成WANのこれまでの実績

- 2015年1月：第1弾「ここから いまから」
- 2015年9月：第2弾「アセラズクサラズアキラメズ」
- 2016年12月：第3弾「12Artistsの競演」
- 2017年4月：第4弾「ビジネスホテル和光」
- 2018年11月：第5弾「新今宮TIC壁面」
- 2019年3月：第6弾「ニチダイツリー」
- 2019年4月：第7弾「WET PAINT」
- 2019年10月：第8弾「Fringe Street Art Festival」
 - ゼミの先輩方から引き継ぐがコロナ禍で2020年は活動休止
- 2021年9月：第9弾「阪堺今船駅舎アート」
- 2022年8月：第10弾「阪堺新今宮駅前駅舎アート」
- 2022年9月：第11弾「阪堺聖天坂駅舎アート」
- 2023年6月：第12弾「SUN49 STREET」
- 2023年9月：第13弾「北天下茶屋駅舎」
- 2023年9・10月：第14・15弾「天神ノ森駅舎」





第9弾 阪堺今船駅舎アート

- 2021年9月8日完成：アーティストAME
- 協力：阪堺電車 万博共創チャレンジへの参加
 - AMEの指導のもとゼミ生らもベタ塗り支援でアート初参加
 - 実際は駅舎ではなく駅舎の隣の民家の壁！
 - 地域・町会・企業と連携する西成WANだからできた
- テレビ大阪『やさしいニュース』「大阪・西成 阪堺線の今船駅アートが完成！」2021年9月8日放送



第10弾 新今宮駅前駅舎アート

- 2022年8月26日（金）完成
 - 上りも下りも同時に実施
- グラフィティ界の巨匠と天才：**CASPER & JOE**
- 協力：阪堺電車
 - 阪堺社長「遠慮なく好きなように描いてください！」
 - C&J「本当にいいんですか、キャラクターとか入れて、思いっ切りいきますよ！」
 - 社長「構いません。全部、塗りつぶしてください。」
 - C&J「学生のみなさんも手伝って、ベタ塗りとか大変やから、一緒にやりましょう！」
- 協賛：ミナミまち育てネットワーク



ゼミ生らはベタ塗り支援 今船駅舎で経験済み



第11弾 聖天坂駅舎アート

- 2022年9月24日（土）完成 協力：阪堺電車
 - 上り・下り駅舎と駅舎裏を同時に実施
 - テレビ大阪『やさしいニュース』「西成の駅アート 彩り広がる」, 2022年9月29日（木）放送
- グラフィティ界のレジェンド：ZENONE & WA2
- 私たちはさび落とししやベタ塗り, 椅子の塗装を担当



第12弾 SUN49 STREET

- 2023年6月27日（火）完成
 - 「今池こどもの家」で2度のワークショップ開催
 - 大阪・関西万博2025共創チャレンジへの参加
- 世界で活躍するアーティスト：Titifreak（ブラジル）
- 共催：今池こどもの家・（株）H2O商業開発



第13弾 北天下茶屋駅舎

- 2023年9月6日（水）完成
 - アート当日、通り雨で1時間中断するも1日で完成、学生ボランティアは6名参加
 - 場所：阪堺北天下茶屋の上り駅舎および下り駅舎の裏表
- 協賛：Calmart 協働：阪堺電車 後援：西成区
- アーティスト：COSAONE / VERYONE / SORUTO
 - グラフィティ界の重鎮COSAONEはカワイイできめる
 - グラフィティ界の伝説VERYONEは抜群のセンスが光る
 - グラフィティ界の成長株SORUTOはずばやくしづく
- 阪堺電車との協働の積み重ねで学生もスキルと経験が向上
 - 2023年8月25日（金）：最終の現場確認
 - 2023年9月4日（月）：駅舎清掃および環境整備を実施、学生ボランティア10名参加

第13弾 北天下茶屋駅舎



上：VERYONE



左：SORUTO 上：COSAONE

第14・15弾 天神ノ森駅舎

- 天神ノ森下り駅舎：2023年9月21日（木）完成
 - アーティスト：KANEONE（神奈川）
 - 「駅舎に描けるならぜひ」と関東から実力者が参加
 - 阪堺電車および天神ノ森・天下茶屋周辺の歴史や現状を伝えて、現場で周辺を歩き天神ノ森天満宮の森や木々を見て、デザインを構想
 - 2023年9月19日（火）に上り・下り駅舎清掃作業
 - 2023年9月20・21日にアート制作
 - 実質作業時間は8時間くらい
- 天神ノ森上り駅舎：2023年10月2日（月）完成
 - アーティスト：TITIFREAK（ブラジル）
 - サンスーク商店街アートに続いての参加
 - いくつもの額縁があって、近くで見てもよし、遠くで見てもよしという感じで。抜群の安定感と力量
 - 2023年9月30日、10月1日にアート制作



西成WANでの私たちの役割

- 西成WAN支援ゼミ生が事務局機能を担当
 - 関係者間の日程調整とオンライン会議設定
 - 会議の議事録作成と情報共有
 - クラウドファンディングの企画・調整
- ゼミ生全員で地域連携活動を担当
 - 現場の下見や挨拶回りに同行
 - 地域の子どもたちとのワークショップの実施
- ゼミ生全員で現場の支援を担当
 - アート現場の準備とあとかたづけ：清掃・サビとり・下塗り
・子どもらの誘導・通行確保など
 - 現場によってはアート制作の一部も担当
 - 公式Instagramの発信

事務局機能の実際

The screenshot shows a Microsoft Teams meeting interface. At the top, the meeting title is '西成WAN オンライン会議' with options for 'チャット', 'ファイル', 'まとめ', and 'その他 3'. There are 3 participants and a '参加' button. A notification bar at the top states 'この会議チャット通知はミュートになっています。設定'. The chat history shows several messages: '松村 喜久さんが会議に招待されました。', '星井 望見さんが会議の名前を 西成WAN オンライン会議にしました。', '07/20 14:55 会議を開始しました', '藤原 知佳子さんが会議に招待されました。', 'マナギ(ゲスト)さんが会議に招待されました。', 'マナギ(ゲスト)さんがチャットから退出しました。', and 'マナギ(ゲスト)さんが会議に招待されました。'. A message from '藤原 知佳子' at 07/20 15:18 is highlighted, containing the text: '西成WANの実施予定について', '実施場所：北天下茶屋駅舎（上り・下り）および天神ノ森駅舎（上り・下り）【阪堺電車よりすでに許可取得済み】', and '実施予定日：北天下茶屋駅舎 2023年9月4日（月）から9日（土）'. On the right side of the chat, a list of roles is displayed: '「調整さん」で日程調整', 'Teamsで会議設定して周知', '会議に参加して議事録作成', '議事録を共有', and 'クラウドファンディングの企画・調整・実施'.

クラウドファンディングの実際

プロジェクトのほかに
プロジェクトをさがす

あなたは紹介プログラムの対象です 2023/11/30まで

西成WANで街に賑わいを！

■ WAN2023 ■ まちづくり・地域活性化 ■ 大塚町



現在の支援総額

1,128,777円

目標金額は2,000,000円

▲ 支援者数

126人

① 募集終了まで残り

終了

♡ お気に入り

FUNDED

このプロジェクトは、2023-07-27に募集を開始し、126人の支援により1,128,777円の資金を集め、2023-08-30に募集を終了しました。

- CF原案を作成
 - 過去のCF実績
 - リターンの企画・調整
- CF担当とのやり取り
 - ゼミで相談して修正
- 2023年7月末公開
- 年内にリターンでまち歩きを実施予定

西成WAN（Nishinari Wall Art Niippon）は大塚町西成区を中心に、妻なかのあちからでストリートアートを催してきました。私たちはストリートアートで来訪者を呼び込み、来訪者が街を楽しみ探索し、街と人とをつないで、西成を街くろみ野外美術館に変えたいと願っています。

地域連携活動の実際

- 現地下見の実施と挨拶まわりへの同行
 - 壁のサイズの計測や周辺環境の確認ほか
- 今池子どもの家でのワークショップ
 - 2023年6月5日（月）：子どもたちとみんなで遊び、スプレーの使い方を一緒に学ぶ
 - 2023年6月19日（月）：再び交流して信頼関係を築き、みんなでスイカ割り



現場支援の実際



西成WANの成果と課題

- **西成WANの成果**
 - 西成で地道な活動を展開し続けてきたため、地域の人たちからの信頼や応援を獲得、協力者や壁のドナー提供者が増えた
 - 小学生の頃に一緒に活動したという高校生や社会人が、現場に立ち寄って手伝ってくれることも
 - ストリートアートやグラフィティの市民権獲得に貢献した
 - 西成以外にもストリートアートが広がり始めた
 - 西成WANを見て回る人が増え、賑わいの創出にも貢献
- **西成WANの課題**
 - 安定的な活動資金の確保
 - 税金や助成金は絶対に使いたくない：自由にやりたい！
 - 最適な資金獲得方法はクラウドファンディング
 - 西成WANを象徴する超大作を描きたい
 - 超大作だった「第2弾」が地域の事情から消された
 - ゼミで支援ノウハウを継承
 - コロナで断絶しかかったが20代目ゼミ生らが復活、継承

学生発表③

■阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室

活動テーマ	復活！外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！
活動場所	JR 新今宮駅から時間距離で片道1時間圏内
連携先	大阪府簡易宿所生活衛生同業組合・大阪国際ゲストハウス地域創出委員会・ホテル東洋・ホテル中央グループ・松原市観光協会ほか
活動主体	阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室

1. 活動概要

国際ゲストハウスが集まる JR 新今宮駅周辺には、常に数千人の外国人旅行者が滞在しています。かつて新今宮観光インフォメーションセンターを運営していた私たちのゼミは、そうしたゲストハウスと連携して、これまで何度も、新今宮に滞在する外国人旅行者を誘って、私たちが企画したまち歩きを一緒に楽しんできました。2006年夏から始まったまち歩き、ゼミの先輩方は、毎年数回ペースで実施してきましたが、コロナの影響で2020年春から2023年春までの三年間、ずっと中断していました。

ようやくコロナ禍がおさまり、ゲストハウスは再び外国人旅行者で賑わうようになり、大阪・関西万博2025も近づくなか、私たちは、「外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！」を復活させることにしました。これまで先輩方が実施してきた定番コースだけでなく、外国人旅行者の誘致を試みる地方自治体や組織とも連携して、新たなコースづくりも模索したいと思っています。

2. 年間計画

初回は2023年7月に「平野郷杭全神社の夏祭りへ行こう！」を実施しましたが、今後は基本、偶数月に実施する予定。なお、地方自治体や組織からの強い要請があれば、フィールドワークを行って企画し、随時、これらの合間に実施したい。

実施予定月

- 2023年10月 「エンターテイメントを見に行こう！」
- 2023年12月 「西成 WAN のウォールアートを見に行こう！」
- 2024年2月 「すき焼きパーティへ行こう！」
- 2024年4月 「花見へ行こう！」
- 2024年6月 「住吉大社へ行こう！」

3. 活動成果

外国人旅行者と一緒に行くまち歩きは、これまでゼミ定例の活動として、2006年夏に実施した初回から2019年末までの十数年間で、歴代の先輩方が何度も実施してきました。その成果の一部は、大学ウェブサイトの「松ゼミ Walker」に記録が残っています。私たちの代になってからは、コロナの影響で実施できませんでしたが、2023年夏の平野郷杭全神社の夏祭りから、3年ぶりに再開しました。

まち歩きは準備が大切で、まず現場のフィールドワークを行い、下見してコース案を決めます。その後は、英文チラシを作成して、まち歩きの前日の夕方に、ホテル東洋ほか、新今宮のゲストハウスを回って、外国人旅行者に直接参加を呼びかけ、まち歩き当日を迎えます。今回のまち歩き参加者は、男性9名女性4名の計13名、国籍はフランス人4名、アメリカ人2名、ウクライナ・ノルウェー・アルゼンチン・スコットランド・オランダ・タイ・オーストラリア人が各1名でした。

4. 地域からの評価

連携先のゲストハウスからは、日本の大学生らと交流して楽しめるプログラムで、参加した宿泊滞在客から大好評で、ゲストハウスの満足度の向上や宿泊日数の延長にもつながるため、これからも全面的に協力したい、とおっしゃっていただいています。新今宮から阪堺電車に乗って住吉大社へ向かうまち歩きコースは、ゼミの先輩たちがかつて実施したまち歩きをきっかけとして、外国人旅行者たちがカレンダーを見て大安吉日を選び、独自で行くようになりました。何度かまち歩きで訪れた大衆演劇のオーエス劇場（西成区）にも、外国人旅行者たちがしばしば来るようになった、と聞いています。

5. 参考 WEB サイト

過去に先輩方が実施されたまち歩きの様子は、大学ウェブサイトに「松ゼミ Walker」として記事掲載している。以下にいくつかのサンプルを挙げておく。

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf43000001g7pi.html>

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf43000002bp3l.html>

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf430000022s4r.html>

<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/tourism/matsumura/mrrf4300000202dy.html>

また、著作権の関係でお見せできませんが、こうしたまち歩きの様子は、以下のテレビ番組で報道されています。

2006年7月22日放送 NHK『ウィークエンド関西』「下町ツアーで大阪に外国人を」。

2015年10月3日放映 NHK 大阪『学校再発見バラエティー あほやねん すきやねん』。

6. 活動メンバー

【4年生】岩崎 加納・尾中 帆希・何 雨家・川野 愛実・熊谷萌衣・毛見ひとみ・坂口 乃彩・是井望見・高瀬 勇輝・張 雲翔・西本 果鈴・天満 百香・八島 彩音・山田奈々実

【3年生】奥山 凜・加藤 靖菜・佐藤 美咲・鹿田 穂花・鈴江 咲希・多田穂乃香・田中 志樹・谷浦寿々音・戸川 末唯・藤原知佳子・宮司隆之介・山尾 百香・山口 潤

【2年生】小倉由紀乃・川嶋 一輝・川合 絢己・勘田 朱里・佐野なみき・鈴木 智澄・半田 萌恵・藤田 遥香・古川 竣・光藤 千尋・村戸 陽一・山口 蒼空

【1年生】池田真登香・斎藤 花梨

7. 担当教員

阪南大学国際観光学部・教授 松村嘉久

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	阪南大学
所属先・職名	国際観光学部・教授
氏 名	松村 嘉久
連絡先	メール matsumuy@hannan-u.ac.jp

9. 活動の様子



復活！外国人旅行者と一緒に まち歩きへ行こう！

阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室
川野愛実・天満百香・川合絢己・古川竣

新今宮TICから西成WANへ

● 新今宮TIC（2009-19）の機能

- 民設学営の Tourist Information Center
- ① 観光情報の提供と旅の相談
- ② 外国人旅行者向けの「まち歩き」の企画・実践
- ③ 調査研究とまちづくり活動の拠点



日雇い労働者のまちから外国人旅行者も集い憩えるまちへ

- 新今宮駅周辺観光まちづくり推進協議会（2012-）
 - 放置自転車問題の実態調査
- ライブエンターテイメント振興の重要性
 - 西成ジャズ支援（2012-）
 - Osaka Fringe Festival（2018・2019）を経て大阪エンターテイメントシティ構想（2023-）へ
- 新たな地域の魅力づくり
 - 西成WAN（2014-）

なぜ「まち歩き」だったのか？

- TIC創設当初の新今宮地域の課題
 - 大阪（新今宮）は安く快適に滞在するところ、大阪は観光するところではない
 - 新今宮を拠点に京都・奈良・神戸などへ日帰り観光
 - 疲れてゲストハウスへ帰り、翌日は動かない外国人旅行者たち
- なぜ大阪を観光しないのか？
 - 大阪観光するなら、USJ・道頓堀・大阪城・通天閣くらい：でもお城を見るなら姫路城の方が…
 - Lonely Planet「JAPAN」で大阪紹介ページが少ない
 - 大阪観光の魅力・強みは何か？
 - 大阪は「ゴチャゴチャしている」という批判
 - でも、大阪の魅力は「ゴチャゴチャ」（多様性 diversity）
 - 世界中から来るインバウンドの関心は多様、だから多様性があれば、個々人が自分の好きな大阪を探して見つけるはず！

新今宮滞在のFITの特性

- 「大阪国際ゲストハウス地域」構想と新今宮TIC
 - 2005年頃から、日雇い労働者向けの簡易宿所から外国人旅行者向けの国際ゲストハウスへの転換
 - 外国人個人旅行者（Foreign Individual Tourists）の急増
 - 滞在するFITのニーズに応える新今宮TICの創設（2009年）
- FIT／バックパッカー（Backpacker: BP）の特性
 - 「バックパックを背負って旅する人」
 - 低予算で少しでも長い期間、自力の力で旅を続けようとする
 - 旅の目的地も宿も自分で決め、面白いと思えば長期滞在する
 - 滞在期間中の予定は基本、未定で自由に行動する
- FIT／BP独特の生態や行動パターン
 - ガイドブックに載っていないところ、日本らしいものが好き
 - 風景や名所へ行っても興味を持つのは人との出会い
 - 日本人、地元の人たちの普通の生活に興味がある

新今宮でしか成立しない「着地」

- 狭い地域にゲストハウスが集積，FIT／BPが多数滞在
 - 明確な予定の無い外国人が毎日，数千人規模で滞在
 - 100名に1名の確率で参加してもかなりの数になる
 - 長期滞在が多く，ゲストハウス内で情報の共有・継承もある
- 「まち歩き」を企画して勧誘すれば，参加してくれる可能性のある外国人であふれる唯一無二のまち
 - TICを拠点にゲストハウス10数軒を回っても30分くらい
 - ゲストハウス側は滞在の長期化，満足度の向上につながるので大歓迎で超協力的
 - 日本でも唯一無二の着地型観光「まち歩き」が成立するまち
- そうした「まち歩き」を企画・実践できるのはTICを運営する私たちだけ：やったらその時点で勝ち！
 - 継続的な運営でゲストハウスや地域と強固な信頼関係
 - TICを拠点に企画，準備，勧誘，催行できる

私たちの「まち歩き」コンセプト

- 2010年頃のゼミ先輩たちが議論
- まち歩きコンセプトは「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を楽しむ
 - ありふれた日常
 - 短期滞在なら絶対に外せない著名な観光スポットばかりを回るが，長期滞在なら，普通の日本人がどのような生活をしているのか知りたいはず
 - 日本人はどんなところに住み，どんなものを食べているのか
 - ささやかな非日常
 - 日本人にとってここ一番の特別な非日常でなくても，身近で気軽に楽しめる非日常で充分
 - 祇園祭や天神祭りではなく，地域の盆踊りとかだんじり祭りとか
- そもそも日本の地元の大学生らと一緒に「まち歩き」する経験はなかなかできない！
 - 国際観光の現場実践であり，国際交流にもなる

まち歩きの企画から実践まで

- まち歩きのコースを考える
 - 「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」を意識
- まち歩きコースを実際に歩いて下見する
 - 何を見てもらいどう説明するのか，役割分担を検討
- まち歩きのポスターとチラシを英語で作成する
- まち歩き催行の数日前，TICを拠点にゲストハウスを回ってポスター掲示
- まち歩き催行の前日と当日，TICを拠点にゲストハウスを回ってチラシでFITを直接勧誘
 - TIC運営終了後のまち歩きでは，催行前日にチラシで直接勧誘するだけで集客できるようになった！
 - ゲストハウス内で口コミで継承，GH側の全面協力

定番化した「まち歩き」

- 住吉大社・堺のまち歩き
 - 阪堺電車の1日乗車券を利用：移動そのものが楽しい
 - 住吉大社で遭遇する神前結婚式と花嫁行列
 - 堺市の包丁・和菓子などの地場産業
- 平野郷杭全神社の夏祭りのまち歩き
 - 何度も異なるだんじりと遭遇，夏祭りの屋台
 - 平野のまち並みと町ぐるみ博物館
- 大阪城での花見
 - 花見している日本人を見るよりも，日本人と一緒に花見したいのではないだろうか...ただそれだけ
- 新今宮周辺のまち歩き
 - ゲストハウス周辺での消費を促して道をつける試み
 - 大衆演劇や西成ジャズなどエンターテイメントへの誘導



住吉大社 堺



平野郷杭全神社 夏祭り



コロナ禍での中断

- 2009年から年間数回ペースで10年間にわたって「まち歩き」や「モニターツアー」を開催
 - 松村ゼミとしては優に50回を上回る経験の蓄積
- コロナで新今宮からインバウンドが消えた
 - コロナ禍：2020・2021・2022年のほぼ丸三年間
 - 大学でも遠隔授業中心で課外のゼミ活動などは基本、禁止
- コロナ前最後のまち歩きは2019年11月実施の「西成WAN巡り」でそれ以降は中断
 - 現在の20代目4年生は2020年4月入学のコロナ世代で「まち歩き」の経験ゼロ
 - 通常の4年生なら「まち歩き」経験は十数回あって、後輩へ継承できるだけのスキルを獲得している…はずだった…
 - 新今宮TICも閉鎖してまち歩きの拠点も無い…
- ストリートでの活動・西成WANからまず復活を

大阪・関西万博に向かって！

- 大阪・関西万博2025は絶好のチャンス！
- 世界中から外国人旅行者が大阪へ来て、大阪市内に毎日10数万人以上の人口規模で滞在するはず
 - 万博後にIRが開業すればそうした状態が継続して大阪は国際観光都市へ変貌するはず
 - 大阪は国際観光のゲイトウェイ：大阪市内から大阪府下へ、大阪から関西圏・日本各地へという潮流が不可欠
- 大阪府下の自治体や関西圏・日本各地の自治体にとって、外国人旅行者へ地域の魅力をアピールして呼び込む絶好の機会
 - 自分たちの地域へ海外から直接は来ないが、大阪滞在者へアプローチできれば来る確率が高い
 - でも外国人旅行者へ直接働きかける明確なチャンネルもノウハウもない状況
 - ありがちなのは留学生にモニター依頼するかお金を使ってインフルエンサーを誘致するか：でも効果は???

新今宮のポテンシャル

- 改めて注目される大阪国際ゲストハウス地域（新今宮）の存在と「外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう」のノウハウ
 - 大阪でも屈指の交通拠点で滞在拠点
 - 特段の予定の無い多数の外国人旅行者へ直接働きかけ誘える環境と方法が整っている
 - 訪日外国人滞在者へ確実に情報が伝わる情報プラットフォームがまだ存在しない現在、国際ゲストハウスの集積とネットワークがあって、そのネットワークのつないで「まち歩き」を企画・実践できるのは、日本全国でも新今宮だけ



まち歩きの復活へ

- 奇跡的な19代目（2003春卒業）からの継承と20代目（現4年生）の活躍
 - コロナ禍で生まれた不思議な強い仲間意識
 - コロナから解放されて弾ける積極性
 - まち歩きの経験が全く無い状態から復活
 - コロナ禍の2022年6月に平野郷の下見FW



後輩たちも巻き込み継承する

- 21代目（3年生）、22代目（2年生）も巻き込み、まち歩きのノウハウと経験を継承する
 - まち歩き本番：杭全神社への宮入：2023年7月13日（木）
 - 前日の水曜は2年生のゼミ日なので、放課後、4年生と一緒に2年生も参加してFITへの働きかけを担当
 - 松村先生と4年生有志と一緒に、事前に国際ゲストハウス街を巡り、各ゲストハウスのフロントへ連携・協力の再確認



まち歩き当日の様子

- 残念ながら土砂降りの雨模様、不安を抱えながら集合場所のホテル東洋へ
- 参加者は男性9名女性4名の計13名
 - フランス人4名、アメリカ人2名、ウクライナ・ノルウェー・アルゼンチン・スコットランド・オランダ・タイ・オーストラリア人各1名
 - 日本語の上手いアメリカ人
 - 英語があまり上手くない人も
 - 尼崎へのモニターツアーに参加したことのあるリピーターのタイ人
- 国際ゲストハウス「ホテル東洋」の実力を実感
 - 滞在者とフロントスタッフとのつながり
 - 滞在者同士もつながり一時的なコミュニティが形成
- 移動しながら楽しく会話し国際交流



- 4年生8名, 3年生3名, 2年生9名+松村先生
 - 先頭・中盤・最後尾で連携しながら誘導
 - 学生らだけで固まったらアカン, 何人かで連携してゾーンディフェンスを
 - 伝言や指示は自分がうなずくだけでなく後ろへ伝える
 - 日本語でもいいからコミュニケーションをとろう!





まち歩きの今後について

- 2ヶ月に1回くらいのペースで「外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう！」を開催
 - 定番コースをまず復活させて経験の継承を
 - 20代目4年生は卒業までにあと2回
 - 西成WANのウォールアート巡り
 - 伝統の「すき焼きパーティ」
- 大阪府下の地方自治体との連携を深めて、地域の魅力の伝達とFIT誘致のきっかけづくりを
 - 松原市観光協会との協働から始めたい！
- 大阪・関西万博2025に向けて、大阪からの日帰り観光「まち歩き」の可能性を探りたい
 - 日本人が普通に楽しんできたコンテンツの再発見
 - 金剛山へのハイキングとか、海水浴とか、ブドウ狩りとか、ミカン狩りとか、田植え体験とか、高校の部活体験とか、武道・武術の一日入門体験とか

学生発表④

■ 8 大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ

活動テーマ	府内 8 大学連携「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト
活動場所	大阪府内 8 大学及び大阪府
連携先	大阪府環境農林水産部 流通対策室
活動主体	8 大学（大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金蘭大学・相愛大学・摂南大学・梅花女子大学・大阪樟蔭女子大学）公衆栄養関連学部各ゼミ

1. 活動概要

2020年度より、大阪府環境農林水産部流通対策室と連携し、持続可能な開発目標（SDGS）12番目の目標である「つくる責任、つかう責任」の食品ロス削減推進について取り組んで来た。毎年 2 回のワークショップに関係者が集まって活動方針や内容について検討し、それを各大学に持ちかえって活動を進めている。2020年度は管理栄養士養成施設の学生に食品ロスアンケートを実施した。2021年度は、「誰に、何を」啓発するかの一環として取り組みを検討し、各大学でポスター・過剰除去を減らすための動画・レシピ開発・子どもへの紙芝居作成などを行い、啓発を進めてきた。また2022年度は、「大阪府の食品ロス削減行動推進事業」との協働によりスーパーマーケットでの啓発として、野菜の保存方法や売れ残りがちな商品を使ったレシピのPOPを作成し売り場に設置した。作成した啓発媒体は大阪府の食品ロス削減ホームページに掲載され、活用を推奨している。

2. 年間計画

主な取組み（2023年度）
 4～5月：各大学で事前学習（SDGsの目標と食品ロスの関係、食品ロスの現状と課題について等）
 5月20日：8大学連携学生ワークショップ（1回目）
 6～8月：各大学における取組、連携・協働による啓発活動準備
 9月9日：8大学連携学生ワークショップ（2回目）
 9～12月：各大学における取組、連携・協働による啓発活動（過去3年間の活動で積み上げてきた啓発媒体を活用し、若い世代の学生や地域の一般住民を対象にしたイベント等で啓発活動を行う。）
 3月：2023年度総括、次年度の活動案検討
 通年：食品ロス削減ホームページへの成果物掲載

3. 活動成果

大阪府の食品ロス削減ホームページに各学校が作成した啓発グッズの掲示（「食品ロス削減ポスター」や「残りがちな野菜レシピ」、「レシピ動画」、幼児向け「紙芝居動画」等）
 大阪府主催の「健活ワクワク EXPO」に参加し、府民に紙芝居動画やポスターで食品ロスの啓発を実施。
 スーパーマーケット（デイリーカナート イズミヤ花園店）で食品ロスキャンペーンを実施

4. 地域からの評価

スーパーマーケットのキャンペーンでは、「野菜の保存方法」「残りがちな野菜のメニュー」はスーパーの従業員や来客から好評を得た。

野菜の保存方法POPについては、従業員の93.1%・来客の83.4%が「役立った」、残りがちな野菜のメニューについては、従業員の81.8%・来客の74.2%が「役立った」とアンケートで回答した。

いずれも従業員・来客とも90%以上が「好印象」と回答した。

(POPについて従業員からの意見)

- 読みたくなるような可愛いイラストと文字で目を引きました。保存方法等勉強になったので、ずっと付けて欲しいなと思います。
- 男性の一人暮らしの方は、使い方が分からない人が多いので、料理方法のPOPは簡単なものは絵入りで、今後も付けた方が良くと思います。

5. 参考WEBサイト

大阪府食品ロス削減ホームページ

「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト

<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/mottainaiproject.html>

アクセス実績：2322（2022.3.28～2023.8.7：月平均アクセス約140）

小売店舗における食品ロス削減の取組みについて

<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/kourizissyou-kekka.html>

アクセス実績：1590（2022.10.24～2023.8.7：月平均アクセス約158）

6. 活動メンバー

大阪府立大学 4年 伊勢史菜 辻 桐子

大手前大学健康栄養学部 4年 丸喜 智哉 山下 偉央

関西福祉科学大学健康福祉学部 3年 北村 和樹、野澤 春貴、原田明日香、槇村 結衣、
山田 梨楓

千里金蘭大学 1年 北田 彩、竹内 舞紘、宮井 来夢、早川亜沙美、本村 仁見

相愛大学人間発達学部 4年 侯 櫻梓、播岡 咲音、船木あゆみ

摂南大学農学部 4年 飯尾 瑠楓、石井 海、今西 和、郷間 美希、二瓶 葵

梅花女子大学食文化学部 4年 奥田 七海 鹿越捺奈加 内藤 夏嘉 宮部 由唯

大阪樟蔭女子大学健康栄養学部 4年 中谷 栞菜・竜崎なつめ・井上 舞姫

7. 担当教員

大阪公立大学 大学院 生活科学研究所 准教授 矢澤 彩香

大手前大学 健康栄養学部 准教授 大西 智美

関西福祉科学大学 健康福祉学部 教授 西村 節子

千里金蘭大学 栄養学部 准教授 中村 清美

相愛大学 人間発達学部 講師 高井 玲子

摂南大学 農学部 教授 黒川 通典

梅花女子大学 食文化学部 教授 江上 ひとみ

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 准教授 木村 明美

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大手前大学 関西福祉科学大学
所属先・職名	健康栄養学部管理栄養学科 准教授 健康福祉学部福祉栄養学科 教授
氏 名	大西 智美 西村 節子
連絡先	電 話 06-6941-7698 内線213 072-947-0095
	メー ル onishisa@otemae.ac.jp snishimura@tamateyama.ac.jp

9. 活動の様子



府内8大学連携 「“もったいないやん！”食の都大阪でおいしく食べきろう” 学生プロジェクト

大阪公立大学	辻 桐子(4年)
大手前大学	丸喜 智哉(4年)
関西福祉科学大学	槇村 結衣(3年)
梅花女子大学	宮部 由唯(4年)



学生プロジェクト参加8大学（五十音順）
大阪公立大学(大阪府立大学)・大阪樟蔭女子大学・大手前大学・
関西福祉科学大学・摂南大学・千里金蘭大学・相愛大学・梅花女子大学

食品ロスをめぐる背景・現状

SDGs(持続可能な開発目標)

- ・2015年国連サミット
- ・2016年から2030年までの目標
- ・17の目標と169のターゲット
- ・すべての国連加盟193カ国が一致して採択



12 つくる責任
つかう責任

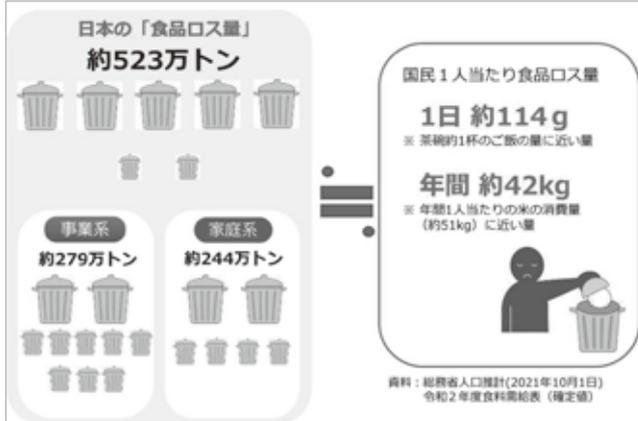


「食品ロス削減」は
SDGsを達成するための方法の一つとして位置付け

2030年までに小売・消費レベルの世界全体の食品廃棄物を
半減へ！

食品ロスをめぐる背景・現状

＜日本の食品ロスの現状(令和3年度)＞



食料自給率(カロリーベース)
は 38% (農林水産省「食料需給表(令和4年度)」)

食料を輸入に頼る一方で、
多くの食料を食べずに
廃棄している状況

出典：「～食品ロス量(令和3年度推計値)を公表～」添付資料 (令和5年6月9日農林水産省)

国や大阪府では・・・

2019(令和元)年10月「食品ロス削減の推進に関する法律」制定

2021(令和3)年3月「大阪府食品ロス削減推進計画」策定

8大学の学生と大阪府の連携・協働による食品ロス削減

学生プロジェクトの目的

管理栄養士をめざす8大学の学生と大阪府が相互に連携・協働し、最も食品ロスの排出量(直接廃棄や食べ残し)が多い若年者や単身者に対して、一人ひとりが身近なところから取り組むことができるよう、学生の視点から食品ロス削減の効果的な推進を図る。



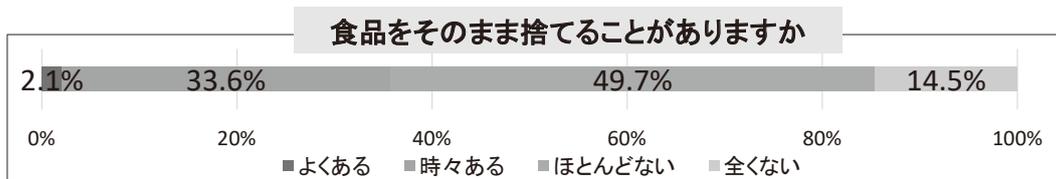
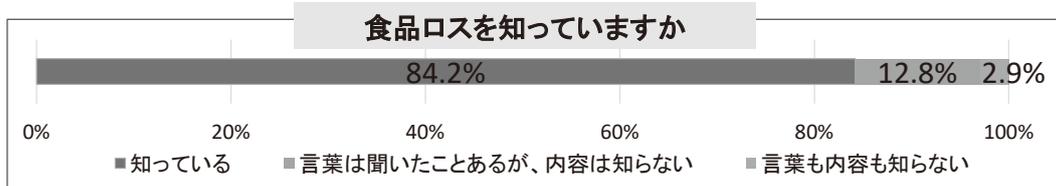
大阪府環境農林水産部流通対策室

「もったいないやん！」食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト

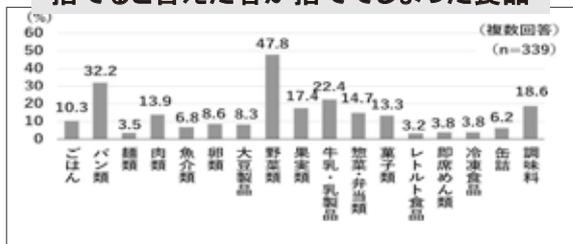
参加者 大阪公立大学、大阪樟蔭女子大学、
大手前大学、関西福祉科学大学、
摂南大学、千里金蘭大学、
相愛大学、梅花女子大学
の管理栄養士をめざす学生 約30名

2020年度「食品ロス」に関するアンケートの実施

2020年7月～10月に、管理栄養士養成課程の学生1050名に「食品ロス」に関するアンケート調査を実施し、954名の回答を得た。



捨てると答えた者が捨ててしまった食品



食品ロス削減行動につながる具体的な情報を、若者の利用が多いインターネットなどで発信していく必要がある。

2021年度 ワークショップ(Web開催)とその後の活動

『食品ロスを減らすための行動を考え実践に取り組む』

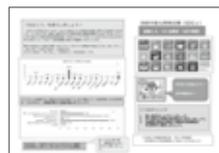
食品ロスアンケート結果から、いま行動出来ることは何かについて意見交換を行った。大阪府の食品ロス削減ホームページで発信する内容を検討した。

直接廃棄・過剰除去を減らすメニューの開発とレシピ・動画の作成

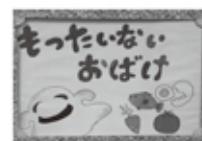
- 24品目の食べきりレシピを作成！
- ・料理の苦手な人でも簡単に作れるもの
- ・よく余りがちな部位や調味料を使ったもの
- ・捨てられがちな部分をまるごと使用したもの



啓発ポスターやその他の媒体・紙芝居などの作成



食品ロスを減らすための紙芝居



2022年3月28日開設の大阪府の食品ロス削減ホームページに掲載

大阪府食品ロス削減ホームページ 「もったいないやん食の都大阪でおいしく食べきろう 学生プロジェクト」



食べきりレシピや紙芝居の 動画配信



「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう学生プロジェクト」に取り組んでいます。

【伊美大学】（50品目）

大阪公立大学、大阪府立女子大学、大阪府立大学、関西福祉科学大学、廣済大学、千歳金堂大学、相愛大学、梅花女子大学

食品ロス削減レシピ・啓発グッズ

食品ロスについておさがりやすく読んでもらう啓発啓活や、家庭で食べきりやすいレシピ、アプリのダウンロードなど様々な動画を配信したレシピ、啓発動画を制作いたしました。

- レシピはこちら(動画)で観れます (大阪府立大学、関西福祉科学大学、千歳金堂大学、相愛大学、梅花女子大学)
- 啓発グッズ
 - 食品ロス削減リーフレット [PDFファイル/4614KB] (大阪府立大学)
 - ※食品ロスを知って、家庭の料理でそのまま残してしまいがちな野菜を美味しく残さず食べきろう！QRコードから動画でお楽しみください。
 - 食品ロス削減リーフレット [その他のファイル/3824KB] (大阪府立大学)
 - ※家庭で食べきりやすい調味料とそれを使ったレシピを紹介しています。
 - 食品ロス削減啓発ポスター [PDFファイル/4948KB]とZUNOOLディスプレイ [画像ファイル/279KB] (千歳金堂大学)
 - ※食品ロスの発生量や削減効果、削減効果の正しい知識を紹介しています。
 - 紙芝居「もったいないおはけ」 (関西福祉科学大学)
 - ※公式YouTubeチャンネル「もったいないやん！食品ロス」(外部サイト)からご覧ください！
 - 紙芝居「おのこいしんじゅん」 (梅花女子大学) [PDFファイル/4927KB]
 - ※紙芝居の一部と賞状の写真を掲載しています。

大阪府食品ロス削減ホームページ
「もったいないやん！食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクト
<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/mottainaioproject.html>
アクセス実績：2322(2022.3.28～2023.8.7: 月平均アクセス約140)



作成した資料(レシピ・レシピ動画、リーフレット、ポスター類)

2023年9月現在、ホームページに掲載されているレシピは43品目(うちレシピ動画は10品目)
レシピ集は様々な形のものが完成

夕食の残りを利用したリメイク朝食



残った餃子の皮で作るピザ



乾パンを利用した乾パンペンキタルト



いらず野菜かきあげ



食品ロス削減レシピ

作り方を動画で!!

栄養成分表

1人分あたり 342kcal

- たんぱく質 10.0g
- 糖質 33.4g
- 脂質 4.8g
- 食塩相当量 0.7g

材料

- ・ごはん(冷) 食べきる残り 100g
- ・卵 1個
- ・ミックスベジタブル 20g
- ・キャベツ(大さじ1)
- ・マヨネーズ(大さじ1)

作り方

1. ご飯・ミックスベジタブル・キャベツをマヨネーズに入れて混ぜ、平らに広げる。

2. マヨネーズを表面に塗ってから焼き網を通して入れたら、ラップをして電子レンジ 500w2分、キャベツをかけて完成!

食品ロス削減レシピ

食品ロス削減レシピ

〜ママレードジャムで作る オレンジケーキ〜

リーフレットや啓発物品なども 多くの種類を作成

捨てられがちな調味料と
野菜を使って

家庭で捨てられがちな食品は？

大阪府の家庭の冷蔵庫から捨てられる食品のうち、**「調味料」と「生鮮野菜」**が全体の半分以上を占めています。

～捨てられた調味料ランキング～

- 1位 からし・マスタード (チューブ)
- 2位 ドレッシング
- 3位 その他のつけ・たれ
- 3位 わさび (チューブ)

余りがちな調味料と野菜を使ったレシピ

その1 焼き肉のたれ×キャベツ 「焼き肉のたれで簡単野菜炒め」

材料(2人分)
 ・キャベツ 1/8玉
 ・にんじん 1/2本
 ・エリンギ 1本
 ・ウインナーソーセージ 2本
 ・サラダ油 大さじ1/2
 ・焼き肉のたれ 大さじ1と1/2

レシピ
 ①キャベツは一口大、にんじんとエリンギは短冊切り、ソーセージは斜め切りにする。
 ②フライパンにサラダ油を熱し、野菜とソーセージを炒める。
 ③油が回ったら焼き肉のたれを加えてからめる。

その2 粒マスタード×レタス 「レタスとハムのマスタードサラダ」

材料(2人分)
 ・レタス 1/8玉
 ・ハム 2枚
 ・粒マスタード 小さじ1/2
 ・酢 大さじ1/2
 ・オリーブオイル 大さじ1/2
 ・塩こしょう 少々

レシピ
 ①レタスは一口大に切る。
 ②ハムは半分に切り、細切りにする。
 ③ボウルに粒マスタード、酢、オリーブオイルを混ぜ合わせる。
 ④ボウルにレタスとハムを加えて、和える。

残りやすい野菜を使った
朝食レシピ

残りやすい野菜を使用した朝食レシピ

朝ごはんは、栄養バランスのとれた食事をとることが大切です。野菜は、ビタミンやミネラルを豊富に含んでいます。残りやすい野菜を活用して、栄養満点の朝食を作ってみましょう。

レシピ例:
 ・残り野菜と卵の炒め物
 ・残り野菜と豆腐の味噌汁
 ・残り野菜とバナナのスムージー

啓発に利用できる
アルコールティッシュ



アルコール
ティッシュ
フラップ部分
に印刷



ポスターや卓上メモも
作成して活用

賞味期限と消費期限の違い

賞味期限
「おいしく食べられる」状態のこの食品が保たれている、すくなくともこの期間です。

消費期限
「安全に食べられる」状態のこの食品が保たれている、すくなくともこの期間です。

食品ロスを減らそう

使う分、食べられる分だけ買う

残り物に活用できる食品のチェック

食品ロスを減らそう

食べきれない量を作る

食材を適切に保存する

食材を上手に使って切る

食材を上手に保存しよう

1人1日当たりの食品ロス量は114g (おにぎり1個分くらい)

保存方法を知り、食材を無駄なく使おう!

～もったいないをあたりまえに～

賞味期限
おいしく食べることができる期間 (日持ちする食品)

消費期限
過ぎたら食べないほうが良い期限 (傷みやすい食品)

捨てないための3ないルール

- ・買すぎない
- ・作りすぎない
- ・もったいない

残きも眠らせてみませんか? 買い物の在庫確認はしていますか?

食材を上手に使って切る

最後まで残った食材から使う

残った料理がリメイクできる

2022年度 大阪府「小売店舗における消費者向け食品ロス削減実証事業」への連携・協働

実証事業の目的

- ・スーパー等小売店舗における効果的な食品ロス削減手法の試行実施
- ・購買者の行動変容の効果を調査検証

多様な食品ロス削減の手法を普及する



【店舗実証について】

- (1)実施期間
令和4年10月27日(木曜日)から概ね1か月程度
- (2)実施店舗
デイリーカーナートイズミヤ花園店
- <協力企業>
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社



学生プロジェクト

消費者の行動変容を促すため、学んだ知識を活かし伝える

実証事業で啓発イベントを実施

コトPOPを作成し、家庭でおいしく長持ちする保存方法、余りがちな食材活用レシピを提案
簡単レシピを配布、ポスターを掲示し、食品ロス削減の具体的な手法を啓発

大阪府・小売店舗・学生プロジェクト連携による啓発イベント

デイリーカーナート イズミヤ花園店 2022年10月29日



ポスターを掲示

食品ロス削減 啓発コーナー



食品ロス削減レシピの配布



食品売り場にコトPOPを掲示



店内放送でイベントをPR

協力し合って食品ロス削減の啓発に取り組みました

実践した手法への印象について(来店者・従業員)

手法①

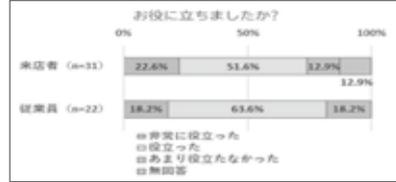
商品を購入後に実践できる
ワンポイントアドバイスを添えたコトPOP



野菜の保存方法のPOPについては、
従業員の93.1%・来店者の83.4%が「役立った」と回答

手法②

使いきりPOPや余りがちな食材活用レシピ



いずれも
従業員・来店者とも
90%以上が「好印象」

残りがちな野菜の簡単レシピについては、
従業員の81.8%・来店者の74.2%が「役立った」と回答

POPについて従業員からの意見

- ・読みたくなるような可愛いイラストと文字で目を引きました。保存方法等勉強になったので、ずっと付けて欲しいなと思います。
- ・男性の一人暮らしの方は、使い方が分からない人が多いので、料理方法のPOPは簡単なものは絵入りで、今後も付けた方が良いと思います。

小売店舗における食品ロス削減の取組みについて

<https://www.pref.osaka.lg.jp/ryutai/foodloss/kourizissyou-kekka.html>

アクセス実績：1590 (2022.10.24～2023.8.7：月平均アクセス約158)

2022年度 イベントでの啓発

「健活ワクワクEXPO in OSAKA」

10月8日(土)に、阪急うめだホールにて開催された食育イベント(大阪府・大阪府食育推進ネットワーク会議主催)に、管理栄養士養成校のブースとして出展



ブース内では食品ロスの啓発も行った。ポスターを掲示し、食品ロス削減レシピや啓発アルコールティッシュ等を配付した。
ステージでは、学生作成の紙芝居「もったいないおばけ」の動画を上映した。

各地域での啓発活動(健康まつりや食育活動)

東大阪市食育フェスタ



賞味期限あてクイズなど

阿倍野区食育展



フードロス低減に向けた「うさみんカフェ」



にんじんの切りくずを
混ぜて作ったパン

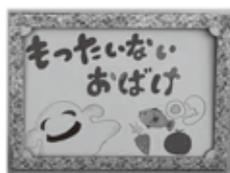
駅前マルシェ



保育園で紙芝居「おやさいレンジャー」

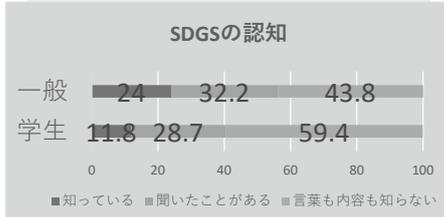


幼稚園で紙芝居「もったいないおばけ」

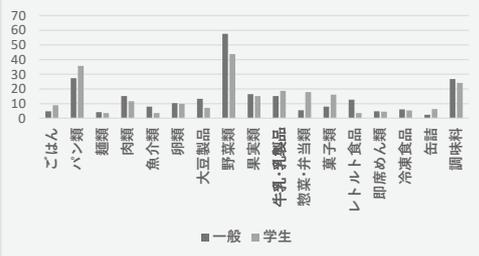


各大学での研究活動や情報発信

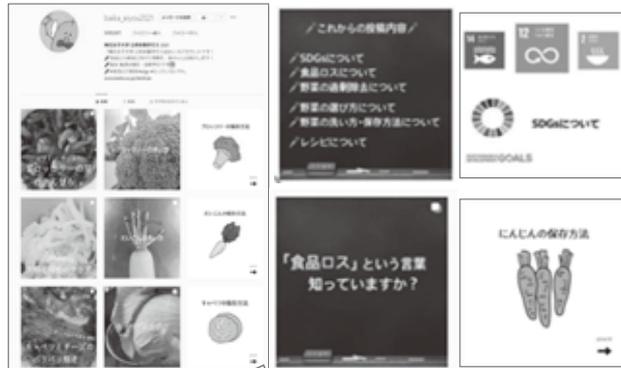
食品ロスアンケート実施 (一般住民と学生の違い)



直接廃棄をよくする・時々する食品



Instagramで情報発信



食品ロスの現状、野菜の過剰除去、食品ロス削減かんたんレシピなど

2023年度 ワークショップとその後の活動 これまでとこれから

取組みテーマ

『イベントなどの場で食品ロス削減の啓発活動を実践する。』

第1回ワークショップ

「誰に」「何を」「どのように伝えるか」を議論。その結果を踏まえて、各大学のゼミ活動で活動内容を具体化していった。



第2回ワークショップ

各大学のゼミ活動を報告。
啓発する対象に合わせたポスターや食育ツールを
それぞれ考案・製作し、実践に向けて準備が進ん
でいることが報告された。



実践した報告も！

第2回ワークショップ

活動発表後のグループワークで、8大学が連携・協働して食育イベントへ
出展する案を検討。



ブースでは・・・

- ・パズルやカードゲームなど参加型の啓発
- ・バックパネルにポスター掲示
- ・食品ロス削減アイデアレシピの配布

ミニステージでは・・・

- ・「もったいない」を啓発する劇の上演
- ・食品ロス削減アイデアレシピ動画の上映

2024年1月6日開催予定の食育イベントで実践予定。
各大学でのそれぞれの啓発活動も進めていく！

おわりに

食品ロス削減には、社会全体で食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図ることが必要で、地域と連携していくことは重要である。

府内8大学連携「“もったいないやん！”食の都大阪でおいしく食べきろう」学生プロジェクトは、大学が連携することにより大きな力となり、地域との連携も大きく進んだ。

今後も継続して、プロジェクト活動を推進していく。

学生プロジェクトにご指導、ご助言をくださいました大阪府の皆様、企業及び小売店舗の皆様、啓発事業にご参加くださいました皆様、心から御礼申し上げます。

府内8大学連携 学生プロジェクト

大阪公立大学(大阪府立大学)・大阪樟蔭女子大学

大手前大学・関西福祉科学大学・摂南大学

千里金蘭大学・相愛大学・梅花女子大学

学生発表⑤

■大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志

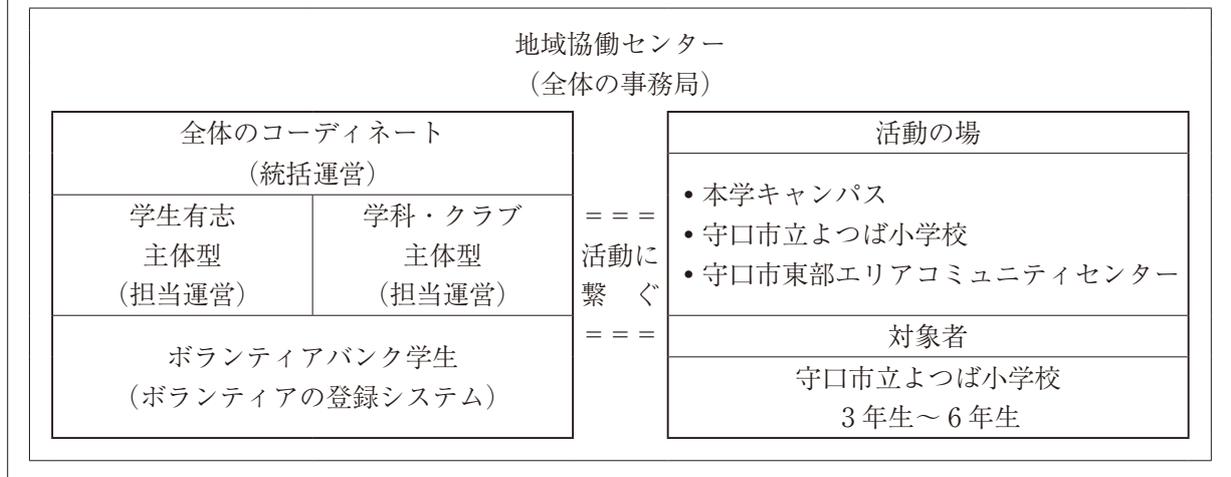
活動テーマ	子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり
活動場所	守口市立よつば小学校区
連携先	守口市立よつば小学校、守口市社会福祉協議会、守口市東地区民生・児童委員と実行委員会を組織し、定期的に取り組みの方向性や内容について協議している。
活動主体	大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部のボランティアバンク学生有志

1. 活動概要

OIU/OIC キッズキャンパスは、子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくりをテーマに掲げ、2017年4月からスタートしている。

組織については、地域協働センターが、学生のボランティアバンク（ボランティアの登録システム）の事務局となり、全体をコーディネートしている。その役割は、キッズキャンパスの企画概要の年間計画を前年度に決定し、2本柱として「学生有志主体型」と「学科・クラブ主体型」を組み、各主体へ依頼をかける。運営については、当センターが事務局として統括運営を行う。その下で、2本柱の各主体が具体的運営を行う。

参加対象は、守口市立よつば小学校の3年生から6年生までとしている。活動は、子どもたちとボランティア学生有志と一緒に、大学のキャンパスや守口市立よつば小学校で、毎月違ったアクティブプログラムを行うボランティアである。



2. 年間計画

4月 地域協働センターから関連する主体へ活動参加の依頼を掛ける。
5月 学生有志での参加を呼び掛けて、集まった学生で企画準備を始める。
6月 「学生有志企画」準備開始
7月 「学生有志企画」開催
8月 「学科・クラブ主体型」開催
9月 「学科・クラブ主体型」開催
10月 「学生有志企画」開催
11月 「学科・クラブ主体型」
12月 「学生有志企画」開催
1月 「学科・クラブ主体型」開催
2月 「学科・クラブ主体型」開催
3月 「学科・クラブ主体型」開催

3. 活動成果

総括成果

参加したボランティア活動を通じその意義、社会的価値を理解し、継続的に活動参加する学生が増えている。正課授業にプラスして、社会人や各種団体の方との接点、ボランティア対象者とふれ合いを通じて得られる体験、感性は極めて貴重なものとする。人間としての成長に大きく貢献するものと認識している。

2022年度

学生企画による「夏まつり（9月）」、「ニュースポーツ大会（10月）」、「お楽しみ大会（12月）」を守口市立よつば小学校、守口市東部エリアコミュニティセンターで開催し、多くの子どもたちとの交流ができ、保護者からの期待に応えることができたと同時に学生にとっても達成感につながった。

2023年度

学生企画による「お姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう（7月）」を守口市立よつば小学校で開催し、多くの子どもたちとの交流ができた。次回10月の学生企画に向けて、準備中である。

4. 地域からの評価

守口市立よつば小学校 校長 横山 美香 様

本校の3年生から6年生の子どもたちを対象に、学生さんとのふれあいを通じた居場所づくりをテーマとして、大学ならではの様々なことが体験できるよい学びの場、楽しい交流の場となっています。

守口市社会福祉協議会 事務局長 鳥野 洋司 様

地域と大学の結びつきを、学生と子どもの交流を通じて生み出しています。学生さんたちは、年長者としての自覚を見せてくれます。子どもをはじめ、社会福祉協議会や民生委員の人々との交流から、地域の多様な世代の人との接し方を実践で学ぶことは、社会に出てからも役立ちます。

守口市民生委員児童委員協議会 副会長 大井 由喜子 様

わたしたち民生委員の役割は、子どもたちに食事を調理し提供することです。学生の皆さんと子どもたちが、親しみを持って接している姿を見ると嬉しくなります。優しさと思いやりの心を育み、社会に出てからもそれを活かしてほしいと思います。

5. 参考 WEB サイト

<https://www.oiu.ac.jp/regional/event/kidscampus/>

QR コード



6. 活動メンバー

学生企画のメンバー（今年度）

国際教養学部 国際観光学科 4年次生 岡松 孝樹
国際教養学部 国際観光学科 4年次生 森 蓮太
国際教養学部 国際コミュニケーション学科 4年次生 黒田 夏帆
国際教養学部 国際観光学科 3年次生 平良 百絵
国際教養学部 国際観光学科 3年次生 青井李里子
短期大学部 ライフデザイン学科 2年次生 伊東 美憂
人間科学部 心理コミュニケーション学科 2年次生 古川 琴理
人間科学部 心理コミュニケーション学科 2年次生 山本真由貴
国際教養学部 国際コミュニケーション学科 1年次生 新村 彩花
人間科学部 心理コミュニケーション学科 1年次生 川端 亜衣
人間科学部 心理コミュニケーション学科 1年次生 秋宗かの子
人間科学部 心理コミュニケーション学科 1年次生 辰巳 凜果
国際教養学部 国際観光学科 1年次生 鶴原 巧翔
経営経済学部 経営学科 1年次生 寺前 里紗
経営経済学部 経営学科 1年次生 中川 愛菜
経営経済学部 経営学科 1年次生 濱田亜宋佳

7. 担当教員

学生有志主体型：地域協働センターの職員が担当
学科・クラブ主体型：学科教員、クラブ顧問が担当

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部	
所属先・職名	地域協働センター・職員	
氏 名	池田 寛之	
連絡先	電 話	06-6902-0617
	メー ル	hiro@oiu.jp

9. 活動の様子



2022年度 緑日（よつば小学校の中庭）



2023年度 「お姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう」

地産づくり

キッズキャンパス

子どもたちへの学習支援と居場所づくり

子どもたちへの学習支援と居場所づくりを目的に、2017年4月から開始しました。宇田川よつば小学校の20年生から6年生までの子どもたちがキャンパスに集まり、学生ボランティアと一緒に、毎月違った種類の学びを行うプログラムです。

- 主催 OIU/OICキッズキャンパス運営委員会
- 共催 大原国際大学 大原国際大学学生会
- 協力 宇田川よつば小学校 宇田川よつば小学校PTA

学生企画【お姉さんたちと英語で遊ぼう!】

国際教育学部 国際コミュニケーション学科 英語インテグレーションの学生たちが、英語に親しむプログラムを実施しました。

内容 英語の歌、踊りの身振りゲーム

※実施：6/25(日)

学生企画【ニュースポーツ大会】

ニュースポーツは、思いやりの心で楽しむことが大切。いつでも、どこでも、どこでも、気軽に楽しむことができます。子どもたちもスポーツウェアを着て楽しく参加しました。

内容 キンボール、モルック

※実施：10/15(土)

※会場：宇田川小学校 宇田川小学校中庭

学生企画【お楽しみ会】

子どもたちが喜びを感じるイベントを開催しました。メニューには学科での学びを通して、社会で活躍するコミュニケーション能力が高まる学生イベントプログラムあり【学びに繋がる遊び】となしました。

内容 OIUけんけん、文楽舞、クイズ、ジュニアゲーム、ボートレース、OIUボウリング大会、ピンポン

※実施：12/17(土)

※会場：よつば小学校

OIU・OIC キッズキャンパス米

京都府山崎村の大原国際大学山崎校にてコロナが流行で閉校体験、収容体験を行っています。また、SDGs(持続可能な開発目標)の取組として、大原国際大学山崎校山崎村社会福祉協議会等へ協賛して、食糧活動や地域福祉活動に役立ててもらっています。

子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり OIU・OICキッズキャンパス



大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部
「学生主体企画」メンバー

目次

1. 目的

- 1-1. 地域協働センター：事務局機能
- 1-2. 地域協働センター：役割・運営
- 1-3. OIU・OICキッズキャンパスの循環メカニズム
- 1-4. OIU・OICキッズキャンパスの活動の変遷
- 1-5. 地域のみなさまからのメッセージ
- 1-6. これまでの取り組みモデル

2. 「学生主体企画」の事例紹介

- 2-1. 活動の年間計画
- 2-2. 2022年度「縁日」
- 2-3. 2022年度「ニュースポーツ大会」
- 2-4. 2022年度「お楽しみ会」
- 2-5. 2023年度「大学生のお姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう」

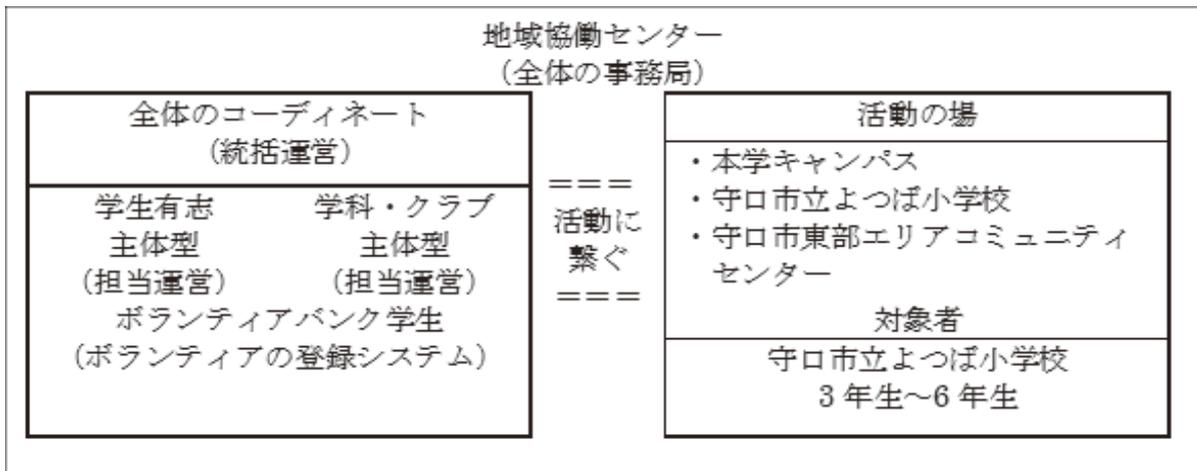
1.目的

子どもたちへの学習支援と居場所づくりを目的に2017年4月から開始しました。
 守口市立よつば小学校の3年生から6年生までの子どもたちがキャンパスに集まり、
 学生ボランティアと一緒に、毎月違った体験型の「学び・食育・遊び」を行うプログラムです。



1-1.地域協働センター:事務局機能

学生のボランティアバンク(ボランティアの登録システム)の事務局となり、
 全体をコーディネートしている。



1-2.地域協働センター:役割・運営

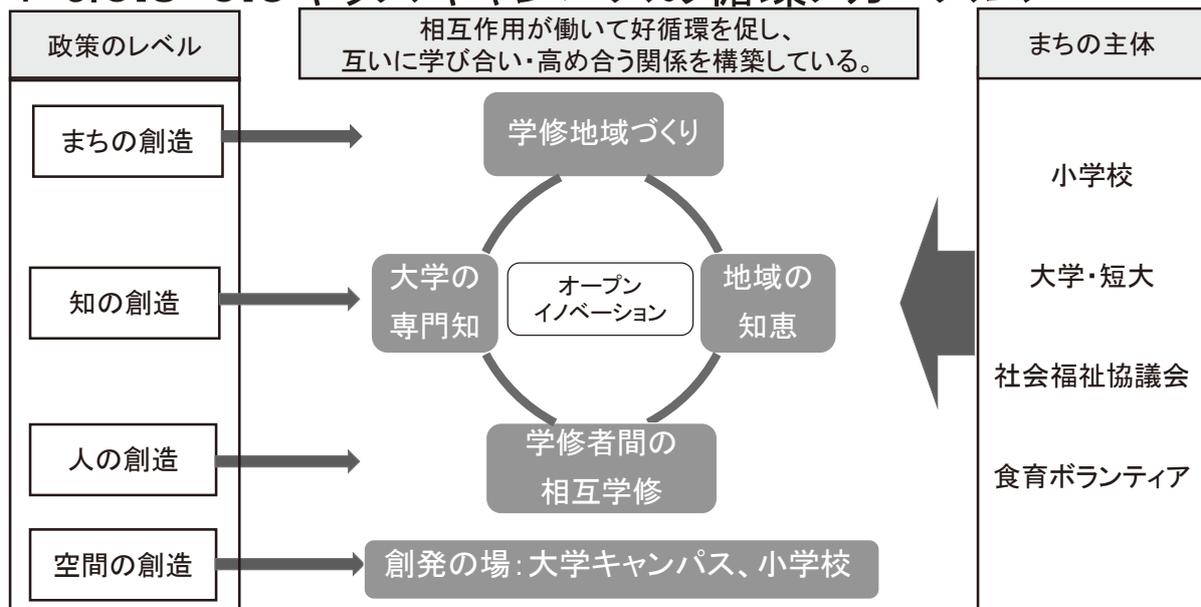
・役割

キッズキャンパスの企画概要の年間計画を前年度に決定し、2本柱として「学生主体型」と「学科・クラブ主体型」を組み、各主体へ依頼をかける。

・運営

当センターが事務局として統括運営を行う。
その下で、2本柱の各主体が具体的運営を行う。

1-3.OIU・OICキッズキャンパスの循環メカニズム



1-4.OIU・OICキッズキャンパスの活動の変遷

2017・2018年度	2019年度 Beforeコロナ	2020・2021年度 Withコロナ	2022・2023年度 Afterコロナ
対面式の活動	対面式の活動	回復力のある活動	回復力のある活動
子どもたちへの 学習支援 居場所づくり	プログラム 1)学生主導型 2)学科連携型 3)クラブ連携型 4)守口市社会福祉 協議会主導型 5)食育ボランティア 主導型 6)南山城村自然体験	「空間的」距離の置換 大学キャンパス ↓ 各家庭 「心理的」距離の置換 対面・ふれあい ↓ 動画配信	プログラム 1)学生主体企画 ※大きく成長 2)学科主体企画 3)クラブ主体企画

1-5.地域のみなさまからのメッセージ



守口市立よつば小学校
校長 横山 美香さん

本校の3年生から6年生の子どもたちを対象に、学生さんとのふれあいを通じた居場所づくりをテーマとして、大学ならではの様々なことが体験できるよい学びの場、楽しい交流の場となっています。



守口市社会福祉協議会
事務局長 島野 洋司さん

子どもをはじめ、社会福祉協議会や民生委員、その他近隣の人々との交流から、学生さんたちが地域の多様な世代の人との接し方について実践で学ぶことは、社会に出てからも大いに役立つと思います。



守口市民生委員児童委員協議会
副会長 大井 由喜子さん

学生さんたちはこの活動から優しさと思いやりの心を育み、社会に出てからもそれを活かしてほしいと思います。また、わたしたち民生委員も地域の子どもたちととても親しくなり、まちであいさつされることが増えました。

1-6.これまでの取り組みモデル

「学生主体企画」



「学科・クラブ主体企画」

2. 「学生主体企画」の事例紹介

「学生主体企画」、「学科・クラブ主体企画」
のうち、

学部・学科・学年の枠を超えて学生がつながる
「学生主体企画」の事例紹介



2022年度、2023年度

2-1.活動の年間計画

- 4月 地域協働センターから関連する主体へ活動参加の依頼を掛ける。
 5月 学生有志での参加を呼び掛けて、集まった学生で企画準備を始める。
 6月 「学生有志企画」準備開始
 7月 「学生有志企画」開催
 8月 「学科・クラブ主体型」開催
 9月 「学科・クラブ主体型」開催
 10月 「学生有志企画」開催
 11月 「学科・クラブ主体型」
 12月 「学生有志企画」開催
 1月 「学科・クラブ主体型」開催
 2月 「学科・クラブ主体型」開催
 3月 「学科・クラブ主体型」開催

2-2.2022年度「縁日」

<p>企画立案</p>	<p>コロナ渦で制限されている子ども達に夏の思い出をつくってあげたい。 わなげ、スーパーボール、コイン落とし、ピンポンカップイン、射的、お菓子引きの6つのブースを設けた。 宣伝方法は、チラシを作り、小学生の下校時に配布しに行った</p>	
<p>準備</p>	<p>6月後半から8月末に定期的に集まり準備を行ってきた。 6つのゲームブースを決定後、それらの作成に取りかかった</p>	
<p>当日運営</p>	<p>当日は見込み人数よりも多い300人以上の児童の参加があった。想像以上の人数の参加であったため、当日は景品が足りなくなったり、ブースの列が長くなるトラブルもあったが臨機応変に対応することができた。 終わりには、「夏の思い出ができて嬉しいです」といつくれた児童がおり、とても嬉しい気持ちになった。</p>	
<p>振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること</p>	<p>①景品が足りなくなるトラブルもあったが、買い足しにいたり、他の景品で補ったりと臨機応変に対応ができた ②長蛇の列の最後尾が分かりにくかったこと ③カラーコーンなどを利用していきたい</p>	

活動紹介

学生たちは、6月から夏休みの期間も定期的に集まり、イベントの発案、企画、チラシのデザイン、店舗作成、運営と全てのゲームを手作りし、試行錯誤しながら「実践的な学び」を修得することができました。また、子どもたちは、輪投げ、射的、ひもひきなど学生手作りのゲームに大喜びでした。閉会式では、よつば小学校の校長先生から学生へ感謝と労い、今後も連携強化していきたいことの感想をいただきました。

内容：スーパーボール掬い、輪投げ、ひもひき、ピンポンカップイン、射的、コインおとし

日程：9月10日

場所：よつば小学校中庭

参加：大学生16人、小学生300人



チラシのデザインと作成：皆木秋桜乃さん

学生の感想

小学校の先生、児童、そして一緒にやり遂げた仲間が嬉しそうな顔をしていたことが何よりも嬉しかったです。

3ヶ月間、縁日企画に参加して、貴重な経験を積むことができました。

一から計画を立てて実行して成功に終わらすことができたことは価値がありました。

企画、準備、巻き込み、宣伝など、日々積み重ねた結果が当日のイベントに大きく影響することを学びました。



よつば小学校 濱口校長先生から学生へ感謝と労いのお言葉をいただきました。

2-3.2022年度「ニュースポーツ大会」

企画立案	低学年はキンボール、高学年はモルックを行った。	
準備	3人の学生が主体となり、種目を決定した後に審判やルール説明、タイムキーパーなどといった役割を決めた。	
当日運営	始まりには、ガムテープに名前を書いて配布した。学生と児童の間で名前が分かり、コミュニケーションをはかることに繋がった。 児童は普段、行うことのない種目を経験して楽しんでいた。 当日、体調不良の子が出てしまう場面もあったが学生がついてあげ、保護者の方への状況説明、お迎えの連絡もしっかり行えた。	
振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること	①体調悪そうな子や怪我している子がいないかしっかりと周りを見れていた ②低学年、高学年で種目を決めていたが、途中で交代しても良かったのかなと感じる。 ③1つの種目のみならず、他種目も用意した方が飽きずに楽しめた。	

活動紹介

学生主体によるOIU/OICキッズキャンパス「ニュースポーツ」を開催しました。
学生たちは、小学生向けにルールのアレンジ、役割分担、安全配慮など全ての企画運営を行い、小学生からは次回も開催してほしいと大変好評でした。最後は食育ボランティアの皆様からカレーのお弁当をいただきました。

内容: キンボール、モルック
日程: 10月1日
場所: 守口市東部エリアコミュニティセンター
参加: 大学生11名、小学生21名



学生の感想

子どもたちが安全に楽しく当日をすごしてもらうために学生たちで何度も話し合い、試行錯誤の上、様々なことを決めました。当日、学生と小学生との交流が深まりよかったです。



2-4.2022年度「お楽しみ会」

<p>企画立案</p>	<p>じゃんけん列車、火水木、ポートボール、ジェスチャーゲーム、ビンゴを行った。 今回も同様、チラシを制作し、配布を行った。</p>	
<p>準備</p>	<p>スケジュールを立てた後には、誰が審判や得点係、ルール説明を行うのかを決めた。 当日は学生それぞれが、決められた役割をこなすことができた。 また、今回から名前を呼び合えるように名札を取り入れたため、トロの名札を<u>100枚以上</u>制作した。</p>	
<p>当日運営</p>	<p><u>50人以上</u>の児童の参加があった。 イベント終了後には、「またやって欲しい！今日は楽しかった」という声が多くあった。 また、トロの名札も大人気で、子ども達が持って帰ってくれたため、倍以上用意していた名札が全て渡った。</p>	
<p>振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること</p>	<p>①コミュニケーションをはかるために名札を取り入れたこと。 ②時間配分がうまく行かず、1つの種目を消してしまったこと。 ③キツキツなスケジュールを組まないこと。</p>	

活動紹介

小学生向けにルールのアレンジ、役割分担、安全配慮など全ての企画運営を行い、小学生からは次回も開催してほしいと大変好評でした。

内容:じゃんけん列車、火水木、クイズ、ジェスチャーゲーム、ポートボール、ゴロゴロドカンドッチビー、ビンゴ

日程:12月17日

場所:よつば小学校の体育館

参加:大学生10人、小学生56人



チラシのデザインと作成:皆木秋桜乃さん

学生の感想

関わりのなかった人と繋がりが出来たり、子どもたちの楽しそうな顔を見てやりがいを感じた。ドッチビーや時間で終わることを伝えるとまたやって欲しいとの声があって嬉しく思った。

子供たちをまとめることがどれだけ大変か、よくわかりました。実は少し小学生の子供には苦手意識がありましたが、みんな素直な子ばかりでとても楽しかったです。

「楽しかった!」、「またやってほしい!」との子どもたちが言ってくれてとても嬉しかったし、可愛かった。また、ビンゴの際に、子どもたちの景品がほしいような顔を見て、買い出しの時に学校までお菓子を運ぶ大変さが一気に飛んでいき、試行錯誤してもっと子どもたちの喜ぶ顔が見たいと思った。



2-5.2023年度「大学生のお姉さん、お兄さんと一緒に遊ぼう」

<p>企画立案</p>	<p>大学生と小学生の交流の場。今年からは制限なしでの開催。じゃんけん列車、鬼ごっこ、ポートボール、ドッジボールで遊んだ。小学校校門前にチラシ配布。</p>	
<p>準備</p>	<p>リーダーと先生の指揮のもとチラシ製作からゲームの内容や役割分担など2カ月かけ準備。授業の合間や昼休みなど隙間時間で打合せ。</p>	
<p>当日運営</p>	<p>当日は完全に学生主体での運営。</p>	
<p>振り返り ①良い点・継続すること ②課題、改善点 ③次にすること</p>	<p>①かなりの暑さだったため水分補給の時間を予定よりこまめに長い時間とった。各種目リーダーを主に指示する人が常にいた。 ②マイクの音が小さい。スポーツがメインのため男子児童が積極的に女子児童がボールに触れられていない場面があった。 ③マイクの音量。できるだけ多くの人が気軽に参加できる企画。</p>	

活動紹介

学生たちは、小学生向けにルールのアレンジ、役割分担、安全配慮など全ての企画運営を行い、小学生からは次回も開催してほしいと大変好評でした。

参加：学生16名、小学生18名

場所：よつば小学校の体育館

プログラム：じゃんけん列車、ポートボール、おにごっこ、ドッチボール



学生の感想

「楽しかった!」、「またやってほしい!」との子どもたちが言ってくれてとても嬉しかったし、可愛かった。また、ビンゴの際に、子どもたちの景品がほしそうな顔を見て、買い出しの時に学校までお菓子を運ぶ大変さが一気に飛んでいき、試行錯誤してもっと子どもたちの喜ぶ顔が見たいと思った。



学部・学科・学年の枠を超えた学生のつながりが育む 人の未来、まちの未来



学生発表⑥

■大阪公立大学 ボランティア・市民活動センターV-station

活動テーマ	シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”
活動場所	堺市東区・南区・美原区など
連携先	堺市社会福祉協議会、堺市東区役所、堺市教育委員会など
活動主体	大阪公立大学ボランティア・市民活動センターV-station

1. 活動概要

近年、スマートフォンの急速な普及にともない、その保有率は、若者だけでなくシニア層の間でも堅調に伸びている。インターネットや高性能なカメラ機能などを簡単に使えるようになった反面、シニア層にとっては多機能すぎることや慣れないタッチパネル操作などで、「うまく使いこなせない」という声も多い。行政や社会福祉関係機関でも、スマートフォンなどのデジタル機器が生活の質を向上させる重要な役割を担うことが期待されていることから、シニア層のデジタルデバインド解消は喫緊の課題として認識されている。そこで大学と連携した“学生によるスマホ相談会”を実施することとなった。具体的には、堺市役所の各部署や堺市社会福祉協議会各区事務所と連携して、地域の公民館などで“学生によるスマホ相談会”を実施している。相談会の内容は、スマホに馴染みのある学生たちが企画・構成しており、様々な学校間の連携も進んでいる。

2. 年間計画

◎2022年度：地域の依頼に答えながら実践を重ねノウハウを蓄積した

●「南八下校区スマホ講座」※堺市東区役所自治推進課との連携

南八下校区地域会館（堺市東区）を会場として、地域の方を対象とした、スマホの基本操作などを学べる「スマホ講座」の講師を担当した。連続3回講座

（実施日）

8月22日（月）「基本操作編」（参加者数：15名／参加学生数：7名）

8月29日（月）「カメラ・動画編」（参加者数：15名／参加学生数：7名）

9月12日（月）「アプリ編」（参加者数：18名／参加学生数：5名）

●「新松尾台校区スマホ相談会」※堺市社会福祉協議会南区事務所との連携

UR光明池駅前団地集会所（堺市南区）を会場として、自治会とも連携しながら、団地の住民を対象としたスマホに関するなんでも相談会「スマホ相談会」を実施した。3ヶ月連続開催。

（実施日）

9月11日（日）参加者数：7名／参加学生数：1名

10月16日（日）参加者数：5名／参加学生数：2名

11月13日（日）参加者数：1名／参加学生数：4名

●「高校生・大学生による高齢者向けスマホ相談会」※堺市社会福祉協議会南区事務所との連携

堺市社会福祉協議会南区事務所が事務局となっている「南区学校と地域のつながり方座談会」の枠組みを活用して、南区内の高校・大学の具体的な連携事業としてスタート。企画の立ち上げから、桃山学院教育大学・桃山学院大学・大阪公立大学の学生が参加。社会福祉協議会と連携して、複数の学校に所属する学生チームの組織化を行った。

実施日

- 企画会議（計10回開催）：打ち合わせなどを重ね学生チームの組織化を図った
8月26日（金）、9月11日（日）、10月1日（土）、10月18日（火）、12月1日（木）
12月15日（木）、1月12日（木）、2月2日（木）、2月16日（木）、3月9日（木）
参加学生数：のべ43名
- スマホ相談会：出張形式で複数の地域で相談会を実施した
2月24日（金）「原山台校区」（参加者数：約15名／参加学生数：6名）
3月9日（木）「御池台校区」（参加者数：約29名／参加学生数：6名）
3月17日（金）「南区さかいボランティア連絡会」（参加者数：16名／参加学生数：6名）
- 「ボランティアに役立つ！スマホの基本講座」※堺市社会福祉協議会東区事務所との連携
堺市東区役所（堺市東区）を会場として、東区民を対象とした、今後のボランティア活動につながることも意識してスマホの基本操作などを学べる「スマホ講座」の講師を担当した。

実施日

3月15日（水） 参加者数：14名／参加学生数：7名

◎2023年度：ノウハウを蓄積し、出前講座のパッケージ化を実現した上で、依頼を受けて実施

- 「企業による学びの応援プログラム」※堺市教育委員会との連携
このプログラムは、堺市教育委員会が企業やNPO、各種団体、大学等と連携・協働し、講師派遣や施設見学などの「地域貢献活動（CSR活動等）」を学習プログラムとして登録し、学校園やPTA、放課後児童対策事業所などで実施する教育活動に利用してもらうというもの。
これまで実施してきたスマホ講座のノウハウをプログラム化、V-station 名義で「スマホの基本操作をマスターしよう！」というプログラムを登録し、地域からの依頼に応じている。

堺市教育委員会のプログラム集掲載開始日

令和5年7月発行版より

【以下に現時点での実施予定を記載】

- 「簡単なスマホ講座」※美原区さかいボランティア連絡会との連携
上記の「企業による学びの応援プログラム」を経由した、美原区さかいボランティア連絡会からの依頼により実施するスマホ講座。堺市美原区役所（堺市美原区）を会場として、美原区さかいボランティア連絡会に参加している地域団体の構成員の方を対象とした、スマホの基本操作などを学んでいただく「スマホ講座」の講師を担当する予定。

実施予定日

9月8日（金）

- 「南八下校区スマホ講座」※堺市東区自治推進課との連携
2022年度と同様に、南八下校区地域会館（堺市東区）を会場として、「スマホ講座」の講師を担当する予定。連続3回講座。今後は、他校区での実施も区役所と検討していく。

実施予定日

8月25日（金）「基本操作編」

9月15日（金）「カメラ操作編」・「LINE操作編」

- 「生涯学習市民講座（初心者向けスマホ講座）」※堺市生涯学習課との連携
月1回実施される生涯学習市民講座の10月講座として、堺市民を対象としたスマホの基本操作などを学べる「スマホ講座」の講師を担当する予定。

実施予定日

10月16日（月）

3. 活動成果

スマホ相談会は、スマホが日常生活に不可欠になるほど活用している10代,20代にとって、地域に貢献できる1つの手段となりつつある。ただし、学生はあくまでも“業者”ではないため、全ての質問には答えられない。しかし、そんな学生だからこそ、地域の人にとって良い面が主に2点あることがわかってきた。1つ目は「同じ目線で悩める」こと。業者でないからこそ、高齢者が持つスマホの悩みに対して、一緒に悩み、一緒になって調べることができる。その中で、わからないことがあるときの調べ方を伝えたり、互いに新発見できることがある。2つ目は「気軽に相談できる」こと。高齢者の中には、家族に分からないことを何度も聞くうちに質問に答えてくれなくなった人も多い。その結果、誰にも気軽に聞けなくなったという話をよく聞く。そんな時に、自分の子でも孫でもない、友達でもない、そんな学生にだからこそ気軽に質問できることがわかってきた。

4. 地域からの評価

実施の際には毎回アンケートをとっており、地域の方からは「誰に聞いたら良いか分からなかったことを教えてもらい助かった」「いつも側にいてくれ、分からない時、その都度聞くことができよかった」「若い人と話す機会にもなって良かった」などの高評価をいただいている。また、アンケートを通して、スマホの扱いについての疑問解決だけでなく、昨今交流が減っている高齢者と若者の交流が、スマホ相談会を通して促進されていることに対する高評価もあり、「多世代交流の機会」としても重要な機会だと捉えられている。こうした面もあることから、行政や社会福祉関係機関においても、“業者によるスマホ相談会”とは異なる“学生によるスマホ相談会”の重要性を見出してきており、大学への協働依頼が相次ぐ理由となっている。その中で、堺市東区長からは2022年10月に感謝状を授与され、実際に地域からの評価が形となって現れてきている。

5. 参考WEBサイト

「企業による学びの応援プログラム」(堺市ホームページ)
https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/kyoiku/gakko/suishin/df_filename_7200311170831817.html#cmsAA157

6. 活動メンバー

当活動はそれぞれの活動において活動メンバーを募集する「プロジェクト型」で行っているため、各活動において中心を担う学生が異なる(連携機関との打ち合わせから参加する学生もいれば、相談会当日のみ参加する学生もいるなど参加形態も異なる)ため、以下には常に中心となって動いている学生のみ記載する。

工学域4年 陳代修平

7. 担当教員

なし

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪公立大学	
所属先・職名	学生課 ボランティア・市民活動センター ボランティアコーディネーター	
氏 名	松居 勇	
連絡先	電 話	072-254-7484
	メー ル	gr-gks-volunteer@omu.ac.jp

9. 活動の様子



スマホ相談会の感想ってどんな感じ？

相談会に参加された方の感想 ※アンケートから抜粋

・長年分からなかった事が解決した！
 ・学生さんに一生懸命教えて頂き、とても良かった！
 ・誰に聞いたら良いか分からなかったことを教えてもらい助かりました。

・若い人と話す機会にもなって良かった。ありがとう！
 ・雰囲気の良い感じでよかった！
 ・今後も、時々相談を聞いて欲しいと思った！

・基本操作から教えてもらえてとてもよかった！
 ・QRコードを街中でよく見るので読み取り方を教えてよかった！
 ・LINEで写真を送れるようになって嬉しい！

- * スマホの扱いに関する疑問が解決するだけでなく、
 - * 高齢者と若者の交流が、スマホ相談会を通して促進されている
- 「多世代交流の機会」としても重要な機会

コラボ企画

スマホ相談会は様々な企画とコラボしやすい！

コラボ例①

警察と連携したサイバー防犯

「詐欺」や「迷惑メール」などの「サイバー犯罪」最近どんどん増えています。スマホ相談会とあわせて、警察の方からサイバー防犯に関する講演を実施すると、相性抜群です！

コラボ例②

SNSを利用した広報講座

地域団体などで広報力不足などが課題としてあげられることが多い中、スマホ相談会の1つのテーマとして「SNS」を取り上げることが可能！この機会に、InstagramやTwitterなどに触れてみて、活動に活かしてみませんか？

このパンフレットの作成

2022年度、堺市南区区内において
 スマホ相談会を実施した学生有志

活動に取り組んだ学生の所属

桃山学院大学・桃山学院教育大学
 大阪公立大学・堺東高校

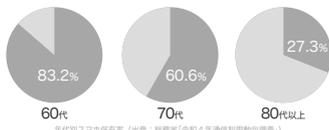
活動サポート・パンフレット作成協力

(福)堺市社会福祉協議会 南区事務所



スマホ相談会をめぐる現状

現在、スマートフォン(スマホ)の保有率は、若者だけでなく、年齢が高い人でも堅調に伸びています。



簡単にインターネットや高性能なカメラ機能などを使えるようになった反面、多機能すぎることや慣れないタッチパネル操作などで、「うまく使いこなせない」という声も多く届くようになりました。

スマホ相談会でいただく質問例

例えば、スマホ相談会では、このような質問をいただきます。



その他の質問

- ・迷惑メールの削除方法
 - ・アプリのダウンロード方法
 - ・メールの着信音の設定方法
 - ・削除した写真の復元方法
- などなど

そこで!

スマホを使い慣れている
 若者の力を活かそう!

学生によるスマホ相談会

9割以上の方がスマホを持ち、スマホが日常生活に不可欠になるほど活用している10代、20代なら、なにか地域の役に立てるかもしれない...!

今では「学生が地域で活動する1つの手段」として、「多世代交流の機会」としても、普段なかなか接点がない高齢の方と若者が楽しくスマホについてお話しする「スマホ相談会」が全国で盛んに開催されています。



参加した学生側の感想



スマホを持ち始めた祖母・祖父の姿を通して、他の方にもスマホへの苦手意識やハードルがあるように思い、お手伝いしたいと思ったのがきっかけで参加しました!

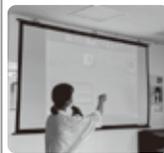
今自分が持っている知識をアウトプットするだけで活動に参加できたので、参加のハードルも低かったです。

また、普段あまり話すことがない高齢者の方たちと交流できる貴重な機会でしたし、参加者の方が「わかった!」と喜んでくれる姿がモチベーションになりました!

実際のスマホ相談会ってどんな感じ?

学生によるスマホ相談会には大きく2つの形式があります。地域のニーズにあわせた開催形式を選択することが大切です。

1 講座形式



事前に資料などを用意して、順序立てて説明していく形式です。Wi-Fiの繋ぎ方や、写真の保存の仕方など確実に知ってほしいことがあるときに開催しています。

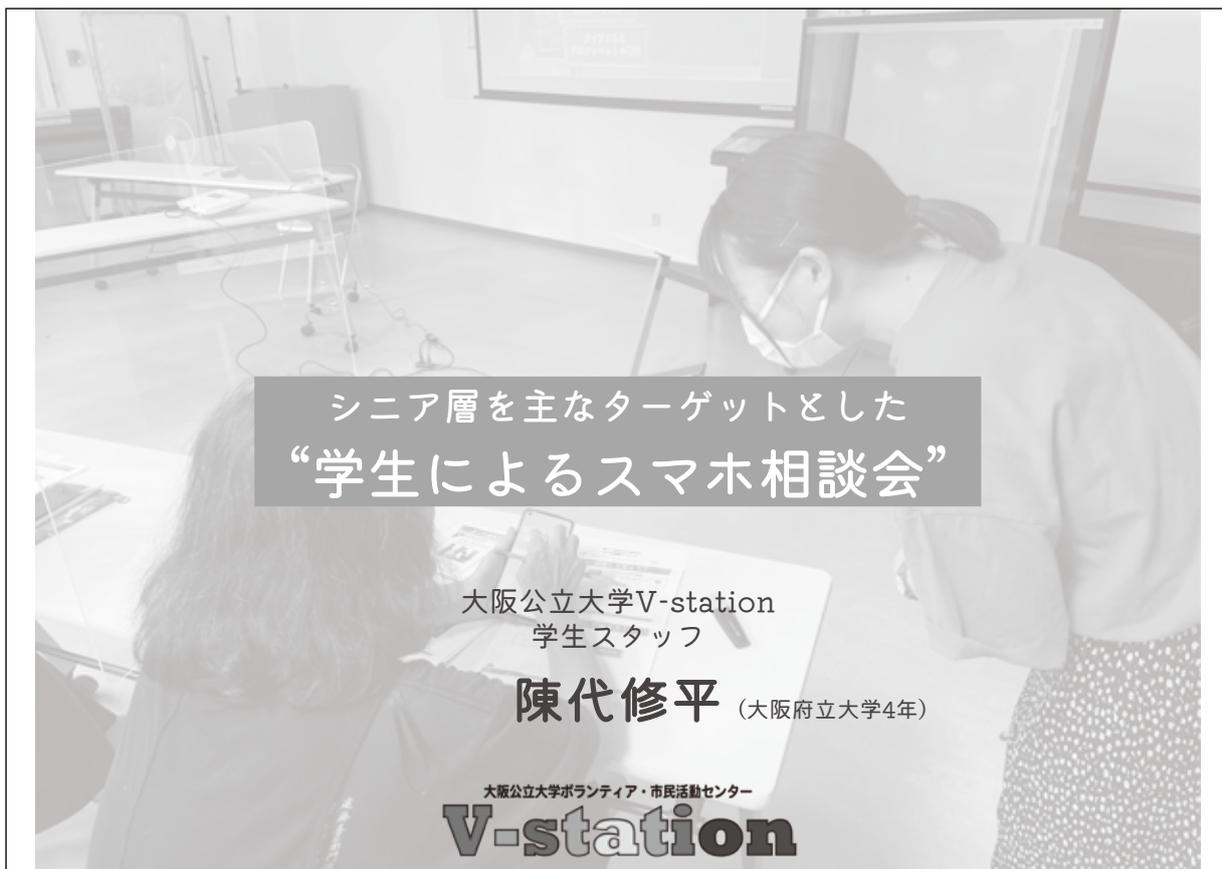
2 フリー相談形式



わからないことを自由に相談できるブースを設置して開催する形式です。個別にじっくり相談でき事前準備も少なく実施しやすいです。何が分からないのかわかる人に向いています。

学生が関わるスマホ相談会の特徴

- ① ただの学生なので、全ての質問に完璧には答えられません! だけど、一緒になって調べます! 学生は「業者」ではありません。でも、だからこそ、一緒になって調べます。一緒に悩めます。その過程で、わからないときの調べ方をお伝えできたり、お互いに新発見があるかもしれません。
- ② 家族でもないし、業者でもないからこそ、相談できることがあるかもしれません。分からないことは何度でも聞きたくなるもの。でも、ご家族には「何回も聞かないでよ!」と言われる方も多います。自分の子でも孫でもない、友達でもない、そんな学生にだからこそ気軽に質問してください。



シニア層を主なターゲットとした
“学生によるスマホ相談会”

大阪公立大学V-station
学生スタッフ

陳代修平 (大阪府立大学4年)

大阪公立大学ボランティア・市民活動センター

V-station

Question

スマホを**普段**使っている人は
どのくらいいますか？

スマホを**4~5年**の間で
持つようになった人はいますか？

スマホの操作に**不安**がある人は
どのくらいいますか？



01

Contents

01

スマホ相談会を めぐる社会の現状

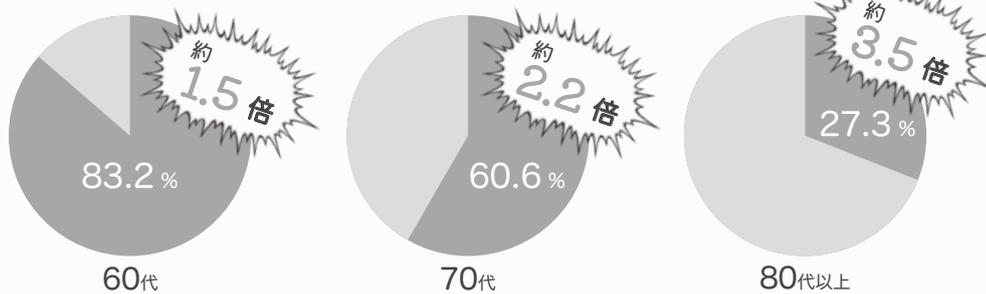
02

Contents

01

スマホ相談会をめぐる社会の現状

◎スマートフォン(スマホ)の保有率は、若者だけでなく、シニア層でも堅調に伸びている



※令和4年の保有率を平成30年の保有率と比較

令和4年の年代別スマホ保有率
◎出典：総務省「平成30年通信利用動向調査」
「令和4年通信利用動向調査」

インターネットや高性能なカメラ機能などを簡単に使えるようになった反面
「うまく使いこなせない」という声も届くように

03

スマホ相談会をめぐる社会の現状

例えば、以下のような不安を持つ人がいます



04

スマホ相談会をめぐる社会の現状

社会のデジタル化が急速に進み、また、行政手続のデジタル化が目指される中、デジタルに不慣れな方々が、相対的に不便になってしまうことがないように対策を行うことが重要

社会のデジタル化

行政手続きのデジタル化

行政や社会福祉関係機関、ボランティア関係機関において
日頃からスマホを使いこなしている人が、
デジタルに不慣れな方に寄り添い、
身近な地域での支え合いに繋げる動きが盛んに

QOLに
直結！

05

Contents

02

そもそも V-stationとは？

06

Contents

02

そもそも V-stationって？

学生を“ボランティア”とつなげるべく学生サークルとして始動。その後、大学公認のセンターとなり、2016年からは堺市の委託を受け「ボランティア・市民活動センター」として市民活動の拠点に。



V-mate

- ・2007年～
学生有志による自主活動として開始

大阪府立大学
ボランティアセンター

- ・2009年11月～
大学の部署として設置



「学生が社会問題への関心を高め、その問題を解決する主体は自分たち一人ひとりだ」という意識を持つ」

この思いを大学中に広めるため、ボランティアセンターの設立をめざしました。

大阪府立大学
ボランティア・市民活動センター

- ・2016年度～2018年度
堺市「大学における市民活動促進業務」受託運営(堺市産学公連携推進事業)
- ・2019年度～2021年度
堺市「市民活動に係る大学間ネットワーク構築推進等業務」受託運営

大学
統合

大阪府立大学
ボランティア・市民活動センター

- ・2022年度
堺市「大学等連携を通じた市民活動促進業務」受託運営
→現在は堺市と協定を結び、引き続き市民活動拠点として機能

07

V-mate登録制度

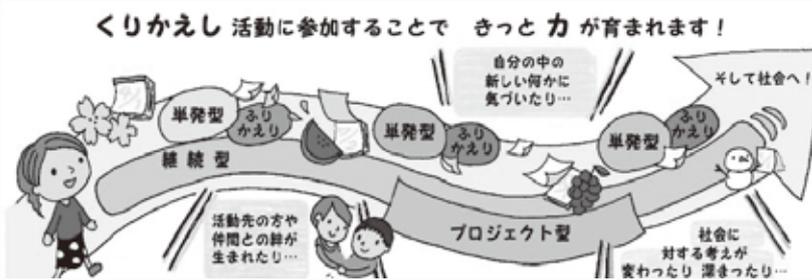
「V-stationを通じてボランティア活動をする人」

府大生に限らず、他大生・社会人など一般の人でも登録できる。
活動の関わり方は人それぞれ。

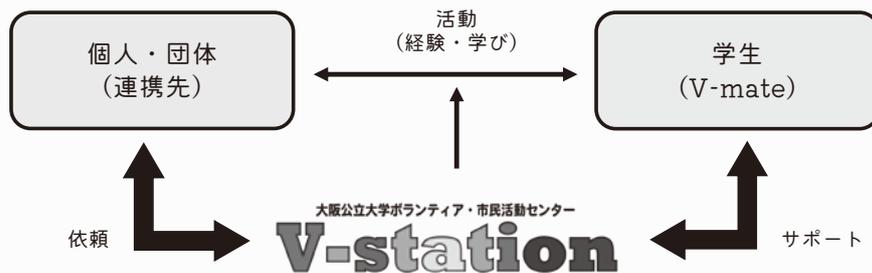
活動への単なる「参加者」だけでなく、
自らが活動の「作り手」になることも積極的に促しています。



毎日新聞 2021/6/4
「参加者」から「創り手」へ



V-stationのコーディネート



- ・ボランティア活動先での人との交流、友達づくり
- ・普段の生活ではなかなかできない体験ができる
- ・自分の目で社会の現状を感じることができる

▶学生の日常

授業、課題、部活動・サークル活動、アルバイト、ボランティア etc...

生活スタイル (一例)

- スタイルとして不完全であり、その学生自身に合ったスタイルを作っていく過程
- 生活内でボランティア活動が大きなウェイトを占める場合も (その逆も)
- 活動ペースを一緒に考えていく伴走者が大切

ボランティア活動の捉え方 (一例)

- 新たなスキルを身につける手段(経験)・自分の興味のあるものを探す手段(自分探し)など
- ボランティア活動を通して、何かをしたいと考えている学生がいる
- その学生が「したい」ことに合わせて、一緒に活動内容を考えていく過程が大切

V-stationのコーディネート

▶地域と一緒に様々な実践をする中で見えてきたこと

学生たちが達成感を感じ、次も何か続けていきたいという声がよく聞こえてくるのは学生自身が頭を使って地域の方と一緒に携わっていた活動。

学生のアイデアや「役」というものをどのようにして発揮していくかというところを考えながらやっていると、活動としても盛り上がる傾向がある

➡ **新たな創造（チャレンジ）へのこだわり**

大学は、地域に変化をもたらす

起爆剤

V-stationが関与した
スマホ相談会の取り組み

スマホ相談会の形式

学生によるスマホ相談会には大きく2つの形式があり、地域のニーズにあわせた開催形式を選択することが大切

講座形式



事前に資料などを用意して、順序立てて説明していく形式です。

Wi-Fiの繋ぎ方や、写真の保存の仕方など確実に知ってほしいことがあるときに開催しています。

何を聞けばいいかわからないような初歩でつまづいた人も参加しやすいです。

フリー相談形式



わからないことを自由に相談できるブースを設置して開催する形式です。

個別にじっくり相談でき事前準備も少なく実施しやすいです。

何がわからないのかわかる人向けの開催に向いています。

南八下校区(堺市東区)

講座形式

開催日時(参加人数/参加学生数)

2022年

8月22日(15名/7名)

8月29日(15名/7名)

9月12日(18名/5名)

ポイント①

講座形式での実施

知っておきたい基本操作をもれなく伝えるため、講座形式での実施となった事例です

ポイント②

連続講座形式

「基本操作編」「カメラ・動画編」「アプリ編」と開催回ごとにテーマを設定し、気になるテーマの機会に参加できる方式をとりました



開催日時(参加人数/参加学生数)

2022年
9月11日 (7名/1名)
10月16日 (5名/2名)
11月13日 (1名/4名)

スマホ教室のご案内

スマホ何でも相談室&脳トレ

スマホの使い方に悩んでいる方
大学生がいっしょに解決します。
脳トレにもチャレンジ!!

日時: 10月16日(日) 午後3時~4時30分

会場: 光明池駅前団地集会所

講師: 大阪公立大学の学生ボランティア他

参加費は無料です。団地住民であれば
どなたでもOK。

初回参加した方もOK。

個別対面方式でいっしょに解決します。

11月13日(日)も開催を予定しています。

<感染症予防のため、マスク着用・手洗消毒・検温をお願いします>

主催: 光明池駅前団地自治会



ポイント① フリー相談形式での実施

気になることを、好きな時間になんでも気軽に聞ける
空間づくりにこだわりました

ポイント② 定期的な開催

団地の集会所を使って、毎月1回定期的に開催
しました。近所の人、知り合いを連れて一緒に参加
する方もいました。



掲載日時

令和5年7月発行版より

2023年9月8日実施の美原区
さかいボランティア連絡会への
「簡単なスマホ講座」につながった

企業による学びの応援

プログラム集

—堺市教育委員会—

堺市教育委員会では、企業やNPO、各種団体、大学生と連携・協働し、課題解決や施設見学を
はじめとした「地域貢献活動」(CSR活動)や「学習プログラム」を実施し、学校やPTA、教員
生活や事業活動などで行われる子どもたちへの学習機会を拡大し、地域や社会活動に貢献するこ
とで、学校教育活動や地域活動の活性化を支援しています。

講師派遣 スポーツ 社会見学 体験活動 教材提供 オンライン



SDGs未来都市・堺
堺市ホームページ トップページアドレス: <http://www.city.sakai.jp/>
堺市ホームページで最新の情報やプログラムを掲載しています!

ポイント 市のプログラムとして登録されている

V-stationでは、スマホ相談会を「出前講座」※の1つ
として、依頼があればどの地域にも講座を届けられる
ように準備しています。

さらに、堺市教育委員会と連携してこのプログラムに
登録することで、スマホ相談会を堺市内の地域や学校
で実施できる体制を整えています。

コース 番号	A-K12	提供企業・団体名	大阪公立大学 ボランティア・市民活動センター V-station			
プログラム名	スマホの基本操作をマスターしよう!	実施 場所	室内 (教室・体育館)			
対象	大学生が講師役(ボランティア先生)になり、出前授業を実施します。	対 象	大人	定 員	10名以上	
所要 時間	1. 基本操作(タップ、検索) ・スマホの各部名称を知っておこう! ・タップ操作の基本を覚えよう! ・Wi-Fiに接続してみよう! ・インターネットで検索してみよう! など	所 要 時 間	45分~90分 (応相談)	必要 経 費	無料	
準備物	2. 電話の使い方 ・電話をかけてみよう! ・連絡先を登録してみよう!	準 備 物	プロジェクター、スクリーン(又は大型モニター)、パソコン (パワーポイントの起動できるもの)、マグネットが使用で きるボード等			
その他	3. メールの使い方 ・メールを操作してみよう! など 4. 2次元コードの読み取り方 ※講座の内容はお申込者の希望に応じて変更させていただきます。	そ 他	・お申し込み後に、講師を務める学生ボランティアの調整をさ せていただきます。 ・授業期間の都合上、8月下旬~9月、2月下旬~3月が依頼を お引き受けしやすいです。			

※他にも、ボランティアのイロハを伝える「ボランティア先生授業」や、防災/環境/福祉などテーマに応じた出前講座を随時実施している 15

Contents

04

スマホ相談会から 見えてきたこと

16

Contents

04

スマホ相談会から見えてきたこと



スマホ相談会開催時のポイント



双方向の多世代交流



持続的に学生が地域に関わる仕組みづくり

17



スマホ相談会開催時のポイント

課題① どのように集客するのか

相談会単体では、十分な集客が
できないことがあることがわかった



従来から存在する地域の集まりなど
を活用して、開催することがポイント



ふれあい喫茶との同時開催など

課題② 何を伝えるのか

スマホをうまく活用してもらうことで
各々のQOLを向上させるのが最終目標



積極的なコラボ企画を行うことも
ポイントの1つ



警察と連携した詐欺防止講座や
スマホを活用した広報力アップ講座など



18



双方向の多世代交流



参加された方々の感想
(抜粋)

- ・若い人と話す機会にもなって良かった。ありがとう！
- ・雰囲気明るい感じでよかった！
- ・年の差交流の必要性を感じた
- ・今迄、お会いしたことが無い人達とお話し出来て良かった



スマホ相談会が、**多世代交流の機会**として機能している

子や孫ではない若者だからこそ話しやすいという話があり、
こういったナナメの関係を増やしていくきっかけとして
スマホ相談会を活用していけることがわかった

19

**課題** 何が継続のネックになっているのか

学生は日々、授業だけでなくバイトやサークル、インターンなどに追われている。その中で生まれる数少ない時間を、生活費や学費などのためにアルバイトに割いており、他に关わる時間があまりないという人も多い。
(その結果、ボランティア活動をやめる人もいる)

下宿生を中心に、本当は大学の周りで働きたいが、働ける職種や場所が少ないという話もよく聞く



地域のために何かすることで、お金ももらえる仕組み

コミュニティバイトという提案

アルバイトの予算は、基金のようなものを立ち上げ、個人や地元企業から協賛金を募るなど地元の中でお金が回る仕組みを構築
地域全体で協力して負担しながら、地域で活動する人を支える仕組み

20

最後に...

活動に参加している学生の声の紹介



スマホを持ち始めた祖母の姿を通して、他の方にもスマホへの苦手意識やハードルがあるように思い、お手伝いしたいと思ったのがきっかけで参加しました！

今自分が持っている知識をアウトプットするだけで活動に参加できたので、参加のハードルも低かったです。

スマホのことだったら自分でも気軽に答えられるかもと思って参加しました！

また、色々な方とスマホの悩みを通じてお話できたり、悩みが解決すると喜んでもらえることも嬉しかったです！



普段あまり話すことがない、高齢者の方たちと交流できる貴重な機会だからというのと、自分がなんとなく使っているスマホの知識で、誰かの役に立てることに嬉しさを感じたから参加しました！

参加者の方が「わかった！」と喜んでくれたりすると、確かに役に立っているという実感があったり、スマホの解説を通して、高齢者の方と色々な話（お孫さんの話や、今ハマっているものの話など）をするのが楽しかったことが、モチベーションにつながりました！

21



お問い合わせ

担当：松居 (ボランティアコーディネーター)

皆様からのご依頼・ご相談
お待ちしております！

平日 9:00～21:00 / 土曜 13:00～17:00 / 日祝 休み

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパスB12棟2階

Tel : 072-254-7484 / FAX : 072-254-6442

Mail : gr-gks-volunteer@omu.ac.jp

各種広報媒体



公式HP



Instagram



Twitter



LinkTree



22

ご清聴いただき
ありがとうございました！



学生発表⑦

■大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」

活動テーマ	既存団地の活性化
活動場所	寝屋川市 三井が丘
連携先	大阪府住宅供給公社、寝屋川市
活動主体	大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」

1. 活動概要

寝屋川市の空き家の問題を調査することを始めた時期に、香理三井団地のニコイチのプロジェクトをきっかけに、空き家が目立ち始めた団地に関わる人たちを笑顔にしようと、ニコニコのデザインプロジェクトが始まった。

プロジェクトのキーワードを「温故知新」と設定し、1年目は「古きをたずね、団地を知る」ことで、建設から50年が経過した団地の魅力を知り継承する。2年目は「新しきを知り、団地で実践する」ことで、現代のライフスタイルに対応する住まいを創ることを目標としている。知ることと実践することのサイクルを繰り返すことで、時代に応じた取り組みを、住民目線に立って出来ることから始めようとしている。

次年度以降も公社と大学と市、そして補助事業主体である国交省とも連携しながら、オールドタウン化した街に対しての新しい再生スキームを確立していく。今後は大学内の様々な分野へ体制を広げていき、団地のニーズに応えたいと考えている。

2. 年間計画

- 4月 メンバー募集開始
- 5月 前年度活動の振り返り、まちづくり推進課との連携検討、団地在住の学生インタビュー
- 6月 夏イベントに向けた企画考案、イベント時のアンケート考案
ニコニコのデザインプロジェクトの専用 web サイトオープン
「DIYつくろう家」における学生の配色提案開始
- 7月 夏イベント告知チラシ配布、学生による全住戸アンケートの骨子案作成
「DIYつくろう家」における学生の配色提案
- 8月 夏イベント「三井竹祭り」開催
イベント事後チラシ配布
「DIYつくろう家」における学生の配色提案決定
- 9月 アンケート集計、シンポジウムに向けた構想
- 10月 シンポジウムに向けた呼びかけ、報告書まとめ、冬イベント企画考案
- 11月 冬イベント開催
- 12月 成果まとめ、シンポジウム開催

3. 活動成果

イベントは今までで4回企画し、その都度アンケートの制作と実施を行った。アンケートの内容は「団地でお気に入りの場所はありますか」「改善してほしい所はありますか」などの設問を設けた。その結果、ボトムアップ方式で住民の声を拾うことが出来、団地の需要を知ることができた。直近の8月に行ったイベントでは団地の近くに生育している竹林を使って行灯やモニュメントを使うことで地域資源の可能性を見出せることができた。次年度は得られた需要や住人さんの声をもとに団地でのデザインを実施していく予定である。

4. 地域からの評価

最初は住人から知られていないプロジェクトで、イベントをしても自治会の役員の方のみの4人の参加者だった。しかし、チラシや広報活動・イベントを繰り返していくうちにプロジェクト自体が周知されていき、その結果、前回のイベントでは計100人以上の人がイベントに参加していただいた。イベント後、住民の方々から「団地でのお祭りイベントは10年ぶり子どもたちの顔が見られてよかった」「久しぶりに地域の人と話せて良かった」といった喜びの声を直接いただいた。アンケート結果では「今後もイベントに参加したいか」という設問では回答者26名全員が「参加したい」と回答した。

これらから、住民たちにとっても地域交流の需要があることがわかり、私たち学生が住民同士の繋がりを築く役割を果たせる可能性があると感じた。

次のフェーズは「団地での実践」ということで、地域拠点や交流拠点のデザインを継続的に発展させていきたいと考えている。

5. 参考WEBサイト

<https://nikoniko.danchi-renovation.com/>

6. 活動メンバー

大阪電気通信大学大学院 工学研究科 工学専攻 博士前期課程 建築学コース
大学院2年 福島 颯樹
大学院1年 尾崎 理、篠原 優太
大阪電気通信大学 工学部 建築学科
学部4年 古本 直輝、杉山 空良、飛永 伊吹、本多 純（広報担当）
学部3年 上川 海人、吉村 直記

7. 担当教員

大阪電気通信大学 工学部 建築学科 准教授 北澤 誠男

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	工学部 建築学科 准教授	
氏 名	北澤 誠男	
連絡先	電 話	072-824-1131
	メー ル	kitazawa@osakac.ac.jp

9. 活動の様子





香里三井団地 「ニコニコのデザイン」プロジェクト

2023年10月22日



「ニコニコのデザイン」プロジェクト 2022年度成果報告 contents

・プロジェクト紹介:「ニコニコのデザイン」のすすめ

1.報告

団地を知る

- 1-1. 周辺敷地調査報告
- 1-2. 新秋のイベント報告
- 1-3. 冬のイベント報告
- 1-4. 春のイベント報告
- 1-5. 夏のイベント報告
- 1-6. アンケート報告

2.提案

団地を動かす

- 2-1. 団地外構の提案
- 2-2. 団地外装の提案
- 2-3. 団地内装の提案
- 2-4. コトを起す提案

3.展望

団地の未来

- 3-1. 計画手法
- 3-2. 今後の予定



「ニコニコのデザイン」のすすめ ーはじめにー

香里三井団地(こうりみいだんち)の概要

- ・管理開始: 1969年(昭和44年)
- ・管理戸数: 約340戸・間取り: 2LDK/3DK(約45m²)ほか
- ・家賃: 3万5千円～
- ・近隣含め約1千戸の賃貸団地群を形成
- ・大阪電気通信大学からは車で10分程度の距離

香里三井団地(こうりみいだんち)の課題

- ・経年による「オールドタウン化」
- ・最寄駅まではバス便利
- ・市内平均より低い「居住意向」
- ・高齢化率40%超(市平均約30%)
- ・空家率15%超(50戸以上が空室)
- ・自治会の若手、担い手不足など



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

3

「ニコニコのデザイン」のすすめ ー1年目の活動概要ー

住民との交流 →「団地を知る」ための第一歩

- ・交流イベント1: ボランティアカード配布など
- ・交流イベント2: かまどベンチによる焼き芋大会など
- ・交流イベント3: 団地再生に関する住民とのワークショップなど
- ・交流イベント4
- ・団地暮らしに関するアンケート、インタビュー



学生目線での情報発信 →ファン・サポーターの獲得

- ・手作り新聞やチラシ(居住者向け)
- ・WEBサイト
- ・SNS



団地・まちづくりに関する調査研究 →「団地を知る」「地域を知る」

- ・景観に関するアンケート
- ・フィールドワーク
- ・建築の研究(DIYや解体体験イベント)
- ・活動成果報告会



団地再生事業報告 →ステークホルダー向けPR

- ・広報記事のWEBサイト掲載
- ・まちづくりシンポジウム(予定)

※以降二年目の「団地での実践」に繋げるとともに、「団地を知る」ことも継続。



Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする

4

「ニコニコのデザイン」のすすめ 一街が笑顔になるために

これまでの団地再生の先行事例にない「ニコニコのデザイン」の三つ新規性

- ①マスタープランやコンペなどトップダウン方式や再開発方式ではない
— これまでの課題を探して随時解決していくボトムアップ型 —
- ②民間主導ではない学生の提案・学生の手を使った団地再生方式
— イベントアワーではなく学生ならではのコミュニケーション提案 —
- ③団地だけでなく地域を含めた団地資産の発掘に関する調査研究
— 都市まちづくり研究室のノウハウにより魅力の再発見 —

大阪府住宅供給公社
トータルマネジメント

事業開発
イノベーション企画

企画募集
学生の入居斡旋

SMALIO
お住まいのまちづくり

香里三井団地の皆さん
近隣の皆さん

大阪電気通信大学
(OECU)

OECU 地域連携室

②産官学連携の支援

寝屋川市まちづくり推進部
行政支援

住環境の改善
高齢者対策
子育て世代対応
など

寝屋川市
NIPPONMACHI

OECU 佐々木研究室 + まちづくり研究会
検証(提案)

③都市環境デザインの研究および提案

Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする



「ニコニコのデザイン」のすすめ メディア・SNSの運用



学生運営のSNS リンク



HP開設 リンク



FM802取材

- 取材実績
- ・NHKラジオ「関西ラジオワイド」
 - ・毎日新聞
 - ・LIVIKA
 - ・ねやつー など

Create
For
Smile

プロジェクトで人を笑顔にする



1.報告「団地を知る」

1-1. 周辺敷地調査報告



昭和っぽさが残る外観



団地の中の公園



春には桜が咲く



シンボルの給水塔



棟同士を繋ぐ細い通路



家の中の様子



Create For Smile
プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-2. 新秋イベント報告



第一回目のイベントとして9月10日に新秋座談会を行った。座談会という名の通りに「団地を知る」という目的のもとに団地クイズやアンケートを行った。住人の方から逆クイズがあったり、三井団地のことを詳しく教えていただいた。「団地を知る」第一歩目としてふさわしいイベントになった。



Create For Smile
プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告_新秋イベント

Q1-9.日々の暮らし方を教えてください



住人の方の日々の暮らし方は自宅・団地内・市内が同じくらいの割合となった。このことから私たちが提案するデザインも内装だけでとどまらず、団地周辺のランドスケープや団地外とも繋がるものをデザインのニーズがあることが考えられる。

Q3-3.この団地をより良くすることに賛成ですか？



新秋座談会イベントに参加して下さったすべての方が、団地をより良くすることに賛成するという前向きな意見が得られた。このことから団地を良くするための課題意識を持っている住民が多く存在する可能性があり、ポトムアップ型の団地再生が適した団地だと考えられる。



プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-3. 冬のイベント報告

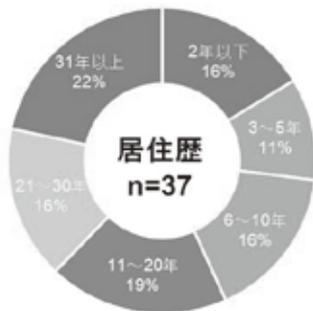


11月に2回目のイベントを行った。様々なニーズを得るためにアンケートの母数をとることを重視したイベントを計画した。秋という季節と住人の方からも馴染みあるものということでやきいもを使った。防災意識を高めることを目的にかまどベンチを使って行った。当初の目的は30人ほどを予想していたが、当日は小学生から高齢の方まで幅広い年齢の方が集まり60人ほどが参加し、活気のあるイベントになった。アンケートも36人の方に答えていただき、とても有意義なイベントになった。

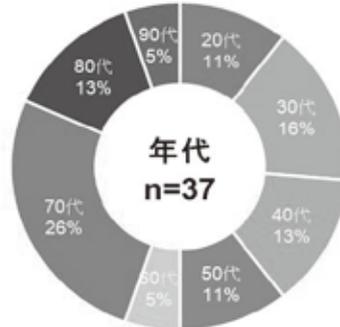


プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」
1-4. アンケート報告_晩秋イベント



- ・2年以下
- ・3~5年
- ・6~10年
- ・11~20年
- ・21~30年
- ・31年以上



- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代
- 90代

最近転入された方、中には生まれた時からずっと香里三井団地に住んでおられる方など幅広い回答が得られたが、31年以上と長くお住いの方が20%を超えている。

イベントの参加者は年代では70代の参加者が多く、次に子育て世代である30代も多くの参加があった。このことからシルバー世代の参加が多く、団地の高齢化が伺えた。



プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」
1-4. 春のイベント報告



3月にいままでのイベントで得られたニーズを提案に起こしたものを住人の方に提案する「団地のミライ提案の会」というワークショップを行った。学生の提案のフィードバックをもらうだけでなく、住人の方と「三井団地といえば？」などのブレインストーミングを行い、団地のミライについて住人の方にも考えていただくきっかけづくりとなった。しかし参加者が3人ということを受け、団地内での認知度が足りていないと実感したイベントだった。



プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

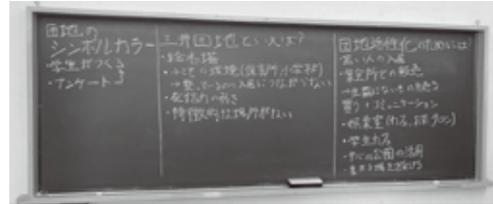
1-4. アンケート報告_春イベント

街頭アンケート結果

三井住友不動産×ニコニコP 2校目アンケート結果 報告 大森

性別/年齢	団地の感想	褒めて欲しいもの	取り入れてほしいもの	三井団地ならではの良さ	イメージカラー	居住年数
男性/70		団地裏の緑り空	近くスーパーが	学校が近い	緑	4
女性/32	静かなアパが欲しい	庭	敷居が低い	自由な生活	ピンク	40
不明	庭が多い					
女性/70	庭がいらない	緑と木々は動物に誘って欲しい	花を植えて欲しい	静か	緑	20-30
女性/33	景色を活かして欲しい	木々	駅からの景色	緑と建物が多い、草地、学社、保育園がある	緑	50
男性/37	お路を降りて子供が遊べるように、噴水	植物	緑の茶	バス停が近い	緑	30
男性/70	高層階が多いので休憩できるスペース	木々・車通り	庭	学校や保育園が近くにある	緑	45
女性/70	高層階が多いので休憩できるスペース			ジェネレーションギャップ	緑	49
女性/56	静寂対策					45
女性/30	設備がほしい					50
女性/70	設備などが古い、トイレが小さい					
女性/30	設備が古い、トイレが小さい			花が美しい、住みやすい	緑	50
男性/36	団地の光が多いので壁が見にくい	緑	木	緑見取りが多く住みやすい	緑	30年以上
女性/70	フラットデッキ面積の安全性					54

ワークショップイベント結果



集会所の中でプレインストーミングを行った。これから団地をデザインしていくにあたって、シンボルカラーを話し合ったり、団地活性化のための具体的な案をもらった。これらを形にすることがボトムアップ型の提案の一環と言える。



プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-5. 夏のイベント報告



竹のイベント
参加無料 一朝の部

2023年8月5日(土)
10:00 ~ 13:00 開催

ニコニコのデザインプロジェクト

お祭り開催で訪れることをきっかけとして「デザインで人を笑顔にする」ことを目的に、大森地区の団地・大学の学生と大森地区在住の高校生が協力しながら企画しています。

竹灯籠
一夜の部

参加無料

2023年8月5日(土)
19:00 ~ 20:00 点灯

場所：香里三井団地内通路 (広場～集会所横) 広場/集会所前

【問合せ先】
大森地区住民協会の皆様へ
電話：04-7432-5943 (受付 9:00-17:00)
Eメール：dai@shibuya@seaiwa-komachi.jp

夏は三井団地の地域資源を用いた竹を使った竹灯籠を中心に朝と夜の2部構成で行われ、竹灯籠は学生の案と住民さんの意見から生まれた。三井団地近くの竹を切り出し、学生自らの手でお花や花火などの柄を穴を開けてデザインしたものを子供達にカラーペンやシールでデコレーションしてもらった物を通路に配置していった。竹のモニュメントも同様に学生がデザイン、切り出し、作成し飾り付けを行った。100人ほどの方に参加していただき活気溢れるイベントとなった。



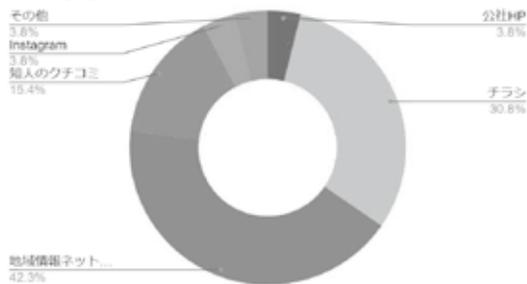
プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告

夏イベント

Q1-(4) 今回のイベントを知ったきっかけ



イベントを知ったきっかけは地域情報ネットの「ねやつー」が40%を占めた。次いでチラシが31%で毎イベントごとにチラシをくばっている意味があったといえた。学生が運営しているInstagramからも少なからずイベントの参加者がいたのは大きい成果といえる。

Q1-(5) 今後もイベントに参加したいと思いますか？



今後もイベントに参加したいという声が多くもらえた。住人さん側も学生と交流したいと思っていただいていた。中には「イベントの運営から携わりたい」といっていた住人さんもいて、ぜひ今後のイベントに関わっていただきたい。



プロジェクトで人を笑顔にする

1.報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告

Q.今の団地の悪いところをお教えてください。

- バスがあるから良いけど立地が悪い
- としよが多い
- 坂が多い
- 役をしなければならぬ
- エレベーターが欲しい
- 夜中に寄声をあげる人がいる。3部屋中2部屋が和室 トイレの水流れがイマイチ・窓の外が別の団地
- 昔は子供がドンドンしてた
- 業者のレベルが悪い
- 虫が多い、床がきしむ
- 虫が多い、床がきしむ
- 交通の混雑
- かびはえる、すきま風、壁が薄い、壁に亀裂
- 銀行、郵便局が近くにない
- 建物の老朽化 6階まで上がるのがしんどい
- コンビニがない
- 木が多いので虫が多い……。
- 部屋にカビがいい。且が当たらない部屋にカビができる。すきま風が多い。
- 坂がたまに苦痛
- 車の騒音が響きやすい
- 新しい住民と古い住民の繋がりが無い
- 坂が多い
- 木が多い
- 交通が悪い、
- 医療施設(遠方に行かないとない)

1.報告「団地を知る」

1-4. アンケート報告_全住戸アンケート

現在実施中

全住戸アンケートとは

目的:住まいや暮らしに関する、今後の団地における取り組みの検討のため
配布戸数:284戸
期間:～9/15までに返送

目的:・「ニコニコのデザイン」プロジェクトの認知度と共に周知されることを図る
・ボトムアップ式で住民からの要望を拾う

設問の内容:プロジェクトの認知度
今後してほしい活動
デザインしてほしい場所
など

*集計が間に合えば当日に集計結果をお伝えします

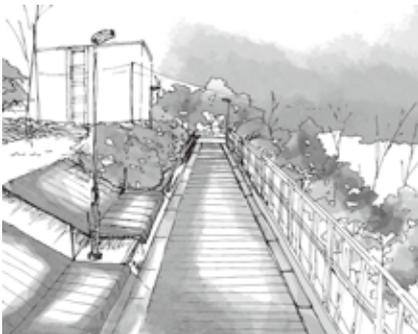


プロジェクトで人を笑顔にする

17

2.提案「団地を動かす」

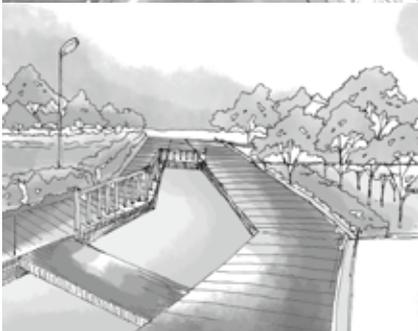
2-1. 団地外構の提案



L-01:ウッドデッキ+フットライト

A-2棟とA-18棟の間にある通り道。
団地全体の魅力である「緑」があまり感じられない。また、少し薄暗いのが現状である。

そこで、周囲の恵まれた環境との調和、凡庸で無機質な道からの脱却を目指す。
ウッドデッキによる有機的なデザインと相応の明かりを得られるフットライトを設置。



L-02:憩う水場

団地中央の広場付近にある敷地の余白。
アンケートから「四季が楽しめる」「桜がきれい」などの特徴が見られた。
しかし、それを堪能できる場が少ない。
そこで、団地内の余白に水場を設ける。
水にはリラックス効果がある。
また、水を配置することで、春は「逆さ桜」、夏は清涼な場を生み出すことができる。



プロジェクトで人を笑顔にする

18

2.提案「団地を動かす」 2-2. 団地外装の提案



E-01:着せ替えファサード

各棟に設けられているベランダ部分。設置されている手摺子は凡庸なデザインである。そこで、カスタマイズ可能な手摺子に変更する。多様なデザインを許容することで、この団地特有のファサードデザインへと変化させる。また、ツタ植物を巻きつければ、団地全体の「緑」との調和が図られる。

E-02:カラーファサード

各棟に設けられているベランダ部分。E-01では、手摺子自体を変更可能な物にしていた。しかし、より簡易的であり、多様性を表現する方法も検討する。各住民が好きな色をファサードとして一部に取り入れる。見た目も明るくなり、団地の個性を向上させる。

イメージ画像
参考:UR「ひのさと48」

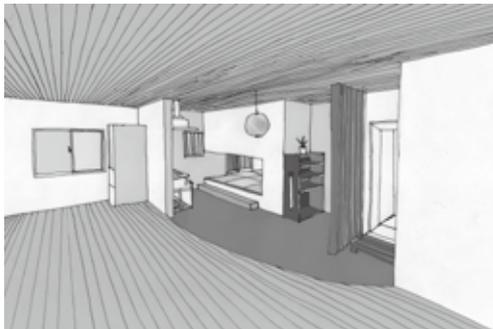


プロジェクトで人を笑顔にする



19

2.提案「団地を動かす」 2-3. 団地内装の提案



I-01:土間

玄関から続く土間空間。現状、玄関付近が少し窮屈である。また、アンケートでも「部屋が狭い」との声があった。

そこで、玄関から部屋までを繋ぐ土間を設ける。動線の簡易化と空間の開放性、自由度を高めることを目指す。

I-02:縁側

ベランダ側に設けられた縁側。アンケートから「日当たりがよい」「眺めがよい」などの声があった。

そこで、現在の部屋の利点を活かすような縁側を設ける。縁側による部屋の温度調節などの利点もある。



プロジェクトで人を笑顔にする

20

2.提案「団地を動かす」 2-4. コトを起こす提案



N-01:移動販売

アンケートでは、不満の声として「コンビニが近くにない」などがあった。
坂が多い立地からか高齢者の買い物問題が考えられる。
そこで、団地内に移動販売車を呼ぶ。
団地内での買い物は出会いの機会を与え、コミュニケーション形成を促進させる。

イメージ画像
参考: UR 移動スーパー



N-02:モビリティバス

アンケートでは、不満の声として「コンビニが近くにない」などがあった。
坂が多い立地からか高齢者の買い物問題が考えられる。
そこで、団地内に移動販売車を呼ぶ。
団地内での買い物は出会いの機会を与え、コミュニケーション形成を促進させる。

イメージ画像
参考: esponse 住民の移動支援



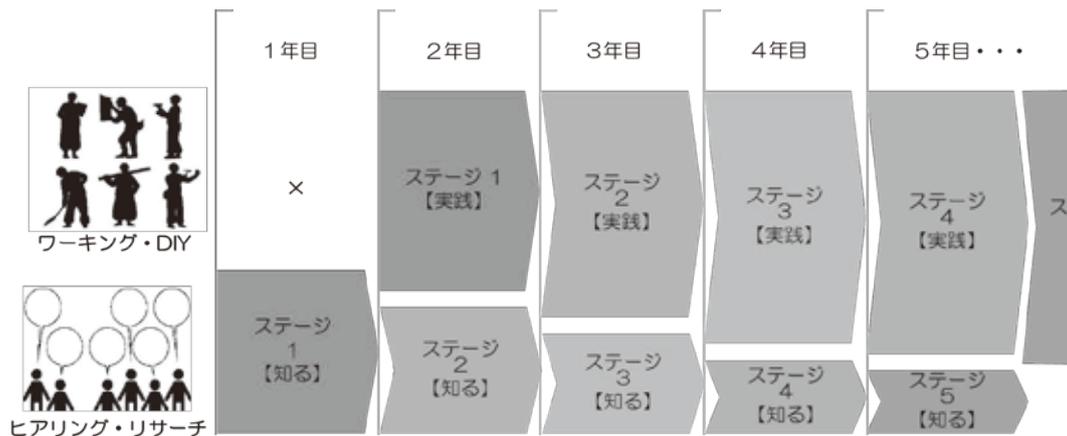
プロジェクトで人を笑顔にする



21

3.展望「団地の未来」

3-1. スケジュール概要 — マスタープランのない計画手法 —



プロジェクトで人を笑顔にする



22

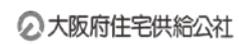
3.展望「団地の未来」 3-2. 今後の展望

Year	2023年度												2024年度											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
事業内容	<p>①ワークショップ実施 ②ワークショップ実施 ③ワークショップ実施 ④ワークショップ実施 ⑤ワークショップ実施 ⑥ワークショップ実施 ⑦ワークショップ実施 ⑧ワークショップ実施 ⑨ワークショップ実施 ⑩ワークショップ実施 ⑪ワークショップ実施 ⑫ワークショップ実施 ⑬ワークショップ実施 ⑭ワークショップ実施 ⑮ワークショップ実施 ⑯ワークショップ実施 ⑰ワークショップ実施 ⑱ワークショップ実施 ⑲ワークショップ実施 ⑳ワークショップ実施 ㉑ワークショップ実施 ㉒ワークショップ実施 ㉓ワークショップ実施 ㉔ワークショップ実施 ㉕ワークショップ実施 ㉖ワークショップ実施 ㉗ワークショップ実施 ㉘ワークショップ実施 ㉙ワークショップ実施 ㉚ワークショップ実施 ㉛ワークショップ実施 ㉜ワークショップ実施 ㉝ワークショップ実施 ㉞ワークショップ実施 ㉟ワークショップ実施 ㊱ワークショップ実施 ㊲ワークショップ実施 ㊳ワークショップ実施 ㊴ワークショップ実施 ㊵ワークショップ実施 ㊶ワークショップ実施 ㊷ワークショップ実施 ㊸ワークショップ実施 ㊹ワークショップ実施 ㊺ワークショップ実施</p>																							
関係機関	<p>①関係機関 ②関係機関 ③関係機関 ④関係機関 ⑤関係機関 ⑥関係機関 ⑦関係機関 ⑧関係機関 ⑨関係機関 ⑩関係機関 ⑪関係機関 ⑫関係機関 ⑬関係機関 ⑭関係機関 ⑮関係機関 ⑯関係機関 ⑰関係機関 ⑱関係機関 ⑲関係機関 ⑳関係機関 ㉑関係機関 ㉒関係機関 ㉓関係機関 ㉔関係機関 ㉕関係機関 ㉖関係機関 ㉗関係機関 ㉘関係機関 ㉙関係機関 ㉚関係機関 ㉛関係機関 ㉜関係機関 ㉝関係機関 ㉞関係機関 ㉟関係機関 ㊱関係機関 ㊲関係機関 ㊳関係機関 ㊴関係機関 ㊵関係機関 ㊶関係機関 ㊷関係機関 ㊸関係機関 ㊹関係機関 ㊺関係機関</p>																							
関係者	<p>①関係者 ②関係者 ③関係者 ④関係者 ⑤関係者 ⑥関係者 ⑦関係者 ⑧関係者 ⑨関係者 ⑩関係者 ⑪関係者 ⑫関係者 ⑬関係者 ⑭関係者 ⑮関係者 ⑯関係者 ⑰関係者 ⑱関係者 ⑲関係者 ⑳関係者 ㉑関係者 ㉒関係者 ㉓関係者 ㉔関係者 ㉕関係者 ㉖関係者 ㉗関係者 ㉘関係者 ㉙関係者 ㉚関係者 ㉛関係者 ㉜関係者 ㉝関係者 ㉞関係者 ㉟関係者 ㊱関係者 ㊲関係者 ㊳関係者 ㊴関係者 ㊵関係者 ㊶関係者 ㊷関係者 ㊸関係者 ㊹関係者 ㊺関係者</p>																							
関係機関	<p>①関係機関 ②関係機関 ③関係機関 ④関係機関 ⑤関係機関 ⑥関係機関 ⑦関係機関 ⑧関係機関 ⑨関係機関 ⑩関係機関 ⑪関係機関 ⑫関係機関 ⑬関係機関 ⑭関係機関 ⑮関係機関 ⑯関係機関 ⑰関係機関 ⑱関係機関 ⑲関係機関 ⑳関係機関 ㉑関係機関 ㉒関係機関 ㉓関係機関 ㉔関係機関 ㉕関係機関 ㉖関係機関 ㉗関係機関 ㉘関係機関 ㉙関係機関 ㉚関係機関 ㉛関係機関 ㉜関係機関 ㉝関係機関 ㉞関係機関 ㉟関係機関 ㊱関係機関 ㊲関係機関 ㊳関係機関 ㊴関係機関 ㊵関係機関 ㊶関係機関 ㊷関係機関 ㊸関係機関 ㊹関係機関 ㊺関係機関</p>																							
関係者	<p>①関係者 ②関係者 ③関係者 ④関係者 ⑤関係者 ⑥関係者 ⑦関係者 ⑧関係者 ⑨関係者 ⑩関係者 ⑪関係者 ⑫関係者 ⑬関係者 ⑭関係者 ⑮関係者 ⑯関係者 ⑰関係者 ⑱関係者 ⑲関係者 ⑳関係者 ㉑関係者 ㉒関係者 ㉓関係者 ㉔関係者 ㉕関係者 ㉖関係者 ㉗関係者 ㉘関係者 ㉙関係者 ㉚関係者 ㉛関係者 ㉜関係者 ㉝関係者 ㉞関係者 ㉟関係者 ㊱関係者 ㊲関係者 ㊳関係者 ㊴関係者 ㊵関係者 ㊶関係者 ㊷関係者 ㊸関係者 ㊹関係者 ㊺関係者</p>																							



プロジェクトで人を笑顔にする

香里三井エリアの団地再生と学生プロジェクトとの関わり



プロジェクトで人を笑顔にする

学生発表⑧

■大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

活動テーマ	大学・学生発：SDGs イベントの実践と効果 - SDGs × 地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化
活動場所	大阪市東淀川区
連携先	大阪経済大学地域連携課・安積濾紙株式会社（大阪市東淀川区）
活動主体	大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

1. 活動概要

わたしたちは、昨年から地元東淀川区の魅力発見・発信による関係人口・活動人口の創出というテーマで活動をおこなっています。今年度は、このテーマについて、SDGsの推進という観点を加えて活動をおこないました。これまでの調査研究活動においては、東淀川区のような都市部地域では、ご近所付き合い・地域におけるつながりの希薄化が見受けられました。そうした地域の現状のもと、わたしたちは、例えば、参加メンバー固定化や情報発信受信者の同定（関心事しかみない）、といった理由で、関係人口の創出に関わる持続可能なコミュニティ組織の形成・醸成の難しさを感じました。そうした中、わたしたちは、日常生活の中から、地域への関心・意識・行動を醸成することが、地域活性化への道筋だと考えました。そこにおいては、地域の魅力を活かしたSDGsの推進が有用と考えます。なぜなら、SDGsが目的で、その手段が地域の魅力を活かす事になり、目的と手段がはっきりし、地元地域の魅力に対する住民の認識・共有を涵養しやすいとおもわれるからです。また、関係人口の創出という点から、仕掛けを考えると、地域産業の担い手である中小企業の存在は意義深いと考えました。中小企業の企業戦略はSDGsと親和的であり、ですのでSDGsを通じ連携しやすい。また、その背後にいるステークホルダー（利害関係者）への波及効果も考えられます。

以上を踏まえて、わたしたちは、SDGsに取り組む地元東淀川区所在の魅力的な企業様への実地調査や大阪市内の中小企業へのアンケート調査（「地域企業のSDGs × 地域の魅力による持続可能な地域づくり」：75社／290社）をおこない、大学近隣の商業施設（本学と産学連携協定締結）にて地元企業との共催で「SDGs イベント」を開催しました。こうした活動を踏まえて、「大学・学生発のSDGs イベントの実践と効果」を参加者の皆様と検討したいと思います。

2. 年間計画

2023年度	活動内容・計画
2月	■「東淀川魅力発見プロジェクト」(事務局：東淀川区役所)に参加。
6月	■企業アンケート調査票作成・発送。 ■東淀川区のSDGsに取り組む企業様の調査・アポイントメント。 ■オリジナルエコバックの作成(塗り絵式エコバック)
7月	■企業アンケート調査票の回収。 ■東淀川区のSDGsに取り組む企業へのインタビュー ■地元企業様との共催SDGsイベント実施(7/29(土))
8月	■回収アンケート票集計分析。 ■学会発表・意見交換。
9月	■第2回目のSDGsイベントの構想。
10月～11月	■第2回SDGsイベント開催予定。
12月	■回答企業様への成果研究発表会。

3. 活動成果

- 東淀川区所在のSDGsに取り組む企業へのインタビューでは、以下の3社より協力を得ることができ、SDGsイベントにもご協力いただきました。
- ①安積濾紙株式会社 様 (インタビュー、SDGs イベント共催)
 - ②株式会社アプライズ 様 (インタビュー)
 - ③飯田織工株式会社 様 (インタビュー)
- 企業アンケート調査では、企業の属性ほか、①SDGs取組みの有無や領域、②取り組んでいるSDGsと地域との関連性、③持続可能な都市部地域活性化への効率的な方法について、大阪市内の中小企業様計290社にアンケート調査票を送付し、75社の企業様から回答を頂きました。
- 本学近隣の商業施設でのSDGsイベント開催(来場者数60名～70名程度：本学の職員のご家族や共催企業様の従業員の方々、そのご家族の方々にお越しいただきました。)

4. 地域からの評価

地域からの評価はわかりませんが、イベントが好評でしたので、今回、イベントに共催いただいた企業様から早くも次の企画が提案されました。

5. 参考WEBサイト

<https://www.azumi-filter.co.jp/>

6. 活動メンバー

経営部3年
砂走 圭人、山崎 拓弥、北垣 茜音、玉田 宏斗、廣瀬 麻衣、松原 十夢、東郷 涼音、
長友 寛太、廣瀬 耕平、長野 里和、大塚裕一郎、古閑 湧、田中 清楓、富尾 祐太、
福條 誉、森井 悠斗、上田 莉緒、永井 歩武、山口 麻菜、榮田惟一郎

7. 担当教員

経営学部 教授 古賀敬作

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪経済大学	
所属先・職名	経営学部・教授	
氏 名	古賀 敬作	
連絡先	電 話	06-6328-2431 (代表) 2817 (内線)
	メー ル	k_koga@osaka-ue.ac.jp

9. 活動の様子



「SDGs イベント当日の様子」



「配布オリジナル塗り絵エコバック」

大学・学生発：SDGsイベントの実践と効果

SDGs × 地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化



大阪経済大学 経営学部
古賀ゼミナール

地域連携学生フォーラム in Osaka 2023

2023年9月15日

研究調査のバックグラウンド-都市部地域の地域活性化の問題点

地域コミュニティ活性化・関係人口（地域愛）形成の困難さ



ご近所付き合いの軽薄化
参加メンバーの固定化

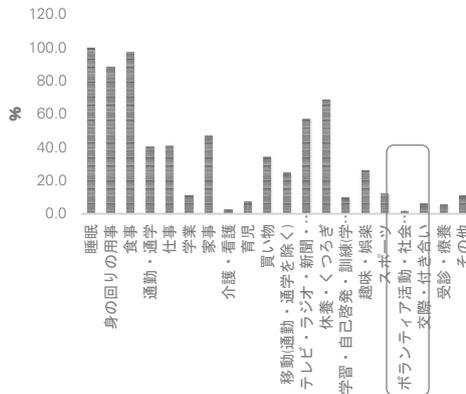


高齢化に伴う
地縁団体（町会）の存続危機

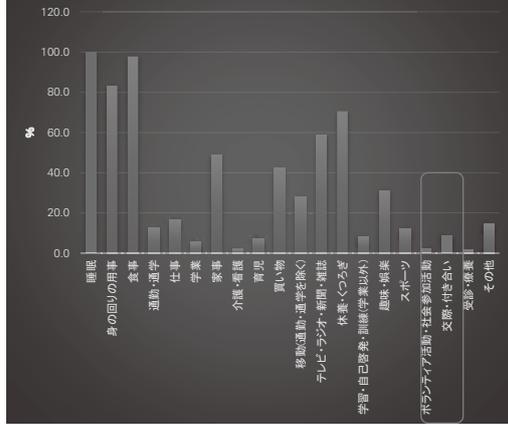
生活行動統計からみる一般的傾向

年齢層にかかわらずに

1週間の種類別行動者率
(大阪府10歳以上)



1週間の種類別行動者率
(近畿大都市圏10歳以上)



出所:「令和3年社会基本調査(生活時間に関する結果)」より作成

3

地域地理-東淀川区(位置)-

大阪都市圏ベッドタウン



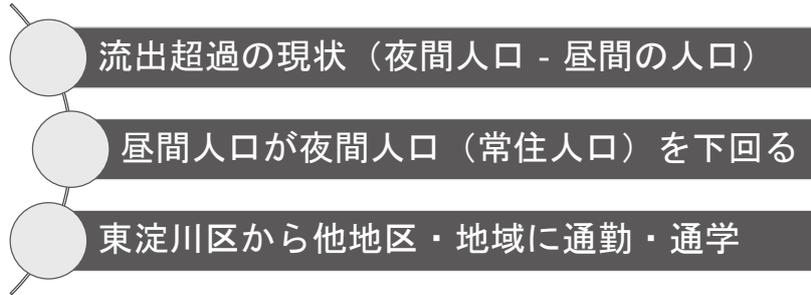
4

地域の人口上の特徴の把握-昼間人口と夜間人口

東淀川区構成人口の流れ(令和2年度)

(単位:人)

	夜間人口	流入人口	流出人口	流入超過人口	昼間人口	昼夜間人口比率
東淀川区	177,120	36,759	45,095	△ 8,336	168,784	95.3



出所:大阪市計画調整局「令和2年国勢調査<大阪市の昼間人口>令和4年10月」
(<https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/cmsfiles/contents/0000572/572638/rivoR2.pdf>) より作成

5

持続可能なコミュニティ組織の形成・醸成の難しさ



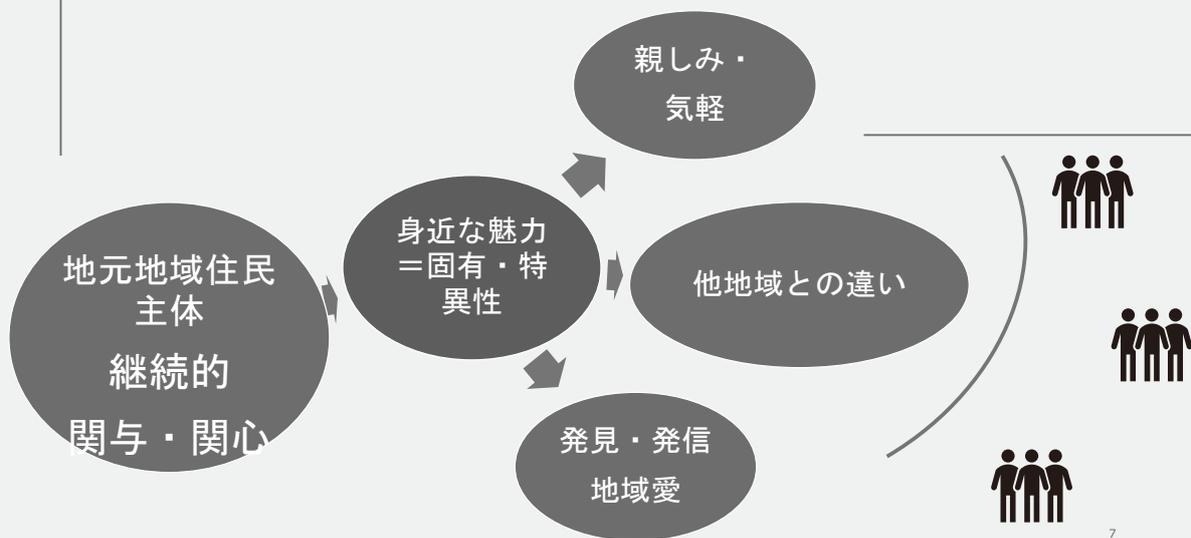
波及効果を伴う持続・継続の難しさ

情報受信者同定の難しさ (関心事のみ)

住民の関心・意識へのイニシアティブの困難さ

6

地域固有の魅力発見・発信による関係人口・活動人口の創出 地域活性化



地域地理-東淀川区(地域要素)-

複雑な生活空間と隠れた・身近な地域固有の魅力

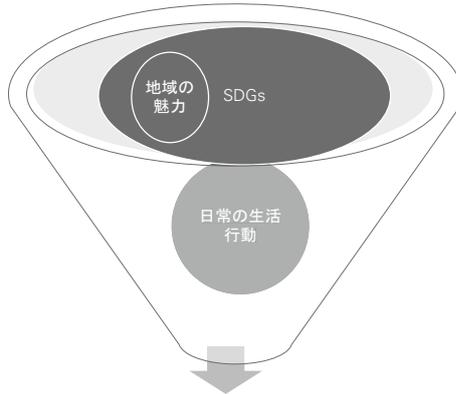


身近に隠れた魅力発見(実地調査)-東淀川区-

<p>歴史魅力発見-めでたい・摩訶不思議</p> <p>紅白の鳥居</p> <p>2対の表情がユニークな拍犬たち</p>  <p>現地レポート</p> <p>実は・・・ 人あつ自然的</p>	<p>歴史魅力発見-癒しの空間と物語の世界</p> <p>くじら橋</p> <p>現地レポート</p> <p>住宅地の中にひっそりと佇んでいる歴史の静けさ</p> <p>現地レポート</p> <p>境内の奥に約500年以上の大クスミの木、いにしへの面影も感じよう。</p>
<p>地域産業魅力発見-ジブリの世界</p> <p>異次元の世界を体験</p> <p>現地レポート</p> <p>工場の世界 手作りで職人業を身近で見る事が出来て貴重な体験ができる。</p> 	<p>地域産業魅力発見-ものづくり・夢</p> <p>現地レポート</p> <p>地域とともに関わりあう-世界に響けたく 24時間TVのTシャツの企画や企画「コントノリ」 とツツの日本代表のユニフォームの企画 ※赤地も利用した緑色の自家栽培 社会見学・工場体験会</p> <p>現地レポート</p> <p>子ども達の笑顔・夢をかきえる 地域の小学堂と、小学生の創り出したもの作成 小さなことから地域と連携し製品を作り出して、 地域活動を盛り上げる。</p>

地域活性化の道筋

日常生活(暮らし)の中から、関心・意識・行動を醸成
内発的展開・発展



活力ある持続可能な地域活性

SDGs × 地域の隠れた・身近な地域の魅力(東淀川区) - 目的と手段 -



取り組み事例: 地域の魅力と関係人口の創出

屋外マーケット 市民参加型ワークショップ「マーケットの学校」

埼玉県北本市

マーケットは、単なる売り買いの場だけでなく、まちの魅力を知れたり、創業支援の場となったり、地域で活動している人たちが繋がれる場としての機能も有しており、まちを知る・好きになる・参加したくなるきっかけになる。

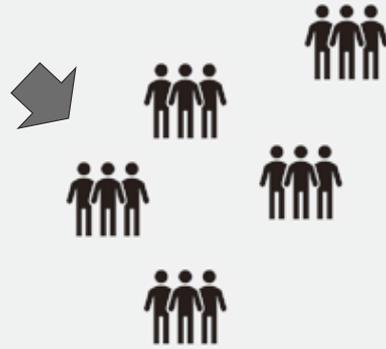


出所:埼玉県北本市「マーケットの学校」と&green market」
https://www.city.nikaho.akita.jp/soshikikarasagasu/sogoseisakuka/gvomuannai/12_1/tiikinomirvokuhassin/index.htmlより抜粋

日々の暮らしの中・日常生活の中で関心・意識を醸成 -商業施設の有用性(関係人口の創出の場)-

「大阪経済大学×かみしんプラザ(商業施設)」で産学連携協定締結

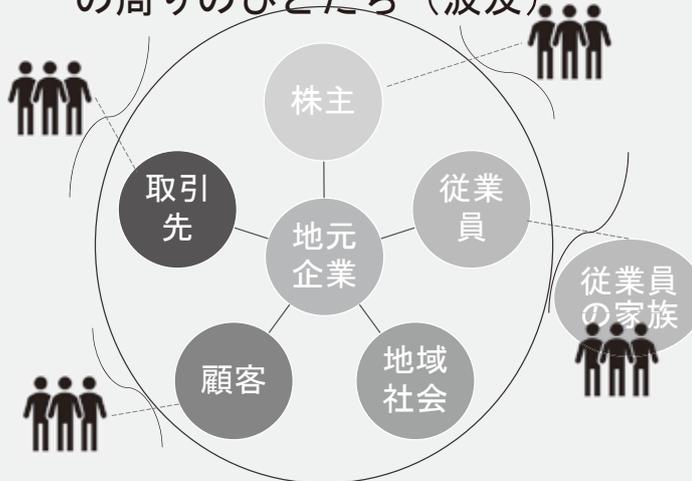
大阪経済大学 × かみしんプラザ



出所: 大阪経済大学
<https://www.osaka-ue.ac.jp/file/general/30229>より抜粋

地元地域中小企業の有意義性

- ステークホルダーの存在とその周りのひとたち(波及)



- 経営戦略と親和的

- 競争力強化・企業価値向上の点からSDGsに取り組む必要性が説かれている(関東経済産業局「中小企業のSDGs認知度・実態等調査」)
- 「すでに対応・アクションを行っている」「対応・アクションを検討している」とした企業の構成比が、前回2018年度調査の2.0%から8.2%に増加(令和2年度関東経済産業局「中小企業のSDGs認知度・実態等調査」)

大阪市内・中小企業アンケート調査実施(2023年度)

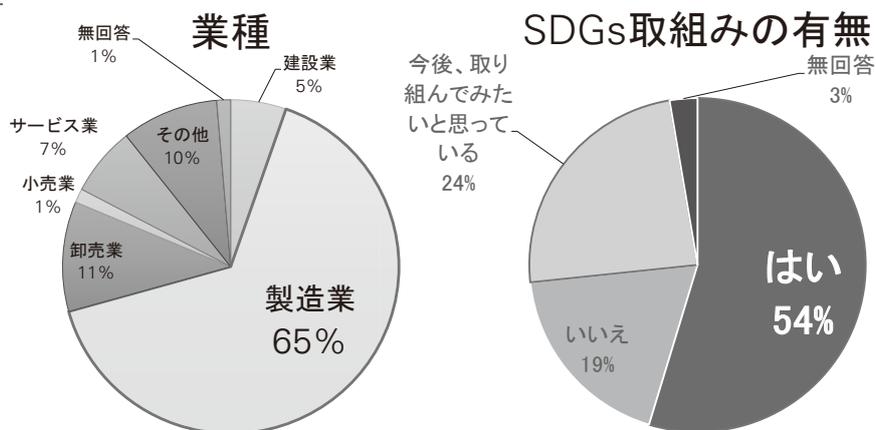
「地域企業のSDGs × 地域の魅力による持続可能な地域づくり」



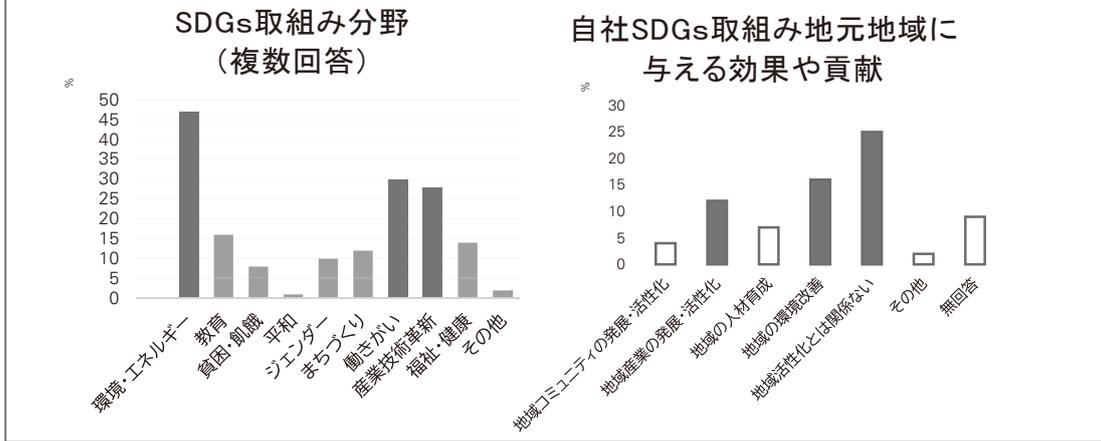
75社回答 / 290社送付
回答率 = 26%

東淀川区内企業
回答率 = 37% (19社/51社)

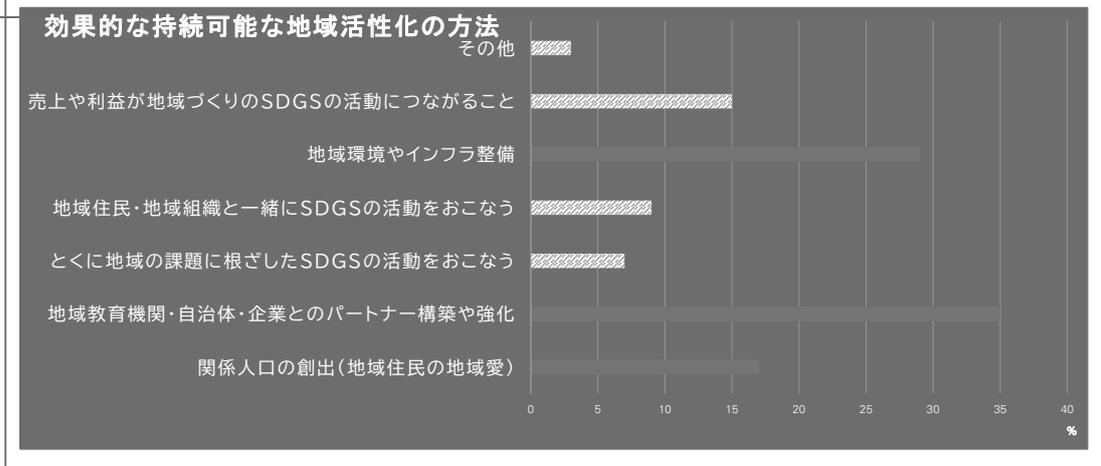
回答企業の属性とSDGs取組みの有無



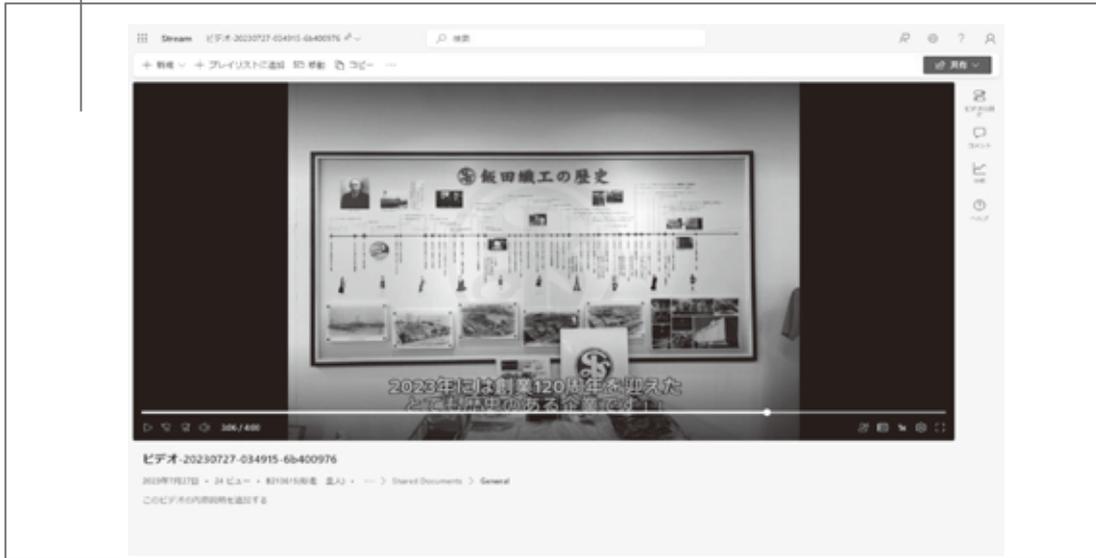
SDGs取組みの分野や地域との関係 -環境や経済の持続性が中心-



中小企業視点の効果的な地域の持続可能性の取り組み



実地調査1-SDGsに取り組む東淀川区の魅力的な企業-



19

実地調査2-SDGsに取り組む東淀川区の魅力的な企業-

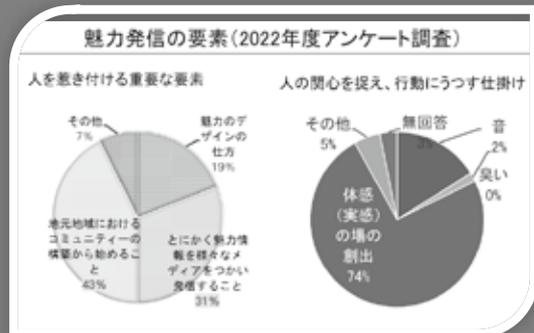
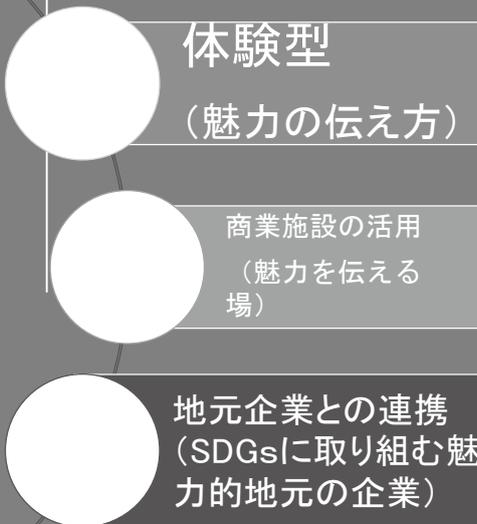


20

実地調査3-SDGsに取り組む東淀川区の魅力的な企業-



大学・
学生発
SDGsイ
ベント
の実施





SDGs イベント開催!
 こともから大人まで、SDGsを体験し、東淀川区の魅力を知らおう!

7月29日(土) 15:00-17:00
 会場：かみしんプラザ地下1階

エコバック無料・配布 塗り絵体験
 水で光る電池 製作体験
 水で光るライトの作り方

主催 大阪経済大学学生地域魅力発見チーム×大阪経済大学地域連携課
 共催 安橋通紙株式会社 (大阪市東淀川区)
 株式会社アブリス (大阪市東淀川区)
 協力 額田精工株式会社 (大阪市東淀川区)

事前広報




**大阪市
環境保全
関連募金
活動**

～イベント内容～

- 自作塗り絵体験エコバックの展示・配布
- 自作東淀川区の魅力スポット写真キーホルダー配布
- 水で光電池制作体験
- 協力企業のSDGsに取り組む動画配信

23

SDGsイベント結果と今後

結果

- 来場者数：60~70名程度
(家族連れ・共催企業の方やそのご家族)



今後
(継続的イベント開催)

- 地元企業と協働・共催
- 体験コーナーほか、展示コーナーの設置
- 開催“場”の検討
- 効果測定

学生発表⑨

■追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト

活動テーマ	農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる
活動場所	岐阜県 飛騨
連携先	JA ひだ、連携先農家、大阪府中央卸売市場
活動主体	追大学生援農プロジェクト

1. 活動概要

「追大学生援農プロジェクト」は、現代の農業問題として挙げられている少子高齢化や承継者不在による「人手不足」に着目し、大学生が農家の人手不足解決へ貢献することを目的とする。具体的には、ビジネス的手法を用いて、農家にも学生にも恩恵のある事業モデルを構築することを試みる。2023年度は、プロジェクトメンバーによる現地調査から始める。協力農家のある岐阜県飛騨にて、現地の気候、生産している作物や農作業の方法について調査をおこなう。事業モデル化の実現のために、実際に農家に入り込むことでしか分からない課題に触れたい。学生の農家への貢献方法、学生の派遣の対象や方法などを立案し、社会に発信することを計画している。本年度は、実際にプロジェクトメンバーが農作業に従事することで、学生による作業の問題点などを発見し、修正することで学生でも援農活動ができる事業モデルを開発したい。2024年度は、プロジェクトメンバーが考案した事業モデルの実現化に向けて活動する。

2. 年間計画

2023年度年間計画

- 6月：大学から活動資金を得て、「追大学生援農プロジェクト」始動
- 7月：飛騨調査・テスト援農の企画作成、事業モデルのプロトタイプ作成
- 8月：25日 フォーラムエントリー
29日～30日 プロジェクトメンバーによる飛騨現地調査
- 9月：考案した事業モデル修正と改善
15日 フォーラム発表資料提出
17日～20日 プロジェクトメンバーによるパイロット援農
- 10月：22日フォーラムにて研究発表
- 11月：プロジェクト報告書作成と来年度への引継ぎ
- 12月：2023年度プロジェクト終了

3. 活動成果

現時点の成果として、プロジェクトメンバーで農業の業界情報、2023年度に調査と援農をさせていただき飛騨高山の農家、飛騨高山の環境についての資料収集などを行い、問題点についてまとめた現状の「調査資料作成」を行った。また、それに並行し、「発表資料」も作成している。

定期的にミーティングを開催し、学生が援農する事業モデルのプロトタイプについて検討した。今後は、現状調査と並行しつつ、現在作成中の事業化モデルの修正と改善を行い、8月末の現地調査にて、JAや農家の当事者の方々にインタビューを実施する。事業モデルが運営可能であるのか、修正すべき問題点や考えが不足している部分などについて情報集を行う。また、飛騨の環境に実際に触れることにより、事業モデル化完成へのヒントを得たい。9月には実際に調査などを通して改善した事業モデルが、来年度から運営可能であるかのパイロット運用をおこなう予定である。

4. 地域からの評価

2023年8月29日（火）、30日（水）、「追大学生援農プロジェクト」の活動として、飛騨野菜（そさい）出荷組合、JAひだ、JA全農岐阜、大阪府中央卸売市場管理センターの協力のもと、岐阜県飛騨高山にてJAの施設視察とトマトの選果体験を行った。その際に行った意見交換会時に今回のプロジェクトに関して発表し、評価を頂いた。現地の農業に実際に目で見て触れ体験し、直接関係者のお話を聞くことで、飛騨農業の現状や課題、自分達が進めるプロジェクトの問題点について、新たに多くの事柄に気づくことができ、濃い学びの二日間にする事ができた。

5. 参考WEBサイト

『JAひだ トマト研修所研修生募集』

(<https://www.dropbox.com/s/h96x99v493p0lq3/JA%E3%81%B2%E3%81%A0%20%E3%83%88%E3%83%9E%E3%83%88%E7%A0%94%E4%BF%AE%E6%89%80%E7%A0%94%E4%BF%AE%E7%94%9F%E5%8B%9F%E9%9B%86%E4%B8%AD.pdf?dl=0>)

『岐阜県の農村、農業を取り巻く現状・課題と 今後の方策について』

【地域振興としての農業 (gifu.lg.jp)】

『飛騨市の農業の概要』 (<https://city.hida.gifu.jp/uploaded/attachment/19164.pdf>)

6. 活動メンバー

経営学部	3年	清水 壮太郎、野田 剣悠、勝山、光、小林 聖渚、原、柊翔、圓句 夏歩、山田 琴音 岸田 悠人
	2年	田中 遥菜、播磨 諒太、高本 寛太、藤本 飛成
国際学部	3年	丸本 和來
心理学部	3年	國重 友唯

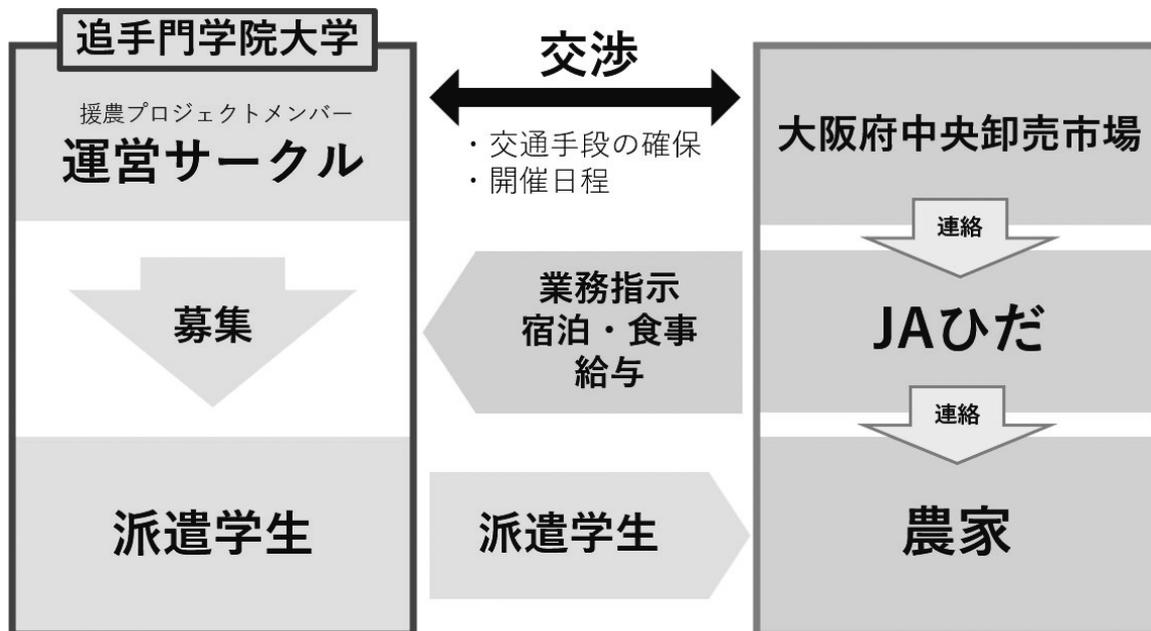
7. 担当教員

経営学部 教授 村上 喜郁

8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	追手門学院大学	
所属先・職名	経営学部・教授	
氏 名	村上 喜郁	
連絡先	電 話	072-648-7842
	メー ル	ymura@otemon.ac.jp

9. 活動の様子



「追大学生援農プロジェクト」事業モデル図

「飛騨農家現状調査書」

(<https://www.dropbox.com/scl/fi/shhc1ssjnxw5lkeldt4qq/.pdf?rlkey=mclmkedpb57hdvnsra7ohlwoo&dl=0>)

追大学生 援農プロジェクト



追手門学院大学 村上喜郁ゼミ

連携先



中央卸
売大阪
市場市

目次

Step1

- ▶ きっかけ
- ▶ 概要
- ▶ 事業モデル
- ▶ メリット

Step2

スケジュール

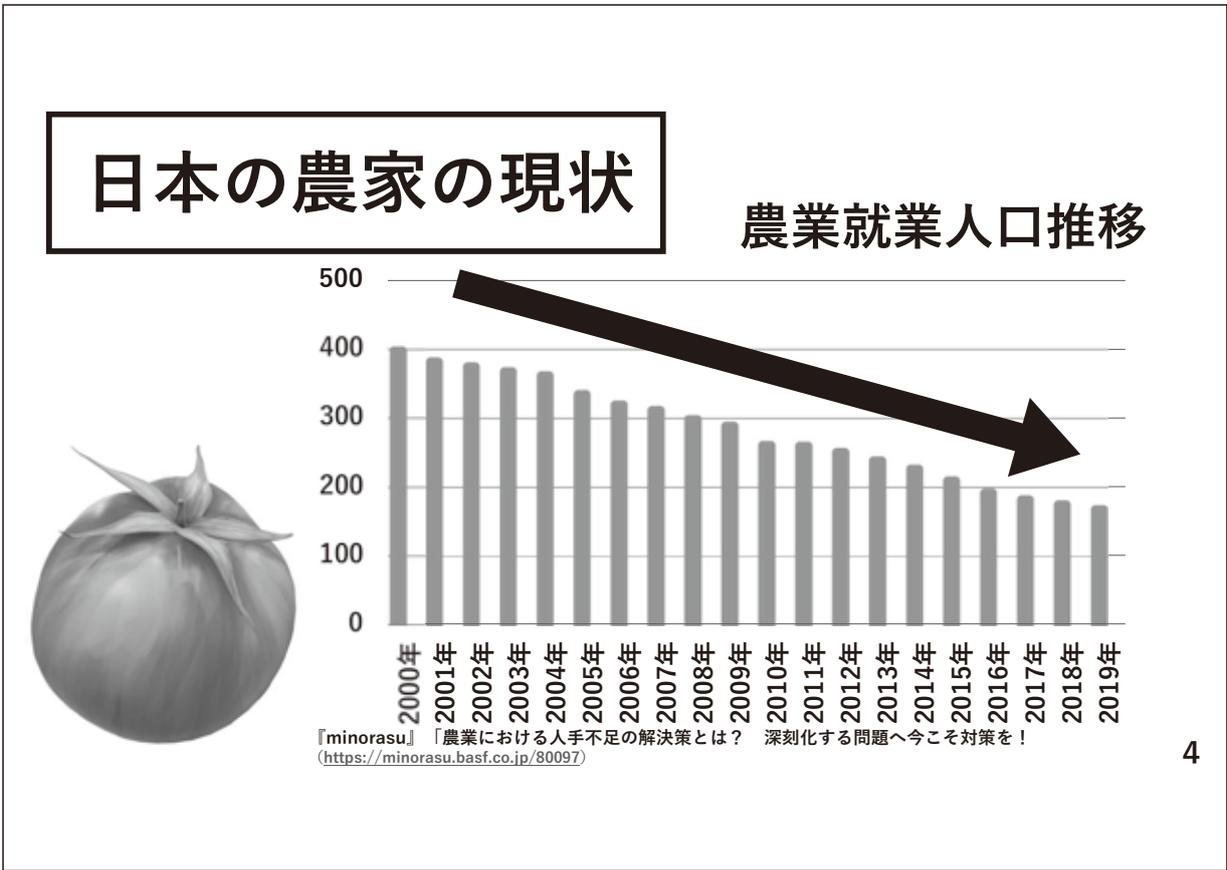
- ▶ 6月開始
- ▶ 8月調査
- ▶ 9月援農

Step3

- ▶ 調査結果
- ▶ 今後の目標
- ▶ 参考文献



2



プロジェクト概要

- ・ **人手不足** に着目し繁忙期に援農を行う。
- ・ 学生を派遣すること
若者に農業の現状を知ってもらう。

事業モデル
作成

事前調査

飛驒調査

パイロット
援農

5

プロジェクト概要

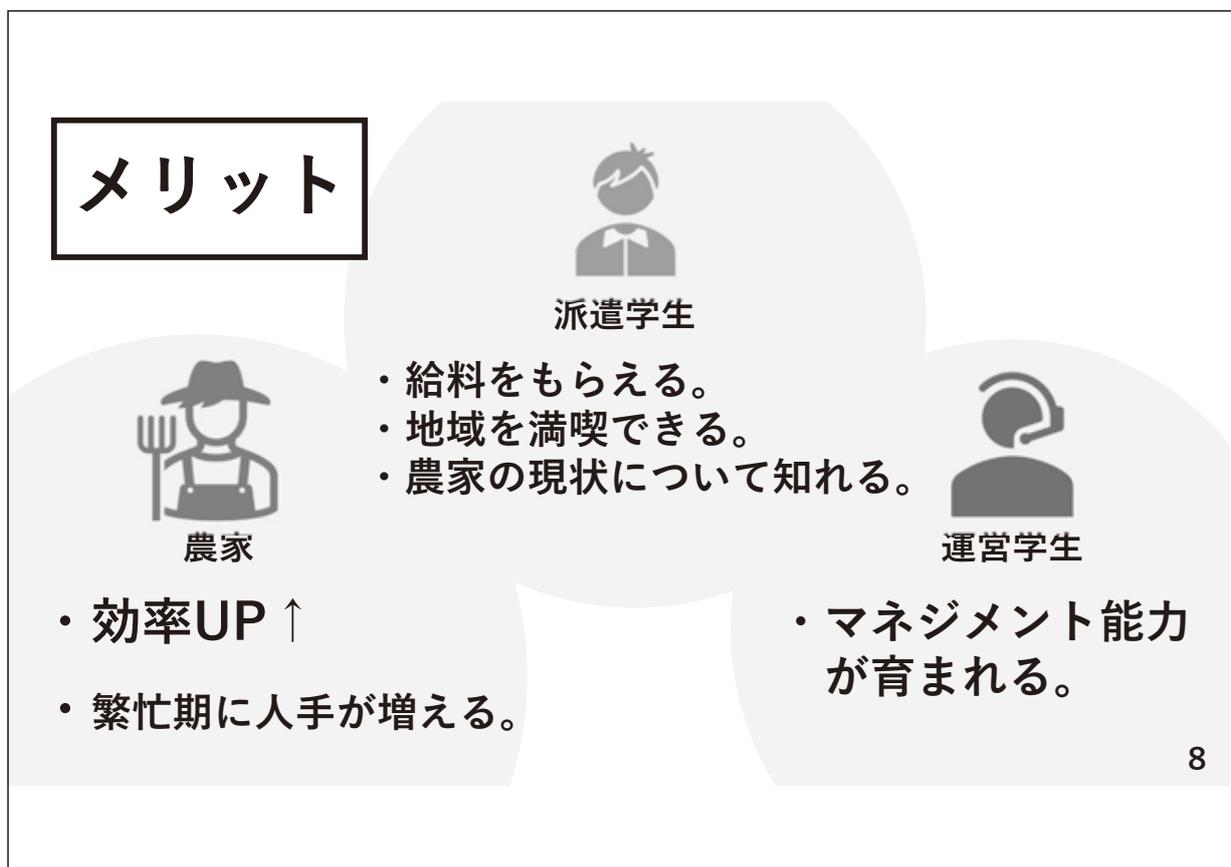
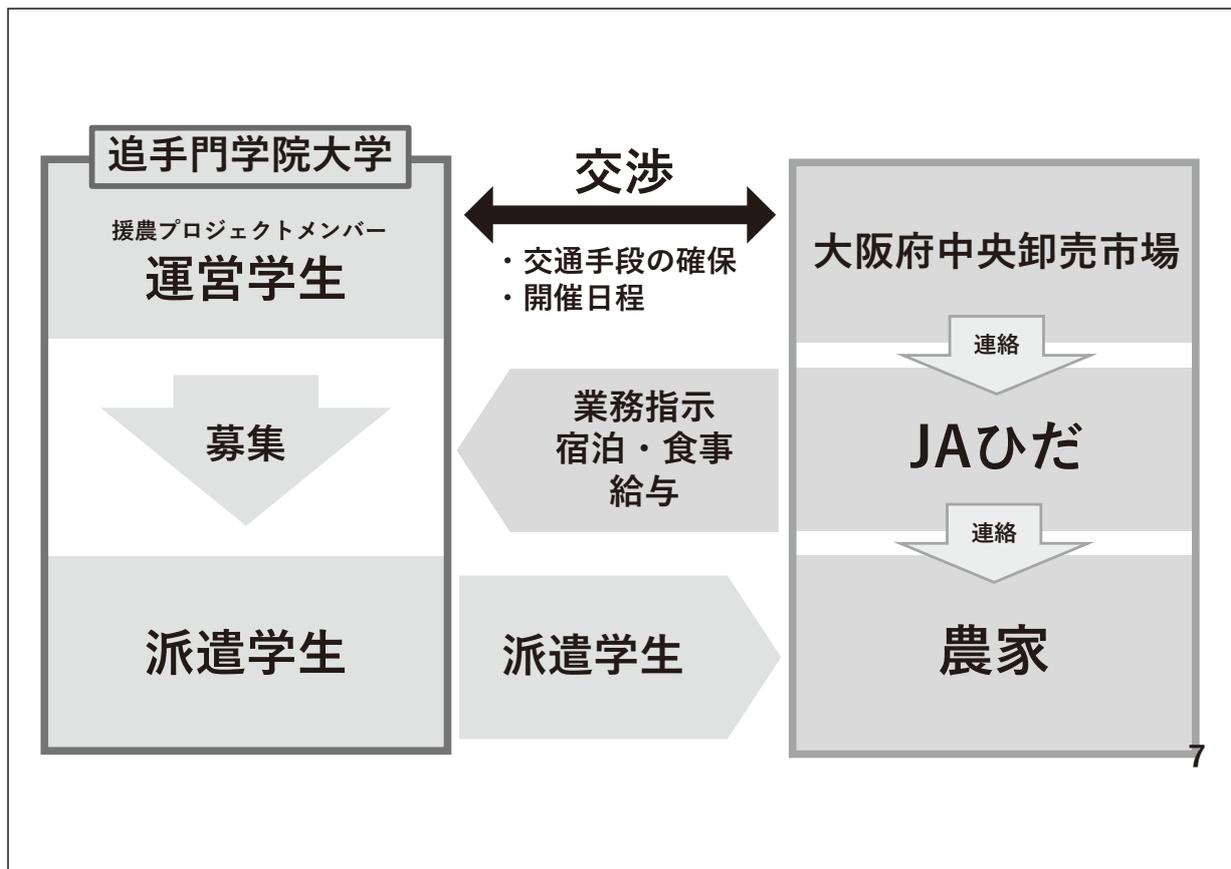
事業モデルを発信

パイロット
援農

引継ぎ

事業モデル始業

6



2023年度 活動スケジュール

- 6月：追大学生援農プロジェクト始動
- 7月：事業モデル作成
- 8月：飛騨調査、テスト援農の企画作成



9

- 9月：考案した事業モデルの修正と改善
17～20日パイロット援農
- 10月：フォーラム発表
- 11月：プロジェクト報告書作成と引継ぎ
- 12月：終了



10

6月 7月

- ・ JAひだに交渉してプロジェクトに協力可能な農家を探す。
- ・ 現状調査書を作成、協力農家のある飛騨地方にて現地の気候、生産している作物や農作業の方法について調査。
- ・ 飛騨地方にてJAひだと飛騨農家の現状調査の交渉。

11

事前調査

- ・ 飛騨地方の青果物の生産量の9割がほうれん草・トマト
- ・ 7月～11月が収穫シーズン
学生の夏休み時期に行きやすい！



12

【追手門学院大学×飛騨産出物組合 食育プロジェクト 資料】 関係組織：追手門学院大学・大阪府中央卸売市場管理（株）・大阪北部中央青果（株）・岐阜県大坂農産物流センター・飛騨産出物組合・JAひだ・JA全農岐阜
<https://www.dropbox.com/scl/fi/oh2716c1tb26az50tten4?1.pdf?rlkey=84ucd5d9c9z256e4t559we3t5&dl=0> JA全農岐阜大阪市場駐在所

事前調査

《農家課題点》

- ・ 飛騨市の農家構成：87.3%（経営規模の小さい自給的農家や第2種兼業農家）
- ・ 高齢化の進展に伴う離農者の増加が懸念される。
- ・ 地域営農組織の育成や、専門農家の基盤強化を図り、効率的な農業を進める必要がある。
- ・ 農家数の減少、農家の高齢化がより進行している。農村の人口減少。
- ・ 近年中に農業の担い手は急激に減少すると見込み。

「岐阜県の農村、農業を取り巻く現状・課題と今後の方策について」_【地域振興としての農業 (gifu.lg.jp)】

「飛騨市の農業の概要」 (https://city.hida.gifu.jp/uploaded/attachment/19164.pdf)

13

8月 飛騨調査

29日 30日

・ 飛騨^{そさい}蔬菜出荷組合

・ JAひだ

・ JA全農岐阜

・ 大阪府中央卸売市場管理センター

① JA施設視察

② トマト^{せんか}選果体験

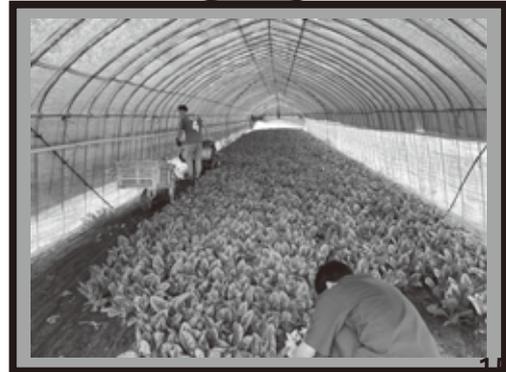


14

①JA施設視察

【ほうれん草の畑】

【選果場視察風景】



②トマト選果体験

【業務内容】

- ・ トマトの箱詰め
- ・ トマトのカゴ運び



事業モデル改善点

8月の調査を経て

- ・ 時給と費用の関係
- ・ 業務別募集
- ・ 業務内容の講習が必要
- ・ プロジェクトの目的のシフトチェンジ



19

生産現場は人手不足であったが、
飛騨ではより逼迫した状態に
あったのは J A の選果場 であった。

プロジェクトの目的のシフトチェンジ



JA

最盛期では5~6万ケース出荷される。
(1ケース:4キロ)
選果場でも人手が欲しい。

トマトの最盛期である7~8月は、
大学生の夏休み期間で行きやすい。



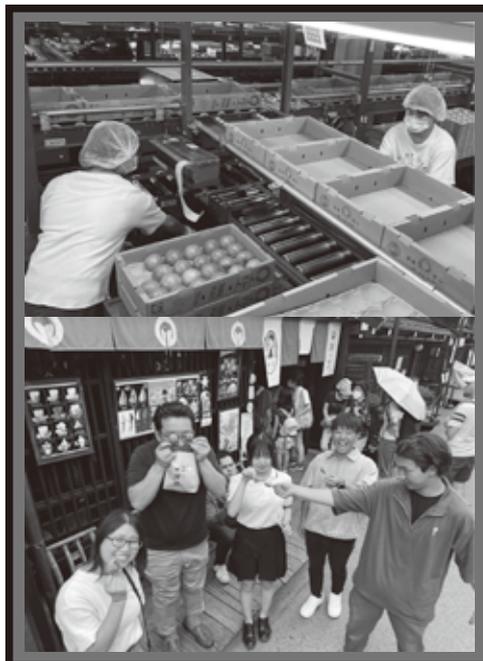
学生

18

パイロット援農

- ・支給：宿、1日3食、水、
 - ・業務内容：トマト箱詰め
 - ・日程：3泊4日
- { 1日目：飛騨移動、2時間業務
2日目：7時間業務
3日目：7時間業務、BBQ
4日目：飛騨観光

派遣学生は、飛騨牛BBQと
最終日の飛騨観光を楽しんだ。



事業モデル改善点

9月の援農を経て

- ・ 時給と費用の関係
- ・ 運営学生と連携先との円滑な運営、打ち合わせ等
- ・ 派遣学生のメリットの見直し



来年度の目標

- ・ 考案した事業モデルを始業する。
- ・ PDCAを回す。
- ・ マニュアルを作成。



20

次年度以降目標

- ・ 学校のSJ制度（スチューデント・ジョブ） の取り組みとしてのプロジェクトにする。
- ・ 大学の学生キャリア活動として、継続して続くプロジェクトになる。
- ・ 他大学生も巻き込んだ学生プロジェクトとして展開する。

21

参考文献

- ・ 『追手門学院大学×飛騨野菜出荷組合 食育プロジェクト 資料』 関係組織：追手門学院大学・大阪府中央卸売市場管理（株）・大阪北部中央青果（株）・岐阜県大阪農産物流センター・飛騨野菜出荷組合・JAひだ・JA全農岐阜
(<https://www.dropbox.com/scl/fi/oh27i6cltb25az50tten4/1.pdf?rlkey=84ucd5dggxg256o4t558we3t5&dl=0>)
JA全農岐阜大阪市場駐在所
- ・ 『岐阜県の農村、農業を取り巻く現状・課題と今後の方策について』 [【地域振興としての農業 \(gifu.lg.jp\)】](#)
- ・ 『飛騨市の農業の概要』
(<https://city.hida.gifu.jp/uploaded/attachment/19164.pdf>)

22

当日の様子



開会挨拶（須原部会長）



発表① 摂南大学 松塚健康プロジェクト、
地域医療実践演習



発表② 阪南大学 国際観光学部
松村嘉久研究室



発表③ 阪南大学 国際観光学部
松村嘉久研究室



発表④ 8大学 公衆栄養関連学部各ゼミ



発表⑤ 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部
ボランティアバンク学生有志



発表⑥ 大阪公立大学
ボランティア・市民活動センターV-station



発表⑦ 大阪電気通信大学 工学部建築学科
北澤研究室「Create for Smile」



発表⑧ 大阪経済大学 経営学部
古賀敬作ゼミ



発表⑨ 追手門学院大学
追大学生援農プロジェクト



アイスブレイク（感想の共有）



推進委員 講評
(尾山推進副委員長)



閉会挨拶（久推進委員長）



交流会（写真クイズ）



交流会（グループワーク）



全体写真

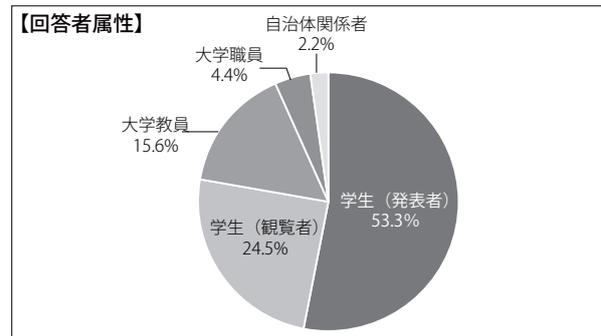
参加者アンケート

(回答者数 46名)

Q1 回答者

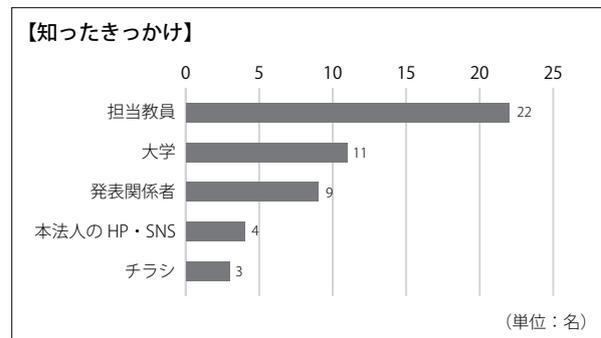
1	大学教員	7
2	大学職員	2
3	学生（発表者）	24
4	学生（観覧者）	11
5	自治体関係者	1
6	産業界（企業等）関係者	0

※無回答1名



Q2 イベントを知ったきっかけ（複数選択可）

1	フォーラムのチラシ	3
2	大学からの案内	11
3	担当教員からの案内	22
4	発表関係者からの案内	9
5	大学コンソーシアム大阪のHP・SNS	4

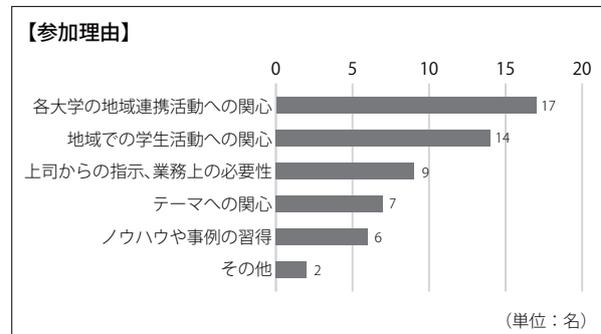


Q3 参加理由（複数選択可）

1	本フォーラムのテーマに関心があったから	7
2	各大学の地域連携活動に関心があったから	17
3	地域での学生の活動に関心があったから	14
4	地域連携活動のノウハウや事例を学ぶため	6
5	上司からの指示、業務上の必要性があったから	9
6	その他	2

【その他】

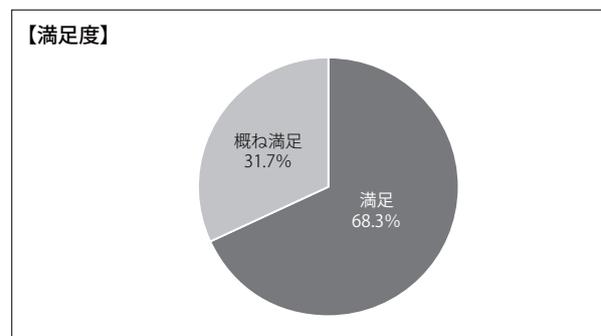
- ・教員からの薦め
- ・連携している大学間で昨年度より発表を計画していた。



Q4 本フォーラム全体の満足度

1	満足	28
2	概ね満足	13
3	満足出来ない点があった	0
4	不満	0

※無回答5名



【上記を選んだ理由】

満足

- 学生が日頃の研究・調査・学習の成果を発表する機会があることは良いことである。また、それを地域の方々が見聞き出来ることも良いことであると思う。
- 学生の社会貢献内容について参考になった。
- 運営もスムーズで、質疑応答も活発だった。
- 学生を中心に運営しているのが特に良かった。
- 発表する機会があると自身の活動を振り返るきっかけになったため。
- 様々な大学、学部との取り組みを知ることが出来、視野が広がり勉強になったため。(他4名)
- 新しい知識や、新たな課題についても多く学ぶことが出来た。
- 交流や活動報告が充実していた。
- 他大学の学生と交流が出来て楽しかった。
- 発表学生は皆、意欲的でしっかりされており、感心する。

概ね満足

- 他大学の学生の様々な取り組みを知ることが出来た。(他1名)
- 様々な地域への関わり方があることを知った。
- 発表間にアイスブレイクとしてブレインストーミングが行われていて良かった。
- 他大学の方と交流出来る機会があり、楽しかったため。(他2名)
- 緊張感を持って発表出来たため。

Q5 フォーラムの継続について

1 毎年続けてほしい	38
2 テーマや場所、時期を変えて続けてほしい	2
3 あまり続けてほしいと思わない	0
4 その他	1

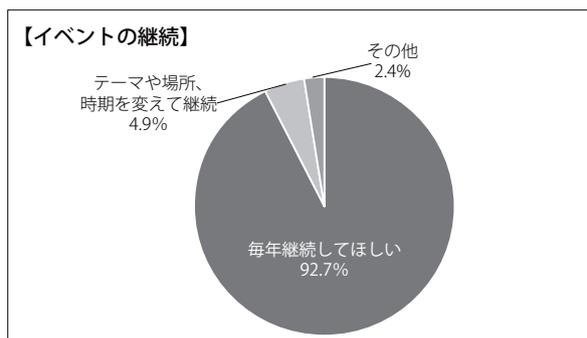
※無回答5名

【その他】

- どちらでも

【上記を選んだ理由】

- テーマや場所、時期を変えて続けてほしい
- 10月は授業期間であるため、授業の無い2～3月等も良いのではないか。

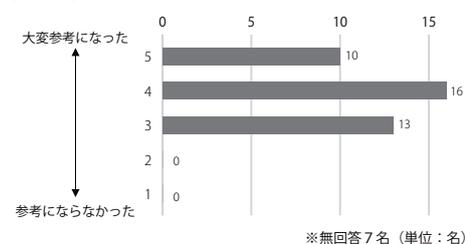


Q6 発表内容について興味・関心をもった点

① 摂南大学 松塚健康プロジェクト、地域医療実践演習
「超高齢化地域における住民中心の健康づくり活動への支援」

- 高齢者の認知機能に配慮した冊子（健康だより）作りにとっても感心しました。
- 発表スライドp4のリスクの図は素晴らしい。
- 健康に興味を持っている高齢者が多いことが分かった。
- 自身の専門領域に近いので、地域での健康づくりに興味を持った。
- 地域の連携先に関心を持った。
- 授業で地域医療の実習があることに興味を持った。
- 現地調査や事前調査が詳しく行われており、興味が湧いた。自身が病気を持っているため、将来のことを考えるきっかけになった。

【参考度】※5段階評価

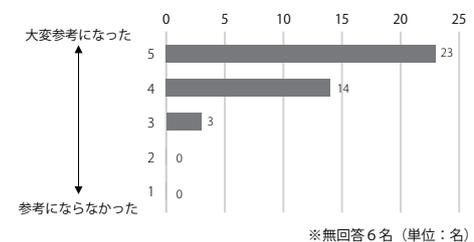


- 高齢者の方々や子供達と関わり、住民中心の健康づくりを行っていて、地域を活性化させるプロジェクトだと感じました。
- 地域住民の方へ学生側から働きかけることが、自分からはなかなか行動出来なかった高齢者もターゲット内に入り、地域の健康度合いについて多く知れそうだと感じました。
- 高齢者の方と子どもの接し方では異なる工夫を施していたことが参考になった。(他1名)
- 高齢者と子ども両方にアプローチした点に興味を持った。
- 「超高齢地域の健康づくり」というテーマにも関わらず、夏休みこども塾で高齢者のみでなく子どもにも対象を向けられている点に興味を持ちました。
- 夏休み子ども塾に興味を持った。子どもが対象でキッズキャンパスと似ている。実験はすごく楽しんでくれそう。
- 専門的では無いものの医療免許がなくても出来る身体の間人ドックのようなアイデアが新しく面白いものだと感じた。
- 健康チェックを実際に学生が行っていたり、身近で触れ合える取り組みであることが良いと思った。
- 高齢化が進んでいく中で、独居の方や認知症が進む方がさらに増えていくと思うので、お互いの健康を見守りながら、個人の関心も高められるイベントの取り組みがとても意味のあるものだと感じました。
- 体力測定会や健康だより、健康学習会を実践し、対象地区の高齢者のフレイル予防につながっていると感じた。
- 課題→その対策となる活動を紹介していたのでスムーズに話が入ってきた。
- 良い取り組みですので是非続けてください。
- 健康チェックや健康だより等は行政サービスと時期や内容が被らないようどの様な調整をなさっているのか気になりました。
- 「フレイル」、「ロコモティブシンドローム」とは何か、言葉の補足をしてほしかった。

② 阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室 「西成 WAN の実働」

- 木を隠すなら森という発想に近い、アートで落書きを無くすという考え方に感心しました。事務局の機能を学生が担う上での負担度合いについてどのくらいなのか興味を持ちました。
- 発想が面白かったです。
- 落書きをアートに変更するまちづくり活動はとても面白く、新しいプロジェクトだと感じました。
- 自分の家の周辺にスプレーで絵が描かれている部分がある。何度塗りなおしても描かれてしまうため、この取り組みは解決策に良いと感じた。
- 落書きといういけないことだが諦められていた部分をアートに変えるまちづくり活動につなげることが新しく素敵だと思った。色々な駅から依頼をされているのがすごいと思った。万博に向けてまちを明るくするという考えが素敵。
- アートを使って地域に貢献していることに興味を持った。壁の落書きをうまく活かしながらアートをつくることによって地域に貢献していた。
- 芸術を使った町おこしは良いアイデアだと思った。
- よく見かける「街のアート」に、こんなアプローチで取り組んでおられることに感動しました。
- アートによって西成がどんどん素敵な町になっていっているのが伝わり、とても良い活動だと感じた。
- 落書きを防ぐということだけでなく、アートによって地域の賑わいにも繋がる内容で新しい発見でした。
- 色々な人を良い意味で巻き込むような活動で素晴らしかった。
- 落書きをアートに変える取り組みを大学生がやっているということがすごく話題性がある面白かったです。国内外のアーティストをどうやって呼んだのか気になりました。

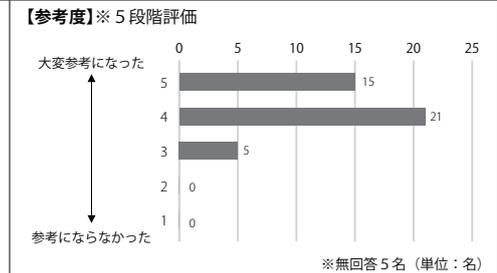
【参考度】※ 5段階評価



- まちづくりとアートの融合、落書きを消すことから本気のアートで人を集めることへの発想の転換や、アートを旗印にアーティスト、学生、子供達、企業が集まってくること、継続して活動することで、子供だった人が高校生、社会人となってまた手伝ってくれるという循環に興味を持った。
- 地域の美観だけでなく治安の維持向上にもつながる素晴らしい取り組みだと思います。特に地域の子供達や日本や世界のアーティストとの協働もある非常にグローバルな観点があり参考になりました。
- 「アートを中心にしたまちづくり」は多様な人の関心と呼ぶと思います。
- 心無い言葉をアートで塗り替える活動や、国境を超えたアーティスト参加はすごく興味深い。
- どの作品も壮大で、サビ取りもしていることで綺麗にもなり、より活気づく点が良いと思った。
- クラウドファンディングによる資金調達を実現し、活動を実践しているところが参考になりました。資金調達を行う上でのコツを知りたいと感じました。
- クラウドファンディングや、マイナス面だった落書きを逆手にとった考えが興味深かった。
- 学生が主体となって活動していることに驚きました。学生と地域（阪堺電車）の関係性が濃く、素敵な活動だと感じました。
- 子どもも一緒に出来ることや、ダメな落書きをきれいな Art にすること、クラウドファンディングを資金としていることに興味を持った。
- 活動内容が面白そうだった。
- 映像と写真を入れる発表によってとても想像がしやすかった。(他1名)
- 街おこしの活動として楽しそうだと感じた。維持管理の難しさも感じた。
- プロジェクトを維持するのは大変です。頑張ってください。
- 壁に絵を描くのは勝手にしていることだと思っていましたが、むしろ書いてほしいという人がいることに驚きました。
- スプレーは身体にとって有害ではないのか。(特に小さい子供)

③ 阪南大学 国際観光学部 松村嘉久研究室
「復活!外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう!」

- 「大阪国際ゲストハウス地域」を活かした取り組みに興味を持った。地域活性化を外国人を巻き込んで取り組んでいる。
- 感じ方や見方が異なる外国人を取り込むのは難しいと思うがこれからも頑張ってもらいたいと興味がある。
- 最初はまち歩きをするよりも大阪の定番観光スポットを行った方がいいのではと思いましたが、地元の学生と一緒にまちを歩くと普通の旅行よりも日本のことも知りやすいからとても良いプロジェクトだと思いました。何よりも楽しそう!
- バックパッカーに着目した「まち歩き」という観光の形や、日常と非日常の狭間を観光資源化することで、日本の日常に目を向けてもらう、本当の魅力に気付いてもらうきっかけを作ったことに興味を持った。
- 日常、非日常の視点、回復力のある活動、まち歩きのユニークさ等、素晴らしい視点だと思います。また、堂々とした発表も素晴らしいです。
- まち歩きのコースを「ありふれた日常」と「ささやかな非日常」という2つの意識を持つところがユニークだと感じた。具体的にどんなスポットがあるのか気になった。海外での日常に目を向けるという視点の違いがあるところが学びになった。
- 活動のフィールド選びが大切であることを知った。
- 外国人旅行者と一緒にまち歩きをすること、定番コースだけではなく地域住民しか知らない場所や新たなコースを案内することは、国際交流が出来るととても楽しそうだと感じました。
- 自身も大阪の観光プランを実際に考える時にこれといった行く場所がなくUSJ くらいしか思いつかなかったためとても共感した。若者らしい考えだと思った。10年間も続けられている点に興味を持った。



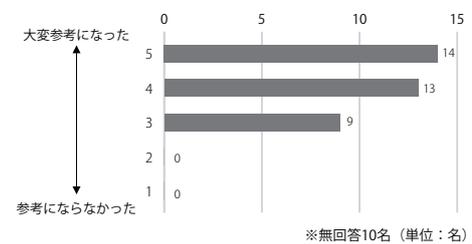
- 大阪の「ゴチャゴチャ」は批判的にとらえられているが、同時に魅力としてもとらえている点が興味深かったです。
- 日本に来られた外国人にとって、日本人ならではの観光地を紹介する発想が新鮮であった。
- 前日や当日にチラシを配って外国人の方が集まるのはすごいと思った。フランクに話しかけてくれるフレンドリーな性格が活かされていて、学生側も実際に交流出来る点が良いなと思った。
- 外国人観光客という今後問題になっていくであろう内容に関連しており、興味が湧いた。
- 先代の経験がないにも関わらず、ここまでまち歩きを復活させている行動力がすごいと感じました。
- コロナ禍で経験の継承が難しい中、力強い学生の意気込みに力づけられました。
- 全て自分達で行っているのがすごいと思いました。
- 学部ならではの外国人との交流は、貴重な経験でとても良い活動だと思いました。
- 外国人と関わったまち歩きの取り組みがあるということを全然知りませんでした。西成WANとも繋がっている部分が良いと思いました。
- 2025年の万博に向けて、是非とも若い「チカラ」を外国からのお客様をおもてなしすることに注いで、大阪（日本）に来て良かったと思っていただけると良いですね。
- やる気があってよかった。万博もあるので今後盛り上がりそうです。
- とても魅力的な内容だった。
- 地域と外国人観光客の両方に喜ばれる企画で良いと感じた。今後内容がもっと広がり充実していくことを願っています。
- 経験・思い出が今後残る点に興味を持った。外国人観光客との会話はどうしているのか。
- 対外国人向けのまち歩きを企画する際に、旅行期間内にどのように周知をするのか具体的な方法について知りたくなりました。
- まち歩き前までの事前準備の様子があれば更に良かったと思います。

④ 8 大学 公衆栄養関連学部各ゼミ

「府内 8 大学連携『もったいないやん! 食の都大阪でおいしく食べきろう』学生プロジェクト」

- 災害用備蓄食品のリメイク等は、期限切れ対策だけでなく、実際の災害時における食事の単調さを解消することにも繋がると感じました。
- 実際にレシピを考案している点に関心を持った。
- スーパーマーケットのキャンペーン「野菜の保存方法」、「残りがちな野菜メニュー」はとても興味深いキャンペーンだと感じた。(他1名)
- 食品ロス削減行動につながる具体的な情報をインターネットで発信していることに興味を持った。若者がよく使うインターネットに視点を当てて、レシピ動画を上げたり、大阪府のホームページに載せている。
- 媒体をうまく活用することで、より効果的な発信を続けている点や、ワークショップを継続開催することで、毎年内容を更新し、時代に合わせた発信を続けている点に興味を持った。
- 食品ロス削減の話題は多く、どの程度取り組みれば成果がでるか難しそうであるが、若い世代が関わっていることで、変わることは多そうです。
- 社会的意義の大きいプロジェクトだと思った。
- 食品ロスについて自身があまり意識を持っていなかったのが、食品ロスについて考える良い機会になりました。
- データが多く信憑性が高いと感じることが出来た。
- 行政との連携がしっかり出来ているところが良かったです。また、8つもの大学の連携はなかなか出来ることではないと感じました。
- 大学同士の連携により、各大学での考えがたくさんあるため多くの案が出ると思った。
- 対面で8大学でお打ち合わせされたことは大きな意義であったと思います。

【参考度】※ 5段階評価

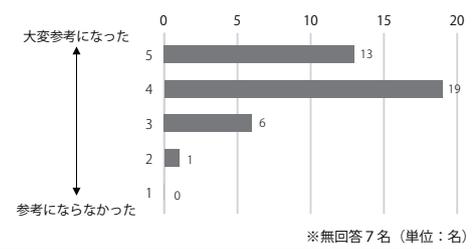


- 大学同士の連携活動で目を引くものがあった。テーマ自体の解決が難しいと思うが、このような活動が増えれば解決に近づくと考えた。
- 管理栄養士を目指す8大学が協働しているのが他には無くて面白いと思いました。(他2名)
- 8つの大学の連携は難しさもあると思うが、多くの学生の力が結集し、色々なことが出来ると再認識した。
- 廃棄される理由をベースに議論はありましたか。原因についての内容があると更に良かったと思います。
- 一人一人に啓発するのが難しかったとのことであるが、イベントの集客をどのようにしているのか興味を持った。店・スーパー・自治体との連携は難しそう。

⑤大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部 ボランティアバンク学生有志
「子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり」

- 地域や学校との連携の仕方が興味深かった。
- 学生にとってもたくさんの経験になるし、触れ合いを通じた子供の居場所作りが素敵。学童等で子供達が触れ合うことの出来ない大学生との交流でどちらも学ぶことが出来る。
- 学部やゼミ単位でなく、学部・学科・学年を問わず企画することで、より地域と大学の繋がりが強いものになるということが伝わりました。
- 動画や写真が多く、空気感が伝わった。子供達と大学生の互いの印象が変わるという結果が生まれたことに興味を持った。
- 小学生と触れ合う場があることで、楽しい交流の場となるし、人との接し方を実践で学ぶことは将来的にもとても役立つものだと感じました。
- 子どもが相手等で意外と難しそうなお点があったが創意工夫がされていた。(他3名)
- キッズキャンパスというアイデアが新鮮に感じました。
- 小学生という成長期真っ只中の年齢層をターゲットとしていて、関わり方が難しそうに感じましたが、大学生も小学生も思い出になる良い活動だと思いました。
- 子どもが対象である点に興味を抱きました。子どもの視点から参加したいと思えるイベントばかりで魅力を感じました。
- 縁日やお楽しみ会の内容を考え、チラシを作っていて楽しそうだった。子供にも楽しんでもらえるような内容が多く、良いと思った。
- 小学生の子供達に楽しんでもらうために、企画・準備・運営を学生で全て行っているというところに関心を持ちました。
- 子ども達と学生の触れ合いを通じた居場所をつくることによって、子ども達は楽しみながらコミュニケーションをとることの大事さ等を自然と学んでいるのだと感じ、とても良いイベントだと思った。
- 自身も小学生のときに大学生がボランティアと一緒に遊んでくれるイベントに参加して楽しかったので、子供からも小学校側からも愛されそうなプロジェクトだと思いました。
- 大学生と小学生という組み合わせが面白かった。自分が小学生の時に、このプロジェクトがあれば…とうらやましく思った。
- 多様な人との合意形成は大変だったと思います。よく乗り越えてこられたなと思います。
- 企画・運営は大変だろうが、良い経験が出来ていると思った。
- 22年度に行った「縁日」イベントで300人を超える集客を実現されたところが気になりました。どんな集客方法を行ったのか興味を湧きました。
- 小学生との交流は、大学生にとっても学ぶことが多いと思います。この取り組みが続き、さらに他校区にも広がるといいですね。
- 様々な個性の子供達がありますが、どのように共有して対応していたのか、具体的に説明があれば更

【参考度】※5段階評価



に良かったと思います。

- 前年度の取り組みを改善・継続し、学生をつながる場にも子供と触れ合う機会にもなっている点、学校の運営費を資金に使える点に関心を持った。大学生の活動は大人の目にどう映っているのか。
- 子どもに対する接し方の指導は練習したり、共有したりしましたか。小学生時代の記憶は大人になった時にでも思い出として残るので、素晴らしい活動だと思います。その反面、嫌なこと怖いこともトラウマとなって思い出したりしてしまうことがあります。小学生にとって大学生は大人。
- 当日集まる学生で運営している点、学生主体で企画し、実行している点が自身の活動と似ていると思った。地域協働センターから運営費が出ている点は驚いた。(大学からの持ち出しというのは真の協働か。) 引継ぎ、継続という面でのこだわりが気になる。
- 参加学生の感想から、何を思ったか、成長出来たかを知ることが出来た。

⑥大阪公立大学 ボランティア・市民活動センターV-station 「シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”」

• スマホを使った地域活動に関心を持った。お年寄りに話を聞きながらスマホのどんな操作が分からないのかという点を聞き出して伝えることに加えて、コミュニケーションの増進にもつながってとても良いと感じた。

• 堺市に住んでいるので「スマホ相談会」については広告等でよく目にしていました。私達若者は何気なく簡単に使いこなしているが、高齢者の方にとっては大変なことだということは新たな気づきでした。

• 参加する際のハードルを下げる工夫もされていて素晴らしかった。

• スマホを使い慣れていない人達に、スマホの使い方の説明を積極的に行っているというところが素晴らしいと感じました。

• 自身もちょうど昨日、祖父からスマホの使い方を聞かれたので、こういう講座が身近に広まれば良いと思った。

• スマホを使い慣れている学生が高齢者の方への支援を行っていてニーズに寄り添っているなと思った。

• 実際に自分の祖母に見てもらいたいと思うような内容であった。

• フリー相談形式で開催出来、あまり準備が要らない点が良い。

• 単独開催ではなく、既存の場を活用するという発想が良かったです。

• 講座開催時や啓発方法の伝え方として、日常生活の場で機会を設けることで参加を促しやすくしている点がすごいと思いました。

• 学生が「対応出来る・出来ない」を予め分けて対応出来るようにする工夫がされていてすごいなあと思いました。

• ななめの関係の構築、大事な視点だと思いました。

• 消費生活センターとも共同しながら問題点の共有化等のさらなる発展を期待しています。

• 学生によるスマホ相談の位置づけをしっかりと確立されている部分が、聞いていてとても良く理解出来ました。ボランティアを続けていけない、というのは課題であり、そこに焦点を当て、「コミュニティバイト」という提案に納得出来ました。

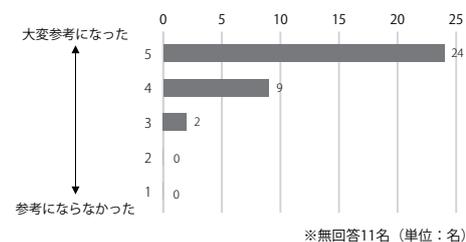
• 地元で相談が出来る場があることは、すごく良いことだと思うので素敵な取り組みだと思った。フリー相談会を設けて、どんなことでも聞けるようにしていることは良いと思った。発表が上手すぎました。

• プレゼンテーションがとても上手。高齢者にこんなにスマホが必要となっているとは知らなかった。スマホ相談会の需要は高いと理解した。孤立を防ぐうえでも良いと思う。

• プレゼンの工夫がされていて一番内容が頭に入ってきた。ご高齢の方にスマホの使い方を教えるだけでなく、学生と高齢者の交流の場になるのが素敵だと思った。

• スライドの情報が簡潔でとても見やすかった。プレゼンが上手。

【参考度】※ 5段階評価

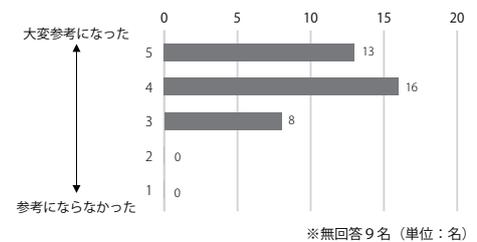


- 理解しやすい、聞きやすい発表だった。これからもスマホ時代に必要な取り組みである。
- 問いかけがあり、自分のこととして考え易かった。理想を提示しており、関心が湧いた。
- 呼びかけたり、手を挙げてもらったり見ている人も巻き込んで発表してとても面白いと感じた。
- プロの講師かと思うくらい説明が上手かった。
- 具体を抽象化、5W1H、ナナメの関係、仕組み、GIVE & TAKE、Forそしてwithへ等参考になりました。ご本人の想いをもっと聞きたかったです。

⑦大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」
「既存団地の活性化」

- 昨今減りつつある団地やそれに伴うコミュニティに対しての活性化に着目したということに感心しました。
- コロナ禍や防犯対策等により、最近では地域交流が減っていると聞いたことがあったため、学生が昔の活気を取り戻していることが素敵だと思った。誰も見ていなかったところに着眼していることが良い。
- 水を起こす提案はユニークな視点だと思います。移動販売、モビリティバスに加えて、小さいEVもあればさらにユニークかと思います。素晴らしい提案です。
- 自分達でWebサイトを使ったり、間取りを作ったりと、さすがは大阪電気通信大学だと感じました。
- 団地に着目している点が建築学科らしく、ファサードやウッドデッキ等よりよくするための提案が多く、素敵だと思った。
- 団地をデザインしたり、団地の活性化を提案したりと建築学科の学生らしいプロジェクトだと思った。
- 団地の高齢化、空き室利用は他地区でも問題となっている。ぜひ実践として、団地再生の他のモデルとなってほしいです。
- 既存団地に目を付けるのは新しいと感じた。
- 団地の改良に着手していて楽しそうだった。
- 自身が団地に着目したことが無かったので、学びになりました。カラーファサードは見たことが無かったり、知らないことが多かったですが、生活する上でどういう改善が出来るかを考えるきっかけになりました。
- 地域住民を巻き込んでいたのがすごいと思った。
- 設計図等がありイメージがしやすかった。
- 課題に対しての提案があり、すごい発表だなと思った。あまり触れてこない建築関連の話の聞けたためになった。設計のデザインを考えるのは大変そう。
- 住民の声を聞きながら団地を作り上げる点に興味を持った。まだ取り組みが認知されていない状態からイベントを開催して集客をし、地域と団地を活性化させながら発展させていっている。
- 資料がとても見やすかったです。「団地」にフォーカスしてまちづくりを考えていくところに興味を抱きました。団地は一つの地域にまとまって多くの人が暮らしているからこそ近所づきあいが必要になると思います。その近所づきあいが年々薄くなってきている現代において、大学がプロジェクトとしてサポートするところが素晴らしいと考えました。
- 団地まちづくりの計画がとても具体的に出来ていると感じた。
- 計画が非常に丁寧であった。
- 団地ならではの問題に着眼することで、より特定の人をターゲットに出来、広い範囲で行う活動よりも実現可能性が高いように感じました。
- コスト・規模が大きなものだと思うがしっかり行動・提案が詰められていた。
- 段階を踏んで着実に進めている点に興味を持った。ボトムアップで提案をつくり、その後実行までどうするのか、実行プランをどうするのか気になった。国土交通省のモデル事業になっていて、ある程度担保している点はすごい。

【参考度】※ 5段階評価



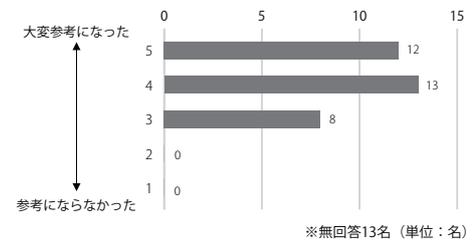
- 実現性はどうかと考えていたが、予算もある程度あり、実現性もあるとのこと、頑張ってもらいたい。(やはりマスタープランはある程度欲しい。) 坂が多いのが不備とのことだったので、買い物環境改善も必要ですね。
- 実際に住むことで内容にも説得力がありました。コンビニに代わる移動商店等があればと思いました。

⑧ 大阪経済大学 経営学部 古賀敬作ゼミ

「大学・学生発：SDGs イベントの実践と効果 - SDGs × 地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化」

- 地域コミュニティを創造することがどれだけ大変か、ゼロから作り上げるための工夫等が知れて良かったです。昨今のキーワードである「SDGs」について取り組んでいく地元企業との関わりが参考になった。
- 地域の隠れた魅力を再発見、普及していくすばらしい活動だと思います。
- 自身もSDGsに関するゼミに所属しているため、とても興味深い活動内容だと思った。今後さらに企業と大学が協力し、SDGsの目標達成に貢献出来れば良いと思った。
- 今話題のSDGsに目を付けてプロジェクトを行っており、興味深かった。
- 課題解決に至るまでのこれまでの取り組み出来ちんと土台づくりをされていると感じた。
- 地元の企業に着目した点に興味を持ちました。
- 東淀川ロールやろ紙を使ったLEDライト等、企業が行っている内容もわかり、良かった。
- 動画があり、活動内容のイメージがしやすかった。今後のイベント活動に興味が出た。
- 水につけて発色していたLEDライトに興味を持った。実際に発表者が見せてくれて想像以上に発色がよく綺麗だった。子ども達が喜びそうなイベントだと思った。
- LEDライトの体験はとても楽しそうで、子どももSDGsに身近になれる良い機会だと思いました。
- SDGsについて大学で研究をしているため、水で光る電池に興味がありました。
- ろ紙を使ったLEDライトはシンプルにすごいいと感じました。さまざまな角度からSDGsについて考えられると再認識出来ました。
- 水で光るライトはすごく不思議に興味を持った。(他1名)
- 災害時等に実用出来るものを作って、SDGsにも貢献してほしい。
- SDGsという話題性のあるテーマを用いて地域へ貢献していくという点に興味深いいと感じました(他1名)。アンケート等で多くの声が集まっているので、そこからまた色々な取り組みが出来るのではないかと思います。大学生が介入していくことで企業としてもSDGsへの取り組みをアピール出来る良い機会になるのかなと思いました。
- 都市部における地域活性となると、地域住民組織とどう連携するかも大切かと思います。
- 魅力とは何か、何を魅力と考えるのか、様々な視点があるのでそれについて考察があると更に良くなったかと思いました。
- 各企業により、SDGsに関わりのある内容が様々なので、取り組みの難しさを感じた。
- SDGsに取り組む企業を発信するのは良い取り組みだと思った。ただ、これをどうしていくのか、どこに向かっていくのかが分からなかった。

【参考度】※5段階評価

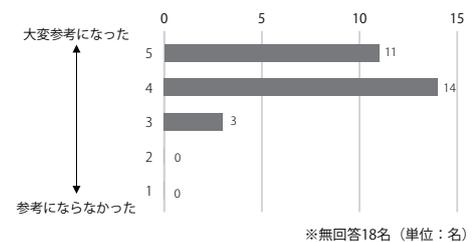


⑨ 追手門学院大学 追大学生援農プロジェクト

「農家人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる」

- 農業の人手、若手不足は深刻と聞くので大学として関わっていけるのは良いと思いました。実際に現地に行って新たな課題を直接感じ取ることが出来る貴重な経験だと思います。
- 始動プログラムで難しいところもあったと思うが、これからもこのようなビジネスをしていってほしい。
- ユニークな取り組みです。
- 農家不足という問題に対して、実際に事業を行っていることがすごいと思った。援農のプロジェクトは派遣学生のことも考えられており、良いプロジェクトであると思った。
- JA との連携が面白いと思った。
- 日本の農家が減っていることは知っていたが、その問題を解決するために行動している姿を見て、見習いたいと思った。
- 農家は減少傾向で人手不足が現状なのだと改めて感じた。色々な企業や農家の方と連携してすごいなと思った。
- 農家、派遣学生、運営学生それぞれのメリットがあることで、プロジェクトがうまく実行出来る仕組みが分かりました。
- 農業と人手不足に関する活動だったため、発表④の食品ロスとの関係があると思った。
- 現場のリサーチの重要性を感じた。
- 学生の雇用と生産現場の課題の両面を考えたビジネスプランを考えようとしているのだと思った。
- 人手不足の解決策として一時的であるかもしれないが、繁忙期に学生が手を貸すのは良い案だと思います。
- どこまで支援するのか、ビジネスまで発展させるのか、方向性を決めると次のステップが変わってくると思います。
- PDCA サイクルを回し続けて欲しいです。頑張ってください。プロジェクトが続くことを願っています。他大学を巻き込むことが出来るといいですね。
- 事業モデルとして成り立つのか、大変さを感じた。

【参考度】※ 5段階評価



Q7 フォーラム全般の感想や意見

【発表者】

- 学生という立場で出来る活動について様々な分野からの活動報告を知ることが出来て、面白かったです。
- 各団体は色々な分野から様々な角度で現代社会における問題点を取り上げられていて、学生らしいのはもちろん、その分野の学生だからこそ、考えることが出来る問題があって面白かった。学生達が考える問題だからこそ、自分達ももしかしたら解決出来るような改善点が多かったのも勉強になった。
- 他大学の学生と交流も出来て、プロジェクトの成果発表も出来たため、楽しく参加出来ました。
- 楽しかった!!
- 他大学の取り組みを知れて非常に参考になりました。ありがとうございました。
- 普段関わる事のない学部の活動を聞くことが出来、大変良かったです。
- 他大学の発表を聞き、こんな興味深い取り組みをされているんだと感じ楽しかった。特に西成 WAN が印象に残った。
- 普段生活しているときには絶対知り合うことが出来ないような人達とお話出来る貴重な機会でした。
- 他大学の多種多様な活動を見たり聞いたりすることが出来、刺激を受けた。コロナがなければもう少し活発で出来ていた面もあったのかなと感じた。自身の所属と全く異なる学部のことを知ることが出来、吸収することが多くあった。

- 他大学の学生のプロジェクトの話を知ることが出来てとても楽しかったです。
- フォーラムに参加するまでは全然知らなかった取り組みや考えが多く、新しいことを沢山吸収出来る機会でした。日頃生活していても気が付かない視点であったり、自分自身の視野の狭さも実感出来ました。
- 自大学では着目しないような所に着目して問題を解決しようとしている点が見えたので、どのチームの発表も聴いていて飽きることがなく楽しかった。
- アイスブレイク、交流会無しで短縮してほしい。

【観覧者】

- 学生の交流が出来て良かったと思う。学生のアイデアが豊かで参考になったと各学生も感じたと思う。
- 学生の力の大きさを感じました。地域連携の様々な形を学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
- 学生が運営しているところが良いと思います。他大学が何をしているか、深く知る良い機会です。これからも続けていただきたいです。
- 学生がつながる上ではとても良いと感じた。教員がかなり関わっているものもあり、学生独自のものがどの程度あるのか？本アンケートにもあるが、参加学生の考えや参加動機を聞いてみたい。（また、教員がどの程度関わっているのか等も。）
- 同年代の大学生がどのように活動し、どのような形で地域に貢献しているかを知ることが出来て良かったです。
- 学生・職員の方々とアイスブレイク等で交流することが出来、普段話さないような方とも話すことが出来てとても楽しく、良い経験をする事が出来ました。
- 自分達が地域の課題を見つけてからプロジェクトを考えるまで、学生で可能な範囲で探すのが難しかったのですが、今回様々な大学の方の考えを聞いて「こういうことが出来たのか」等たくさん学ぶことがあり、このような刺激をもらえる場を大切にしていきたいと思いました。
- 他大学の活動が知れて力になった。発表やパワーポイント等参考になった。
- 他大学の活動を知ることが出来た。内容それぞれ違いがあったが、社会貢献したいという思いは同じだと思った。
- 普段学生生活を送っているだけでは関わらないであろう機会でも、本日参加してそれぞれの大学のプロジェクト、取り組みについて知ることが出来て自分自身への刺激になりました。
- 様々な活動を見ることが出来、新たな視点を得ることが出来た。他大学の方との交流も出来、楽しかったです。アイスブレイクがあり、話がしやすい雰囲気が出来あがり盛り上がりました。

Q8 学生運営メンバーへのメッセージ

- 大変だったと思います。良い内容でした。
- 企画・準備共にお疲れ様でした。当日の運営もスムーズで発表者、観覧者双方無事に終了出来たのは皆さんのおかげだと思います。本当にありがとうございました。
- お疲れ様でした。各団体、関係者との連絡や段取り、大変だったと思いますが、特に問題も起きずに無事に開催出来た事に感謝します。
- 明るく盛り上がるような司会が良かった。アイスブレイクの時間に詳しく質問が出来た。
- 司会の方がとてもうまく回されていた。時間配分もしっかり考えて話されていて、さすがだと思いました。
- ご丁寧な対応ありがとうございました。
- スムーズな運営ありがとうございました。お疲れ様でした。
- ご活躍、期待しております!!
- 円滑に進めていただき、ありがとうございました。
- 準備から司会、タイムキーパーまでくださりありがとうございました。
- スムーズな司会・進行・運営お疲れさまです。

- 企画・運営大変お疲れ様でした。貴重な機会で学ぶことも多く楽しかったです。ありがとうございました!!
- イベントを盛り上げていただき、ありがとうございました。
- 一日お疲れ様でした。司会進行によりスムーズに発表が出来たと思いました。アイスブレイクも楽しかったです。素敵な機会をありがとうございました。
- 運営メンバーのみなさんのスムーズな運営で良かったと思う。
- 学生の皆さん、準備段階からお疲れ様でした。ありがとうございました。
- 学生同士連携しながら色々なところと調整するのは大変だったと思います。社会人になって、きっと役立つと思いますので、これからも活動を続けてくださいね。
- 色々準備大変だったと思います。お疲れ様でした。学生の視点からの企画・運営は学生が参加する上でとても魅力があると思いました。
- 企画・運営ありがとうございました。他大学や他学部の方と関わる機会は滅多にないので、アイスブレイク等を通じて気軽に交流出来る場を作ってください、より多くのことが知れたと思います。多くの準備により、円滑に進めてくださりありがとうございました。
- 日々の大学での勉強・活動の中での企画・運営お疲れ様でした。これらの経験は社会に出てもきっと役立つことと思います。

学生運営メンバー 活動実績

1. 活動スケジュール

回	活動日	検討内容等
第1回	5月29日	キックオフミーティング (自己紹介、役割分担、テーマ・企画のブレインストーミング)
第2回	6月9日	ミーティング (テーマの決定、ロゴラフ案・企画案の検討)
第3回	6月21日	会場下見
第4回	6月23日	ミーティング (企画案の検討)
第5回	7月7日	ミーティング (企画案・広報方針の検討)
第6回	8月9日	ミーティング (企画・広報の検討)
第7回	8月30日	ミーティング (当日のタイムスケジュール、企画の調整)
第8回	9月25日	ミーティング (企画の準備)
第9回	10月18日	ミーティング (当日のタイムスケジュール、企画の最終確認)
第10回	10月22日	フォーラム本番の運営・企画実施

※その他、学生主導で企画・検討

2. 学生運営メンバー (7大学11名)

NO.	氏名	大学名	学部・学科	学年
1	杉田 侃音	大阪大学	工学部 応用理工学科	3年
2	富永 かのん	大阪大学	経済学部 経済・経営学科	1年
3	内田 裕乃	大阪学院大学	情報学部 情報学科	4年
4	川本 雅以	大阪商業大学	公共学部 公共学科	1年
5	小林 千夏	大阪商業大学	経済学部 経済学科	1年
6	中村 天真	大阪電気通信大学	総合情報学部 情報学科	1年
7	塩谷 心音	関西大学	社会学部 社会学科	2年
8	及川 日和	摂南大学	現代社会学部 現代社会学科*	1年
9	若山 菜々子	摂南大学	現代社会学部 現代社会学科*	1年
10	小松 悠乃	桃山学院大学	国際教養学部 英語・国際文化学科	3年
11	藤澤 真希	桃山学院大学	国際教養学部 英語・国際文化学科	1年

大学名五十音順

※大学の授業の一環として参加

3. 活動の様子

<p>テーマ・フォーラムオリジナルロゴ</p> 	<p>今年のテーマ「大阪の3つの輪・和・話～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～」には、コロナ禍で失われつつあったつながり・調和・対話を取り戻し、よりよい大阪を目指していこうという意味が込められています。テーマに基づいて、広報チームがオリジナルロゴを作成しました。</p>
<p>ミーティング</p> 	<p>運営メンバーの顔合わせとなるキックオフミーティングでは、それぞれの活動への想いや意気込みを共有しました。フォーラム当日までのスケジュールを確認しながら、広報、企画のチーム分けを行い、全員でフォーラムのテーマや企画のプレーストリーミングを行いました。</p> <p>その後回を重ねながら全員で交流会のアイデアを出し、企画チームを中心に企画のブラッシュアップを行いました。発表間のアイスブレイクや大阪写真クイズの企画では、発表者の緊張をほぐし、初対面でも参加者間で盛り上げられるような工夫を検討しました。</p> <p>また、広報チームが中心となり、SNSの運営や観覧者募集チラシの作成等の広報方法を検討しました。</p>
<p>フォーラム当日（10月22日）</p> 	<p>学生フォーラム当日。運営メンバーも緊張の中、本番を迎えました。</p> <p>大きなイベントを経験することが初めてであるメンバーが多かったにも関わらず、それぞれの役割を臨機応変に、また互いにフォローし合いながら対応し、滞りなくフォーラムが進行しました。</p> <p>また、運営メンバーのアイデアである交流企画では「万博後の大阪を想像してみよう」をテーマにSDGsが達成された大阪の姿をグループで話し合いながら、一枚の模造紙に描く企画を行いました。</p> <p>最後にそれぞれのグループの理想の街「大阪」を全体で共有しました。</p>

学生運営メンバーの活躍の様子



司会



受付



発表団体のサポート



会場案内



アイスブレイク企画



交流会企画



交流会企画



集合写真

学生運営メンバー アンケート

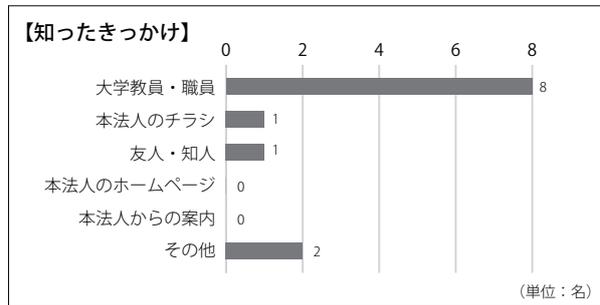
(回答者11名 設問1、2)
(回答者8名 設問3以降)

1. 学生運営メンバー募集を知ったきっかけ (複数選択可)

1	大学コンソーシアム大阪のホームページ	0
2	大学コンソーシアム大阪のチラシ	1
3	大学コンソーシアム大阪からの案内	0
4	在籍大学(教員・職員)からの案内	8
5	友人・知人からの紹介	1
6	その他	2

【その他】

- ・在籍大学の掲示板(他1名)

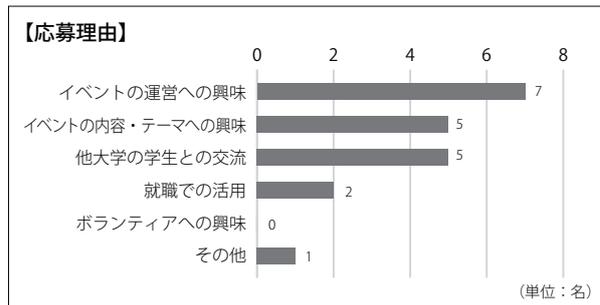


2. 応募理由 (複数選択可)

1	イベントの運営に興味があったため	7
2	イベントの内容・テーマに興味があったため	5
3	就職に役立つと思ったため	2
4	ボランティアに興味があったため	0
5	他大学の学生と交流したかったため	5
6	その他	1

【その他】

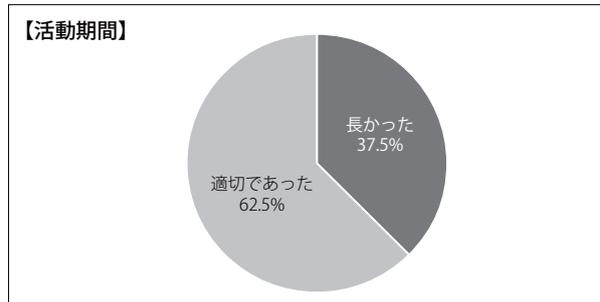
- ・新しいことに挑戦したいと考えていたため



3. 活動期間*について

*5/29~10/22の約5か月間

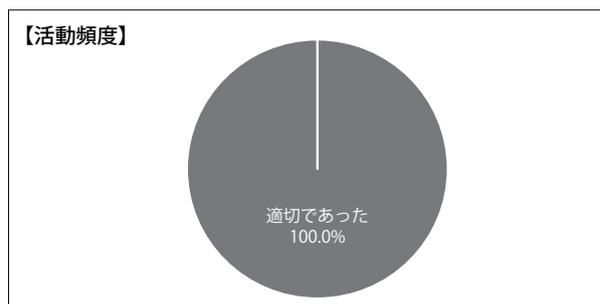
1	長かった	3
2	適切であった	5
3	短かった	0



4. 活動頻度*について

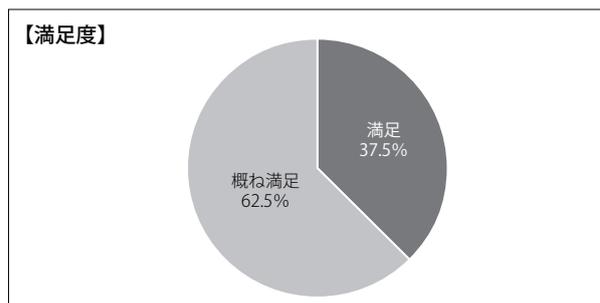
*全体ミーティング8回、その他自発的な活動も含む

1	多かった	0
2	適切であった	8
3	少なかった	0



5. 活動を通じた自身の満足度

1	満足	3
2	概ね満足	5
3	満足できない点があった	0
4	不満	0



【上記を選んだ理由】

満足

- ・初めてこのようなイベントの運営として携わり不安な点も多かったが、当日は大きなハプニングもなく、やり遂げることができてとても満足している。
- ・皆で意見を出し合って企画や広報を考えて準備したのが楽しかった。
- ・レベルアップできたと思うため。

概ね満足

- 準備の段階で全員集まるタイミングがなかなかなく、本番上手くできるか不安だった。また、もう少し事前に準備していれば良かったこと（投影スライドやアイスブレイクの席移動など）があったと思うが、当日は上手くいったと思うため。
- 事前準備の参加率が低く迷惑をかけてしまったが、当日の事務局の丁寧な説明のおかげでなんとか臨機応変に動くことができたと感じたため。
- 自身はあまり参加できなかったが、LINE等で個人的に連絡を取り合い、本番は上手くできた。
- 後半思うように活動できない日が多く、日程調整の難しさを感じた。
- 本番の練習を少ししたかった。

6. 活動を通じて、自身を成長させることができたか。

1 できた	7
2 できなかった	0
3 どちらともいえない	1

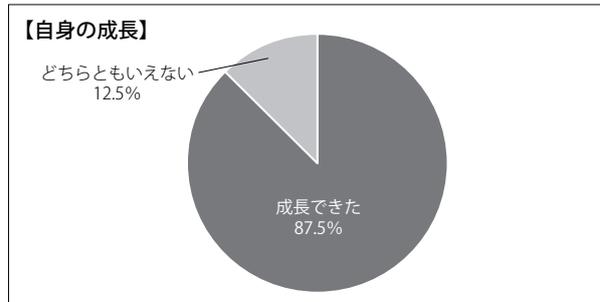
【上記を選んだ理由】

成長できた

- 普段関わらない他大学の学生と関わることができ、とても良かった。フォーラム当日は司会という慣れない仕事を担当し自分の力不足を痛感することもあったが、今後の鍛錬につなげていきたい。
- フォーラムのテーマや企画内容などを決めるミーティングで積極的に意見を出すことができたことや、クイズのスライド作成という大きな仕事をやり遂げることができたため。
- 自分から主体的に行動することができたため。
- 今まで人前に立つことを避けていたが、今回は挑戦できたため。
- 以前より積極的に意見を言えるようになったため。
- プレゼンテーションや運営のことを知ることで良くなった。
- 自身が楽しみながら、どのようにしたら円滑にイベントが進み、参加者に楽しんでもらえるか考えながら運営することができたため。

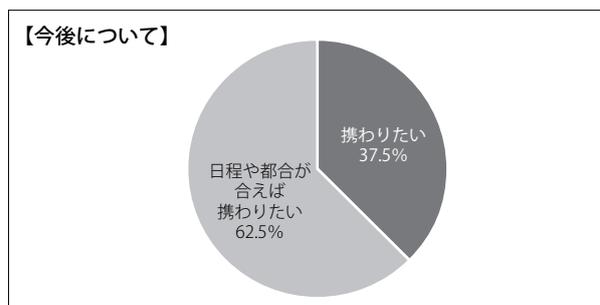
どちらともいえない

- 新しい学びを得たというよりは今までに得た学びを活かしたというイメージであり、成長というよりは過去に得た糧をより定着させる機会であったため。



7. 今後も同様のイベントの企画・運営に携わりたいか

1 携わりたい	3
2 日程や都合が合えば携わりたい	5
3 携わりたくない	0



8. この活動に参加した感想や上記で回答した以外の意見

- 他大学の人と1つのことに向かって頑張る事が出来たのがとても良かったです。メンバーの雰囲気も良く良かったです。
- 参加回数は少なかったものの、他大学の方と深く関わる貴重な機会を持つことが出来て良かったです。フレンドリーな方ばかりでとても楽しく活動できました。ありがとうございました。
- 在籍大学のFAL演習という授業で、たくさんのプロジェクトがあった中でこの活動を選択して良かったと思いました。他のプロジェクトではあまりない他大学・他学年との交流が本当に貴重な体験となりました。
- この活動に参加して良かったと思います。なぜなら、この経験が今後自分の人生の糧となると思うからです。
- 今回の企画や運営を通して色々な人に会えて、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- とても楽しく、勉強では知ることの出来ないことを知れました。
- 他大学の方と関わる機会があまりなかったので、活動を通じて関わる事が出来て良かった。
- 昨年度のノウハウを生かすため次年度に2~3人ほど同じメンバーが連続で携わる仕組みがあると良いと思った。

広報用チラシ (参考)

学生運営メンバーが作成しました。

地域連携学生フォーラム

in Osaka 2023

観覧者募集!

2023.10.22(日) 10:00-17:00 (予定)

グランフロント大阪 北館タワーC 8階
ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01 + C02

テーマ
大阪の3つの輪・和・話
～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～

今年の特テーマ・オリジナルロゴは
このイベントを皆さんの
交流の場にして、
大阪の輪を広げたいという
思いを込めました。
学生運営メンバーと一緒に
このフォーラムを
盛り上げましょう!!

**参加者の
交流企画も!**

- ・クイズ大会
- ・グループワーク
など

観覧のお申し込みはこちらから ▶ <https://forms.gle/2LxUx7eqN4an2F9oZ>
(会場観覧またはYoutube視聴)

詳細は大学コンソーシアムHPをチェック! **大学コンソーシアム大阪**

地域連携学生フォーラムとは

大学コンソーシアム大阪の
会員大学(40大学)に所属している学生が、
地域で取り組んでいる研究や
ゼミ、ボランティア、フィールドワー
などの活動について発表し交流する、
学生主体のフォーラムです。

**学生運営メンバー
SNSはこちら!**

開催までの企画の様子、
フォーラムの情報をチェック!



今年の発表(9事業)

大阪公立大学 大学ボランティア・市民活動センターV-station
・シニア層を主なターゲットとした“学生によるスマホ相談会”

阪南大学 国際観光学部 松村薫久研究室
・西成WANの美働
・復活!外国人旅行者と一緒にまち歩きへ行こう!

8大学(大阪公立大学・大手前大学・関西福祉科学大学・千里金剛大学・相輝大学・摂南大学・桐花女子大学
大阪電気通信大学) 公衆栄養関連学部各ゼミ
・府内8大学連携「もつないないやん!食の都大阪でおいしく食べまろう」学生プロジェクト

大阪国際大学 大阪国際大学短期大学部 ボランティアボランティア学生有志
・子どもたちと学生のふれあいを通じた居場所づくり

摂南大学 松原健雄プロジェクト、地域医療実践隊
・超高齢化地域における住居中心の健康づくり活動への支援

大阪電気通信大学 工学部建築学科 北澤研究室 「Create for Smile」
・既存団地の活性化

大阪経済大学 経営学部 志賀勲作ゼミ
・大学・学生発SDGsイベントの実践と効果 -SDGsx地域魅力発見で、関係人口の創出による都市部の地域活性化

進歩門学院大学 進大大学生課プロジェクト
・職人手不足問題をビジネス的手法により問題解決を試みる

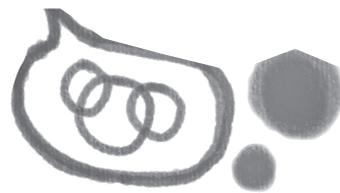
※エントリ一面に掲載

このチラシは学生運営メンバーが作成しました

【問い合わせ先】特定非営利活動法人大学コンソーシアム大阪(事務局 地域連携担当)

MAIL: chiki-renker@conso-osaka.jp (★を@に替えてください)

TEL: 06-6344-9560 (平日9:30-17:30)



特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-400

大阪駅前 第2ビル 4階 キャンパスポート大阪

TEL:06-6344-9560

MAIL:chiiki-renkei★conso-osaka.jp(事務局 地域連携担当)

★を@に変えてください。

URL:<https://www.consortium-osaka.gr.jp/>